

ONLINE アイデアコンペ！ 新安治川水門

新安治川水門アイデアコンペ（一般の部）

応募作品集

「新安治川水門アイデアコンペ・絵画コンクール」実行委員会

目 次

〈本コンペティションについて〉	1
開催趣旨	2
開催概要	3
審査委員会	7
 1. 審査結果	 8
総評	9
最優秀賞	10
優秀賞	12
奨励賞	14
審査員特別賞	17
 2. 応募作品	 18
001 新安治川水門と周辺地域および河川軸	19
002 守り, 干渉する すいもん	31
004 帰ってきた「まちみなと」 Benten Biennale	47
005 みなと暮らし ～まちを守り続ける水門に触れる～	61
007 NEW GATE ベイエリアと都心部を結ぶ場所	77
008 BENTEN 2050	93
009 新安治川水門アイデアコンペご提案書	109
010 「安治川いいであいプロジェクト」提案書	115
011 海の手門	131

〈巻末資料〉	147
募集要項	148

〈本コンペティションについて〉

開催趣旨

現安治川水門は、西大阪地域の高潮対策の根幹施設として、昭和 45 年に竣工した後、約 50 年もの間、住民の安全・安心を確保してきた重要な土木構造物です。現水門は、アーチ型という日本でも珍しい形式であることもあり、地域のシンボルとして親しまれてきましたが、老朽化により新たな水門を建設する必要性が生じています。

新安治川水門の建設にあたっては、昨今の社会情勢等を踏まえ、将来予測される気候変動による海面水位の上昇への対応や津波対策機能を付加することが求められています。

また、近年、現安治川水門を取り巻く周辺環境にも大きな変化が見られます。弁天町駅周辺や安治川下流域の開発が進み、今後は弁天埠頭の再開発や中之島～夢洲間の小型客船運行も検討されるなど、地域が賑わい、活性化する機運が高まっています。

これらの背景を踏まえ、新水門については、後世にも継承される優れたデザインを有し、現水門同様、地域の方々の安全・安心のシンボルとなることが期待されていることから、安治川水門の更新を契機として、「新安治川水門と周辺地域および河川軸」

のアイデアを募集するアイデアデザインコンペティションを開催しました。

本コンペティションの開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症予防を鑑み、チーム作りから、チーム内での議論、デザイン案の作成、提案発表まで、すべて 3 密を回避して在宅等で行えるよう、インターネット技術を最大限に活用したリモートコンペティション方式で実施しました。また、審査時のプレゼンテーションはオンラインで実施しました。

➤ 本コンペティションは、新たに建設する安治川水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観などについて、広くアイデアを募集し、新安治川水門の景観設計上のコンセプトおよび配慮すべき事項の参考とすることを目的としたものであり、提案内容の直接的な実現を前提とするものではありません。水門デザインやまちづくりへのヒントとして活用します。

開催概要

テーマ（対象エリア）※

「新安治川水門と周辺地域および河川軸」

- ① 新安治川水門および管理所敷地
- ② 弁天町周辺エリア（弁天埠頭・オーク弁天商店街等）
- ③ 安治川水域（中之島～夢洲）

■位置図

広域図



部分拡大図



※提案への要求事項（着眼点、制約条件等）の詳細については、巻末資料の「募集要項」を参照ください

応募条件

不問（ただし、提出物は日本語で作成、プレゼンテーションは日本語で実施）

提出物

説明資料（ppt、pptx 形式）/説明を補足する動画データ（mp4 形式）も提出可〈任意〉

賞

最優秀賞	賞状および賞金15万円（1作品）
優秀賞	賞状および賞金10万円（1作品）
奨励賞	賞状および賞金 3万円（3作品）
審査員特別賞	賞状（1作品）

実施スケジュール

募集要項公表	2021年 7月16日（金） /公式サイトを公開
質問受付期間	2021年 7月16日（金）～ 2021年 7月30日（金）16:00
募集要項改訂	2021年 8月 5日（木） /参加登録期間の延長・公式サイトを更新
質問回答公表	2021年 8月 6日（金）～ 2021年 8月18日（水） /公式サイトにて発表
参加登録期間	2021年 7月16日（金）～ 2021年 8月31日（火）16:00
提案提出期間	2021年 7月16日（金）～ 2021年 9月 7日（火）16:00
1次審査通過者発表	2021年 9月29日（水） /公式サイトにて発表
公開プレゼンテーション・2次審査	2021年 10月18日（月）18:00～ /1次審査通過者を対象に実施、2次審査（審査委員会）は非公開
結果発表	2021年 11月25日（木） /公式サイトにて発表
表彰式	2022年 2月11日（金・祝）16:30～ /国民會館 小ホールにて実施予定

主催・協賛等

主 催：「新安治川水門アイデアコンペ・絵画コンクール」実行委員会

〔構成員〕大阪府西大阪治水事務所、大阪府河川室河川整備課、「私の水辺」推進協議会、公益財団法人 大阪府都市整備推進センター

協 賛：一般財団法人 都市技術センター

後 援：土木学会 建設マネジメント委員会 公共デザインコンペティション研究小委員会

事務局：〒550-0006 大阪府大阪市西区江之子島2丁目1-64 大阪府西大阪治水事務所 企画防災グループ内

「新安治川水門アイデアコンペ・絵画コンクール」実行委員会 E-mail：ajigawa.wg.compe2021@gmail.com

公式ウェブサイト

<https://www.ajigawasuimon-compe.info/>

実績

参加登録数：12組

作品提出数：9組

2次審査対象：6組 →公開プレゼンテーションを実施、全6作品入賞

公開プレゼンテーション

2021年10月18日（月）に、2次審査対象に選ばれた6組の応募者による公開プレゼンテーションが行われました。
プレゼンテーションと質疑応答の様子を、YouTube Live にて一般公開（同時中継）※しました。

【参考】YouTube Live 視聴数 約75人



※ 2次審査（審査委員会）は非公開

審査委員会

審査の経緯

名称	実施日時	概要
第1回アイデアコンペ審査委員会	2021年9月1日（木）15:00～16:00	審査委員長選任 外
〈各委員による説明資料の審査期間〉	2021年9月9日（木）～22日（水）	事務局にて採点結果を集計・とりまとめ
第2回アイデアコンペ審査委員会	2021年9月24日（木）15:00～17:10	アイデアコンペ1次審査（協議後に採点見直し、再集計）→6作品を選出
第3回アイデアコンペ審査委員会	2021年10月18日（木）20:00～22:00	アイデアコンペ2次審査（プレゼン評価を踏まえ採点し集計）→全6作品の賞の決定
〈審査結果公表〉	2021年11月25日（木）	公式ウェブサイトに入賞作品・講評を掲載

審査委員

（50音順／○は委員長）

氏名

所属・役職

岩田 教之	公益財団法人 大阪府都市整備推進センター 理事長
○ 久保田 善明	富山大学 学術研究部（都市デザイン学系）教授
澤井 健二	「私の水辺」推進協議会 副会長
山上 路生	京都大学大学院 工学研究科 准教授
重山 陽一郎	高知工科大学システム工学群大学院 工学研究科 教授
杉村 延広	大和大学 理工学部 教授（大阪府立大学 名誉教授）
武田 重昭	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授

1

審 査 結 果

総 評

本アイデアコンペは、これまで大阪のまちを水害から守ってきた三大水門のうち、
安治川水門について、そのリニューアル事業の一環として企画された、大変ユニークで珍しいアイデアデザインコンペでした。また、このようなコンペを大阪府という自治体を中心となって関係団体と共同主催し、今後の設計やまちづくりを考えるヒントにしていくというプロセスも、公共事業としては新しい試みとなっています。

また、水門単体だけでなく、弁天町周辺のまちづくりへの提案や安治川に沿った河川軸の魅力向上への提案など、幅広い提案を求める難易度の高いコンペでしたが、その要望にも見事に応えていただき、様々な提案をプレゼンテーションしていただきました。

各作品に対し、委員の間でも活発な議論が行われ、今後の安治川水門や地域の検討において、新たな提案や気づきを頂けたと思います。

本コンペに応募いただいた全ての参加者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

（久保田委員長）

最優秀賞

〈作品 011〉海の手門

川村宣元（川村宣元建築設計事務所）

海の手門

市街地を抜け大阪城へとつながる安治川。

安治川の入口に建つ安治川水門は、水都大阪の海からの玄関であり

「海の手門」というのにふさわしい。

この地の歴史、文化を尊重し、そこから引き出されるデザインコードをもとに

未来につなげる提案をしたいと思います。



講評

安治川流域の歴史や文化特性に力点を置いた基本コンセプトを明確に示し、コンセプトに基づく水門や管理棟等のデザイン、各施設の位置関係や機能、構造、仕様の提案が具体的である。水域における船舶と護岸のスケールを関連付ける視点、蔵屋敷船着場を模した川の駅のデザイン等がユニークであり、大胆さと現実性を兼ね備えたランドスケープが地域全体の活性化につながることを期待させる。

（岩田委員）

上下流側の視点を考慮したデザインや夜間照明を利用するなど、細かい工夫が感じられる。流域を現状の性質に照らし合わせて、エリアを分割し、河川の機能を見直していることに共感できる。また、隠れたるスケールという概念を利用した護岸デザインも具体的で秀逸である。

（山上委員）

安治川水門：「海の大手門」昼と夜の表情

5

外に対しては堅牢に、内に対しては開かれ、二面性のファサードを持つデザインとしました



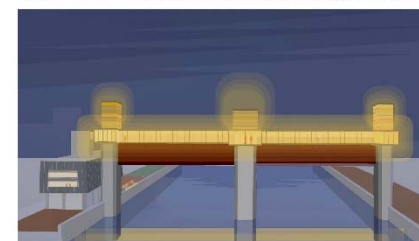
入港時、下流側から見る
堅牢な表情で、大阪のまちを守ります。



出港時、上流側から見る
二段式ローラーゲートは巻揚時の見付け面積が小さく閉塞感の解消が出来ます。



照明の点灯によって、上流側下流側同時、あるいは個別の点灯でその表情が変わります。
全点灯、明瞭な点灯、連絡点灯、門柱の点灯等、組み合わせで、様々なシーンで演出が可能となります。



井天町エリア整備方針 3 井天埠頭整備計画

10

- 目的の地
井天埠頭公園、緑地はオーク井天商店街を通り道とした目的地の一つになります。そのためには、行ってみたいと思う目的地にすることは出来ません。
- 現アーチ水門の保存
日本で唯一のアーチ型水門を顕彰し、実物を保存展示する公園とします。新安治川水門の完成後、撤去することになる水門ゲートを移設し展示します。単なる移設ではなく、オブジェ化し、アートとして位置づけることで付加価値を高めます。
- 公園名の改称
公園名称は公園、緑地あわせて「安治川水門記念公園」と改称し旧水門を顕彰します。井天埠頭緑地はトイレを整備します。
- Park PFI
公園にはPark PFIを利用し、カフェを誘致し、通覧船の待合室を設置し、公園としての価値を高めます。



奇跡のアーチ水門である現安治川水門

- 川の駅
常設の川の駅とします。河川の船便、中之島、夢洲の中間点にあり井天埠頭エリアの再開発計画が進むにつれ重要性が増す施設といえます。



アーチ型の水門ゲートの設置による、道路を隔てた公園は一体のものとなります。井天埠頭エリア再開発のシンボルとなります。



夜間景観
夜間に出現する明かりのリングは新水門が完成の後、かつての日本唯一のアーチ型水門の記憶を残すと共に、この地の新しいランドマークとなります。アーチ水門の文化財としての価値、地域資源としての価値は認識しなければなりません。設置は支柱や筋違などの設置を検討しますが、圧倒的な存在感は消えるものではありません。



優秀賞

〈作品 002〉 守り，干渉する すいもん

チーム名：ULD / 梶谷英弥（京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻）、畑喬介（同）、渡瀬遣太（同）、毛利祐輝（同）



講評

コンペの対象地区を越えて広域を視野に入れた上での提案が、お見事。空間的な広がりだけではなく、過去の歴史から未来への、時間的な視野の広さも素晴らしい。水門のデザインでは、避難場所としての水門というアイデアが興味深く、水門操作室の内部や、管理施設の提案も、災害時の実用性と、日常の楽しみ方が、よく考えられている。

（重山委員）

水門を中心に波紋が広がるような流線形のデザインが地域に統一感と伸びやかさを与えており、エリアのイメージを刷新する力を持っている。水門のランドマークとしての存在感だけでは無く、視点場としての魅力も高められており、水門を地域の魅力づくりや持続可能なまちづくりの中心施設としてとらえるスタンスが高く評価できる。

（武田委員）

5-1-2. 新水門の詳細

5-1. 提案 新水門

5-1 新水門 機能

展望台を完備することで、新水門自体を目視化し、大人から子供まで、多様な人が楽しめる空間にします。また、この空間は非常時には、避難所としての、重要な役割を果たします。



操作室の操作により、ゲートが下がり、閉鎖した様子



展望台内部

展望台からの眺望

舟天エリア、ベイエリアを含む、大阪湾一帯を一望することができます。夜には、広域展望中、遠くあふれるベイエリアの夜景を眺めることができます。



通常時は、ライトアップすることで、夜間の海空間のランドマークになります。また、夜間に災害があった際も周囲に知らせる、灯台のような役割も果たします。



5-3-1. 安治川水域計画

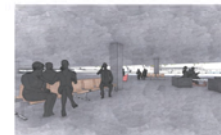
5-3. 提案 安治川水域

安治川水域活性化計画

水都大阪計画の発展に寄与し、舟運の活性化を促すため、現在、開港の進む中ノ島へベイエリアまでの動線上に、3つのリバーターミナルを、整備する。



1. 舟天埠頭ターミナル
ベイエリアと舟天町を繋ぐ大規模ターミナル



2. 安治川水門ターミナル
舟天町と中ノ島を繋ぐ小〜中規模ターミナル



3. 九条ターミナル

舟天町の2つに加え、西九条駅と九条駅の線上に小〜中規模のリバーターミナルを整備します。西九条駅や九条駅は鉄道のターミナルになっており、利用客の増加が見込まれます。また、中之島と舟天町の間地点に位置し、このエリアにリバーターミナルを整備することで、舟運がより活性化すると考えられます。



奨励賞※

〈作品 004〉

帰ってきた「まちみなと」

Benten Biennale

チーム名：NE-2

水野裕介（大日本コンサルタント株式会社）、
近藤美沙希（同）、坂元泰平（同）

講評

四半円形のガイドアーチに沿わせるケーブルを設けることにより、水門の頭部を軽い印象にしているのが特徴的。エリアを3つに分け、それぞれの特徴を掲げつつ、整備のロードマップが示されているのも良い。

（澤井委員）



※ 作品番号順に掲載

奨励賞※

〈作品 007〉

NEW GATE

ベイエリアと都心部を結ぶ場所

長谷川夏輝

（富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科）、
上埜由美子（同）、王永成（同学科 助教）

講評

水門の上部に遊歩道（展望橋）を設けることで、水門の施設見学や展望エリアとしても配慮されており、コストパフォーマンスにも優れていると考える。

（杉村委員）

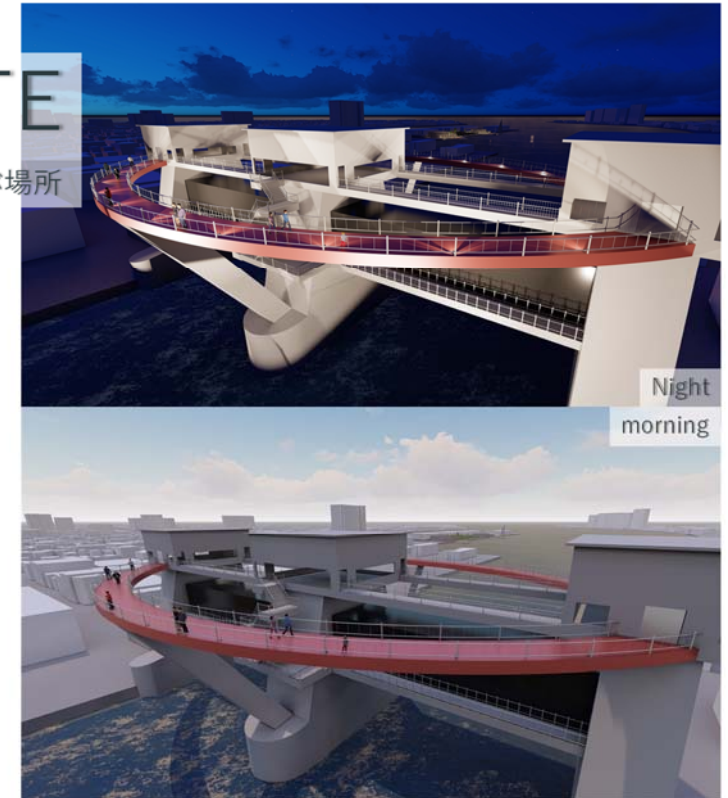
NEW GATE

ベイエリアと都心部を結ぶ場所

安治川水門は、時代の変化とともに人々の生活に寄り添ってきた存在である。これまでも自然災害から人々の命を守るという縁の下での力持ちの役割を果たし、これからもその役割を担っていく。

そして近年の大阪の活発なまちづくりは安治川水門にこれまでとは異なる表舞台的な役割を与えようとしている。それは人々を迎える新しい「門-gate-」下流側にあるベイエリアへ、または上流側にある中之島など大阪の都心部へ通じる門としての役割である。

本提案では、その両エリアを結ぶ場所として安治川水門周辺及び弁天埠頭を捉え、大阪のまちを陸上や海上で行き交う人々の交流そして余暇空間を整備する。



※ 作品番号順に掲載

奨励賞※

〈作品 008〉

BENTEN 2050

チーム名：ユーレイブール

小林 諒（佐藤総合計画 / yuureibool）、
宇田川 剛（同）、
田中 達大（トライコーン株式会社 / yuureibool）、
木下 翔太（ケーティーマシナリー株式会社/ yuureibool）

講評

暖簾のような水門デザインの発想や造形がユニークであり、提案のあった作品の中で唯一動画でのプレゼンとなっていた点も評価できる。水門の構造に関して、あと一步、検討がなされていると、なお良かったと感じる。

（久保田委員）



かつて港町として開発された町「弁天町」
2025年の大阪万博を機に、より国際的な交流・イベントの場としての価値が高まることが想定されます。
新・安治川水門をシンボルとし、商店街エリアを活性化、さらに都市全体で親水空間をデザインすることで
先進的かつエコフレンドリーな弁天町の未来像を提案します。

Contents

Masterplan

弁天町の未来像について

Watergate

水門のデザインと利活用

Shopping Street

新しい商店街のデザイン

Waterfront

まちと水辺の結節点

動画は公式ウェブサイトに掲載

※ 作品番号順に掲載

審査員特別賞

〈作品 010〉

「安治川いいであいプロジェクト」 提案書

チーム名：安治川げんきプロジェクトチーム

木村昌弘（大阪大学 工学部 非常勤講師）、
岡崎 善久（岡崎善久建築設計事務所 所長）、
加藤 創一（近畿大学 総合社会学部 総合社会学科
環境・まちづくり系）、
河西 茂行（地球デザイン研究所 所長）

講評

治水・維持・景観・利用・気候変動への対応等から総合的な比較検討を行い、水門形式を提案している点が優れている。現水門を残し、津波・高潮ステーションと一体的に運用し、防災教育等を行う点なども魅力的に感じる。

（澤井委員）

安治川水門周辺の整備イメージ図



2

応 募 作 品

〈作品 001〉

（無題）

古川小百合（株式会社東光コンサルタンツ）

1

テーマとコンセプト

テーマ：新安治川水門と周辺地域および河川軸

エリア別コンセプト

- ① 新安治川水門および管理所敷地：安全と憩いの場
- ② 弁天町周辺エリア「オーク弁天商店街」：ストリートアートの場
- ③ 安治川流域（中之島～夢州）：空と海を感じる場

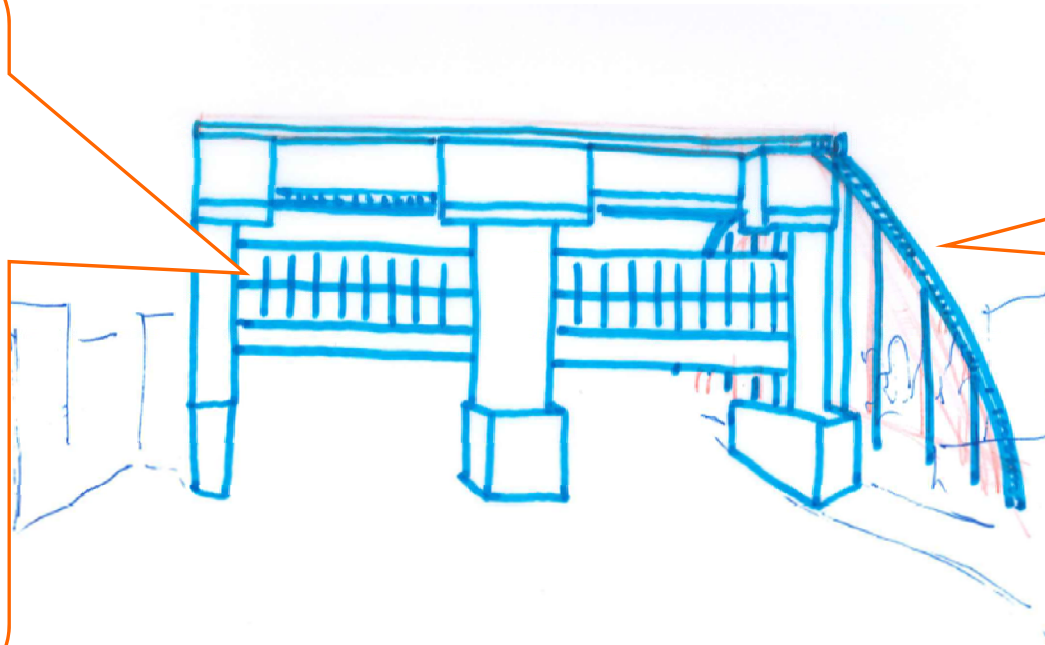
2 ① 新安治川水門および管理所敷地：安全と憩いの場

■ 新安治川水門の整備イメージ

最上部に広場をつくり、人が集える場とする。(天井は設置しない)



資料：
<https://xtech.nikkei.com/kn/atcl/blddb/00461/?SS=imgview&FD=-1258905961>



基本設計で検討した水門の弁天駅川にアーチ型のエレベーターと階段を設置する。

2 ① 新安治川水門および管理所敷地：安全と憩いの場

■新安治川水門の屋上の活用イメージ

春
桜を愛でる

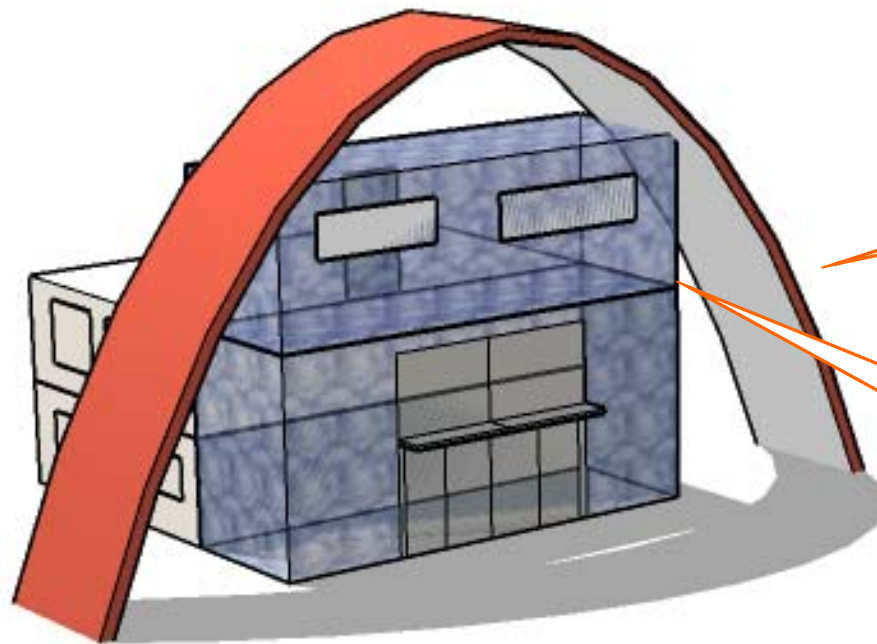
夏
花火を楽しむ
ウェディングパーティー

秋
紅葉を楽しむ

冬
星を眺める

2 ① 新安治川水門および管理所敷地：安全と憩いの場

・ ■ 管理所敷地の整備イメージ

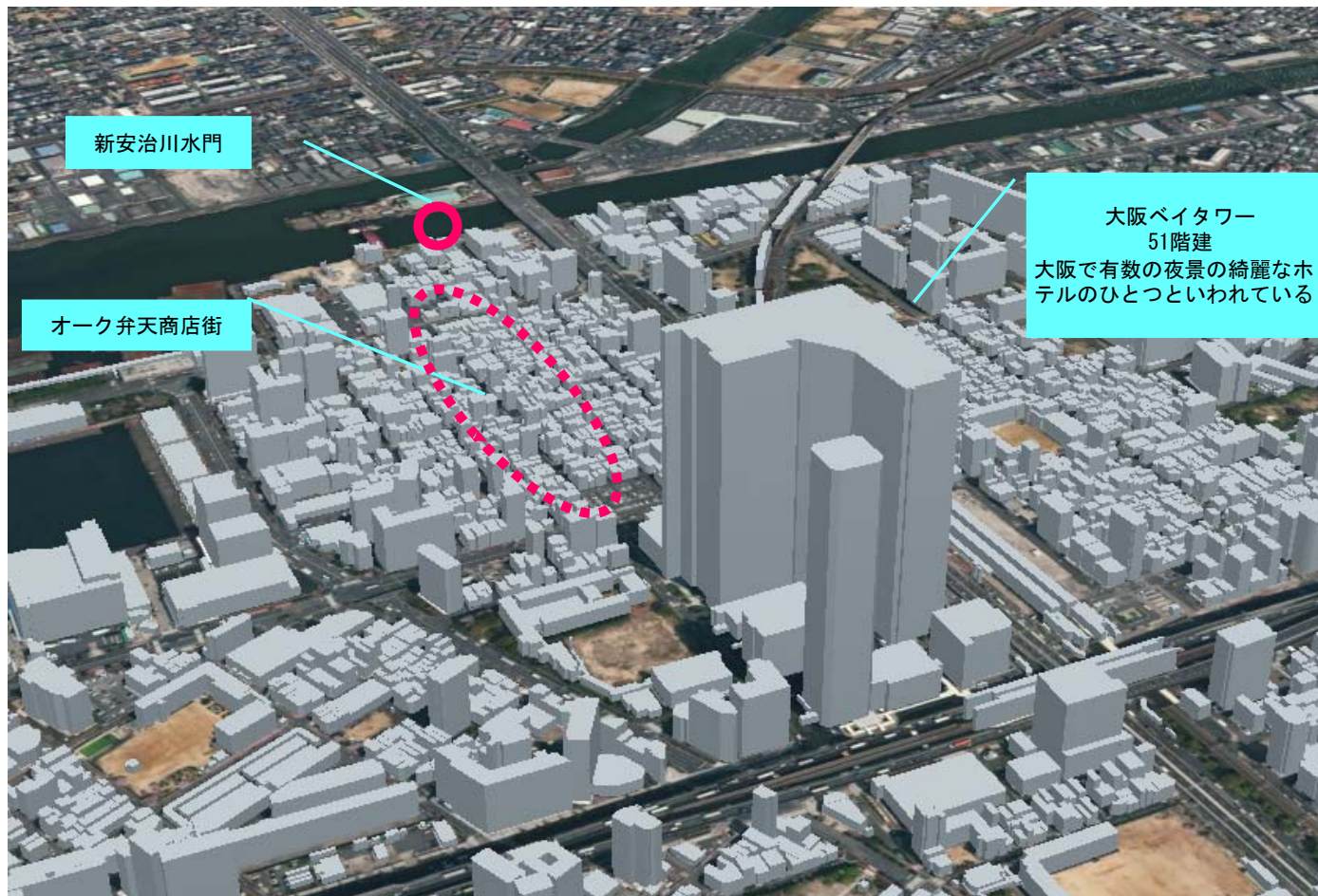


管理所の建物に、現安治川水門をイメージするモニュメントを、安治川水門の残物を利用してつくる。
壁面緑化にする。

事務所の玄関は吹き抜けとする。
3階部分は人が集える場とする。
災害時の一時避難の場とする。

3 ② 弁天町周辺エリア「オーク弁天商店街」：ストリートアートの場

■オーク弁天商店街の位置



出典：国土交通省ホームページ
(<https://milt.go.jp/plateau>)

3 ② 弁天町周辺エリア「オーク弁天商店街」：ストリートアートの場合

・ ■ オーク弁天商店街の整備イメージ

街路灯は安治川水門の
アーチをイメージできる
ものとする。

電線は地中に埋設する。



歩道は幅員2m程度に拡幅する。
舗装はアートを楽しめるものにする。

3 ② 弁天町周辺エリア「オーク弁天商店街」：ストリートアートの場合

- オーク弁天商店街の整備後の活用イメージ：現実空間と仮想空間をリンクする

春

さくらをイメージした食べられるストリートアート

秋

栗や梨をイメージした食べられるストリートアート

夏

新安治川水門の屋上で花火をあげる

商店街とを活用して納涼まつり

冬

雪をイメージした食べられるストリートアート

4 ③安治川流域（中之島～夢州）：空と海を感じる場

■2040年の安治川クルージングイメージ 上流部



4 ③安治川流域（中之島～夢州）：空と海を感じる場

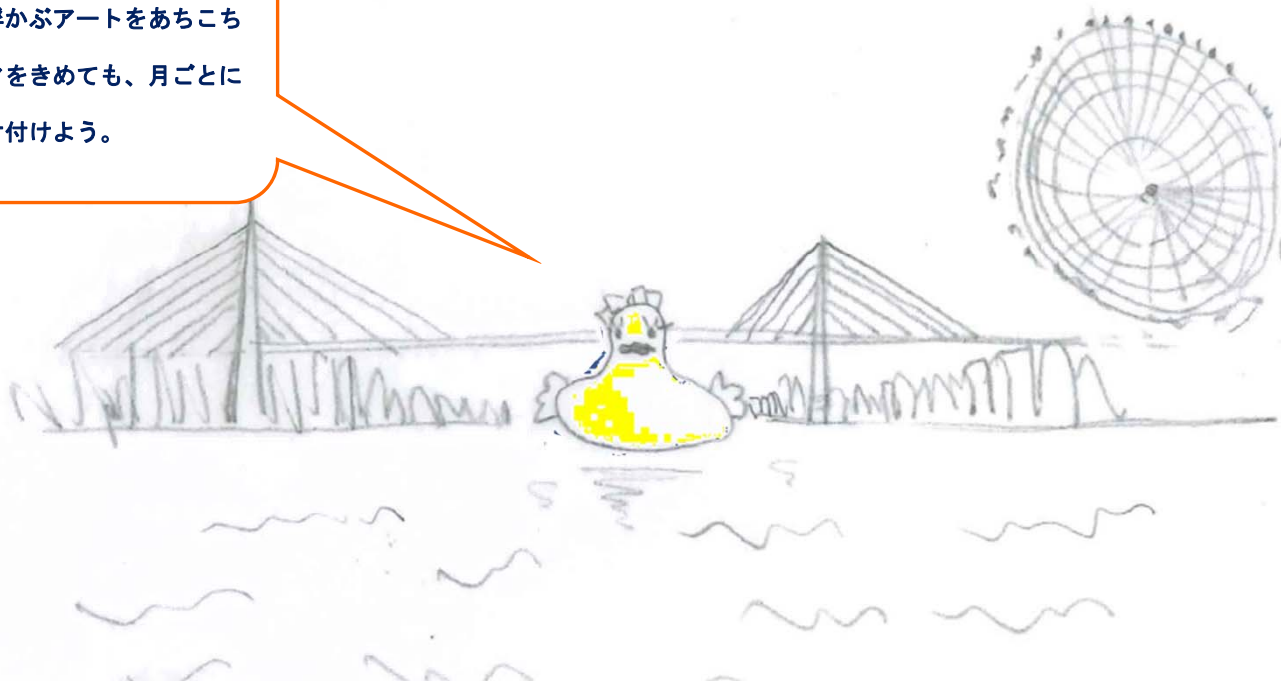
■2040年の安治川クルージングイメージ 中流部



4 ③安治川流域（中之島～夢州）：空と海を感じる場

■整備イメージ：浮かぶストリートアートで川・海・空を楽しもう。

安治川に軽くて浮かぶアートをあちこちに配置しよう。
四季ごとにテーマをきめても、月ごとに決めてもよいね。
天候の悪い日は片付けよう。



4 ③安治川流域（中之島～夢州）：空と海を感じる場

■2040年の安治川クルージングイメージ 下流部



〈作品 002〉

守り, 干渉する すいもん

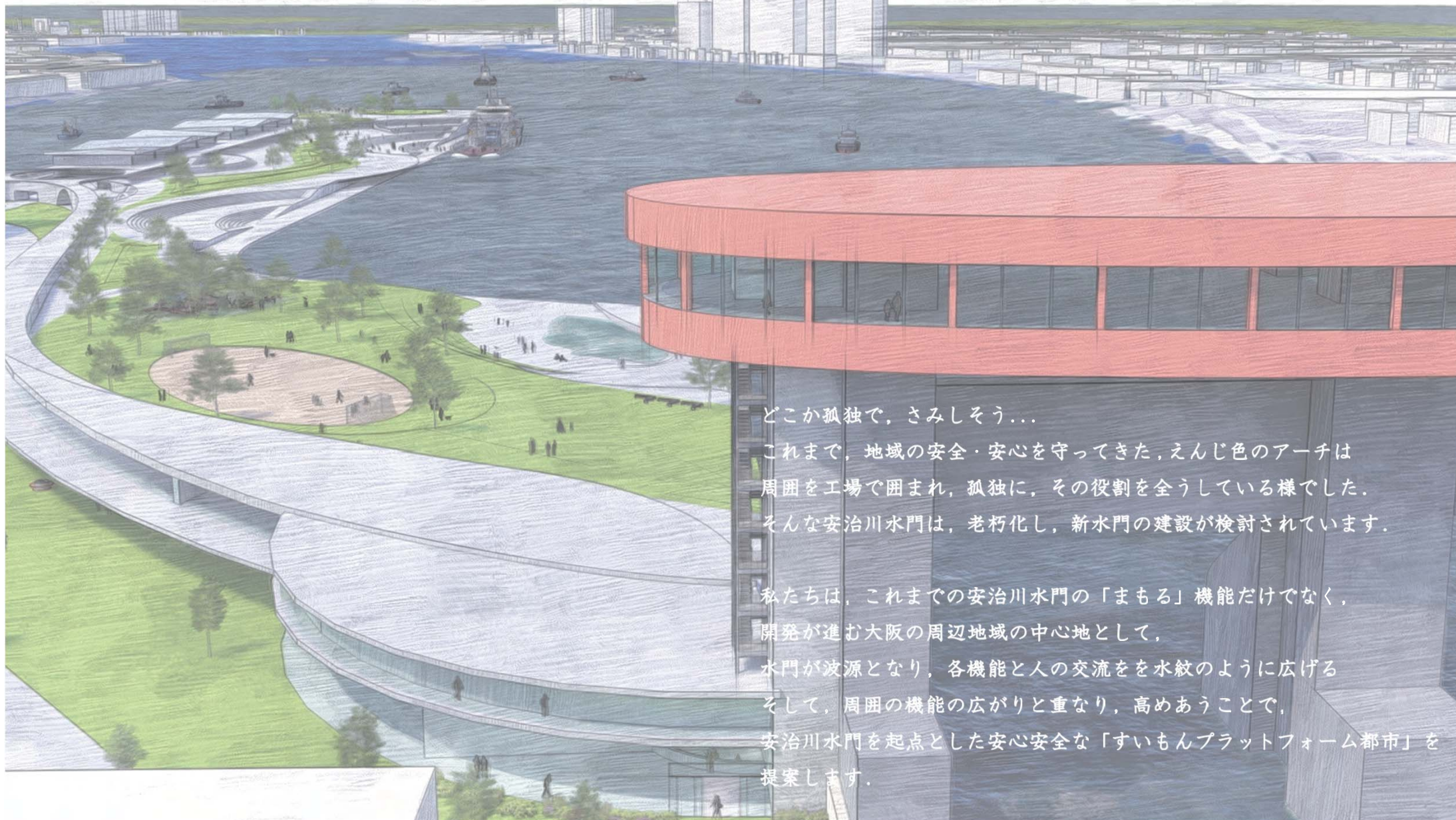
チーム名：ULD

梶谷英弥（京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻）

畑喬介（同）、渡瀬遣太（同）、毛利祐輝（同）

優秀賞

守り，干渉する すいもん



どこか孤独で，さみしそう...

これまで，地域の安全・安心を守ってきた，えんじ色のアーチは周囲を工場で囲まれ，孤独に，その役割を全うしている様でした。そんな安治川水門は，老朽化し，新水門の建設が検討されています。

私たちは，これまでの安治川水門の「まもる」機能だけでなく，開発が進む大阪の周辺地域の中心地として，水門が波源となり，各機能と人の交流を水紋のように広げるそして，周囲の機能の広がりとなり，高めあうことで，安治川水門を起点とした安心安全な「すいもんプラットフォーム都市」を提案します。

1. 大阪の現状

ベイエリアでは舞洲、夢洲、咲洲がそれぞれスポーツ、エンターテインメント、イノベーションといった機能を有しています。
 大阪市内では江戸時代から全国の食材が集まる天下の台所として今日に至るまで食文化を育んできました。
 今後は広域的な成長戦略の一環として交通問題の解消により、人の流れが活発になることが想定されます

舞洲

大阪を拠点とする3つのプロチームの本拠地を構え、市民の手軽な利用から国際級のスポーツイベントにも対応した各種スポーツ施設などを整備しており、市民のスポーツ需要にも対応したまちづくりを進めています。



セレッソ大阪舞洲グラウンド



スポーツ利用

夢洲

新たな国際観光拠点として大阪をけん引していくことを目標に、2025年には大阪万博、IRの誘致を中心に夢洲に行くことでしか体験し得ない多様なエンターテインメント機能を有するまちづくりを進めています。



2025年大阪万博イメージ



大阪IRイメージ

咲洲

イノベーション拠点の形成をめざして先端技術開発企業の本社や研究施設をはじめとしたデータセンター、大学などが集積し、開発が進んでいます。また、環境分野における先進都市を目指し、咲洲スマートコミュニティ実証事業が実施されています。



大阪市内

かつては天下の台所と呼ばれており、今でも日本屈指の食い倒れの町として知られています。また、現在は水都大阪再生に向けた取り組みとして中之島を中心に梅田・難波間を円で囲むようにリバーターミナルを設置し、水上交通の創出を図っています。



大阪ミナミの繁華街



水都大阪PJ

大阪市外

東京・名古屋・大阪の三大都市圏が1時間で結ばれるスーパーメガリージョンの効果を引き出す都市再生プロジェクトの一環として阪神港と名神高速道路の国土軸を結ぶ広域的な高速道路ネットワークの形成に向けた淀川左岸線の完成があります。これにより万博会場となる夢洲と新大阪駅・大阪駅を結ぶアクセスが容易になるうえ、都心部を迂回した通過が可能となり慢性的な渋滞の解消が期待されています。食文化に関してもお好み焼きやたこ焼きに代表される粉もんは欠かせないものとなっています。



将来の大阪環状道路

多様な開発・人流が見込まれる一方で機能が散乱しているため、つながりが求められています。

2. 安治川の現状

背景

安治川は新田開発によって、1684年に開発されました。しかし、伊勢台風や、高潮など、度重なる自然災害による浸水被害が多発していました。そこで、地域を守るため、全国的にも珍しいアーチ形状の現安治川水門が建設されました。

足跡

安治川水門はこれまでに幾度となく、大阪の街を救ってきました。しかし、現在の水門を使い続けると近年頻発している異常気象により、大阪に大きな浸水被害が発生すると予想されています。

現状

住民の増加

弁天町では、高層マンションの建設に伴い、地域住民の増加が見込まれています。商店街整備などで、住民交流の場を設ける必要があります。

孤立した安治川水門

弁天町には、住宅地と安治川水門の間に工場群があります。これにより、街のシンボルである水門が孤立してしまっています。

来訪者

水都大阪の取り組みによる舟運の活性化や、大阪都心環状道路の計画で来訪者が増えると考えられます。

異常気象、自然災害

近年、異常気象による大規模風水害が頻発し、その勢いは加速しています。また、数十年後での発生が予測されている南海トラフは大阪に甚大な被害をもたらすと考えられます。

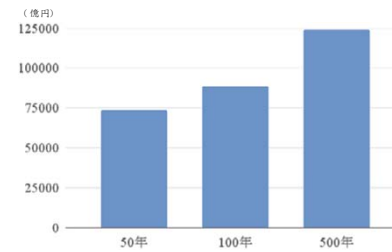
背景



第2室戸台風による浸水被害



安治川水門建設当初の写真



リターンビリオド毎の大阪市街地の高潮被害想定額 出所)大阪府河川整備審議会



高潮を防いだ時の安治川水門



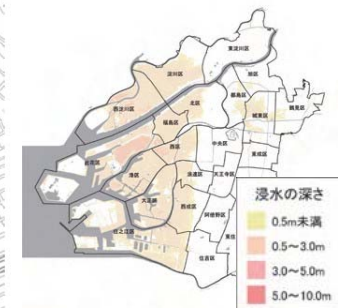
クロスタワー大阪ベイ (54階建て)



海街弁天 STREET ~ Go To SEA ~
2020年11月に行われた、弁天町と、ベイエリアをつなぐ舟運の実証実験



孤立した水門



南海トラフの津波発生時の浸水予想

安心・安全のシンボルとしての輝きのある、より強固な水門が求められています。

3. 安治川が目指すべき未来

安治川流域一帯の

課題解決

水門の耐久性

老朽化し、今後想定される台風、高潮などの
自然災害に耐えることができない。

弁天地域の安全確保

住民や、来訪者の増加や、地元住民の高齢化に伴い
安全に暮らせる街でなければならない。

水運の動線確保

開発が進む、中ノ島～ベイエリアをつなぐ舟運の確保
災害時の物資運搬経路の確保。

安心・安全な防災都市

リバーターミナル
安治川
浸水想定区域

守る

大阪全体の背景から

求められる役割

周辺点在機能をつなぐ、ハブの役割

ベイエリア、市内、市外が保有する個々に散らばった
機能を集約し、つなげる。

多様な人、文化を受容し、高めあう役割

舟運整備、環状道路整備などによって増加する
多様なバックグラウンドを持つ人々との交流を
促進し、深める。

多様な交流を生み、

多様な人をつなぐ

水辺のプラットフォーム

干渉する

4. コンセプト

守り，干渉する すいもん



概要

どこか孤独で，さみしそう...

これまで，地域の安全・安心を守ってきた，えんじ色のアーチは
周囲を工場で囲まれ，孤独に，その役割を全うしている様でした。
私たちは，これまでの安治川水門の「守る」機能だけでなく，

「干渉する」価値を見出したいと思います。

開発が進む大阪の周辺地域の中心地として，新水門が波源となり，
各機能と人の交流が水の紋様のように，広まっていき，
そして，その紋様は，周囲の機能の広がりとなり，高め合います。
私たちは，安治川地域一帯を，守る水門の機能と，干渉する水紋の
2つの機能を兼ね備えた，すいもんプラットフォーム都市」に変容させます。

水門

防災拠点として，大阪の
安全を守る

大阪全体に交流の輪を
広げていく



弁天地域

地域住民と来街者の
安全を守る

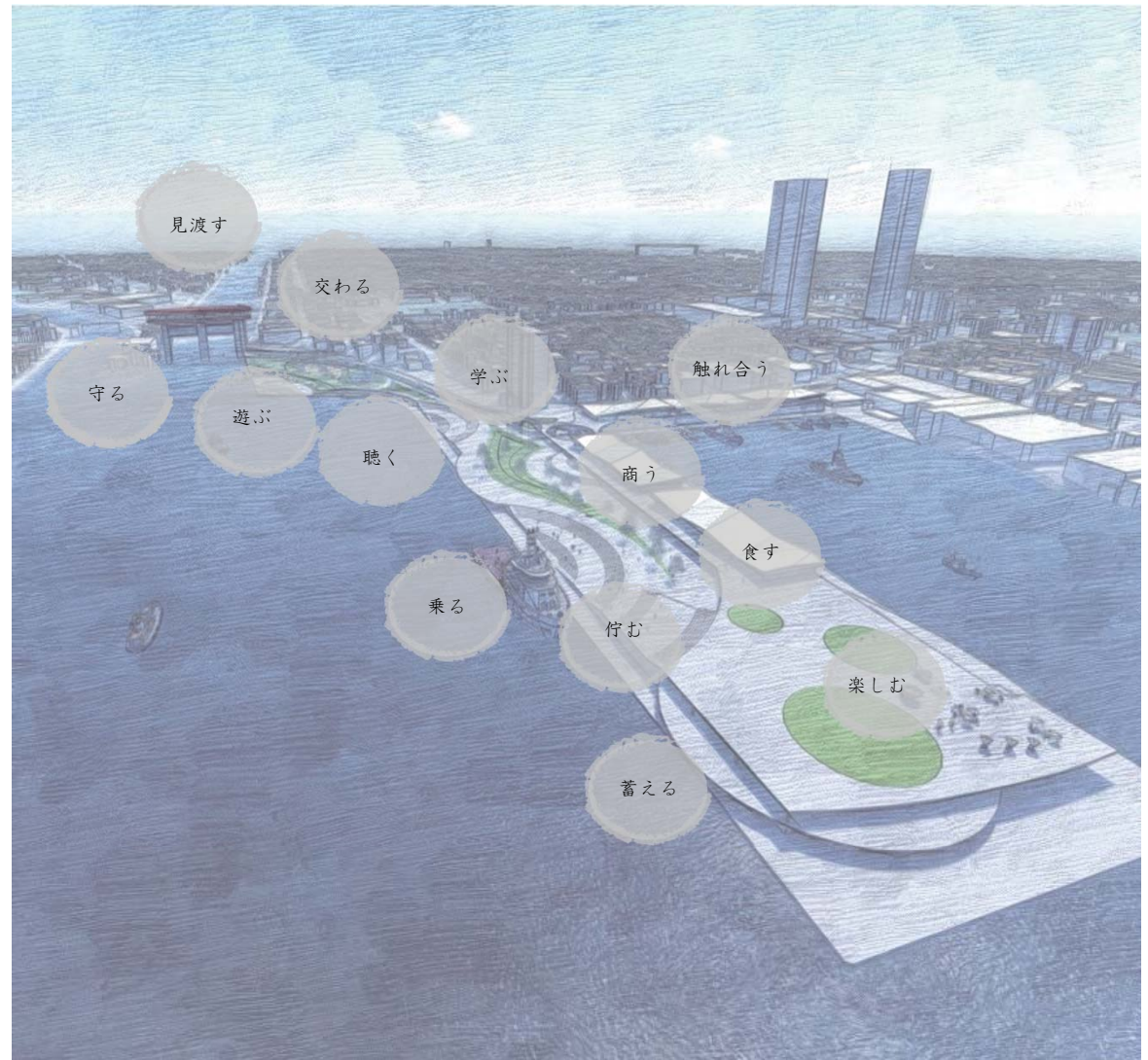
多様な人と機能が集まり，
その交流を広める



安治川水域

災害時の水運動線を
確保する

舟運の活性化を促し，
水都大阪の発展を目指す



5-1-1. 新水門 デザイン検討

5-1. 提案 新水門

新水門 デザイン検討

ローラーゲート方式

アーチ形状では、津波が来た際に、中央ヒンジ部分に水圧が集中してしまい、構造的な脆弱性があります。また、地域のシンボルとなるためには、大規模で、見た目からも、安心感が得られる形状である必要性があったため、3本柱のローラーゲート方式を採用しました



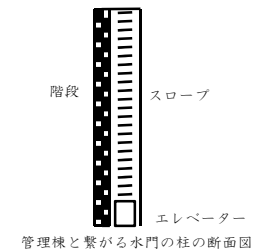
新安治川水門デザイン

展望台・避難所

この地域は、海に面していて、水害時に危険が伴うことに加え、地域外の来訪者が多く見込まれるため、誰が、どこにいても避難場所を見つけることができる必要性があります。地域のシンボルとして、高さがあり、どこからでも確認できる新水門には、水害時の避難所としての機能が不可欠です。そのため、多くの人を許容できる、大規模空間を新水門の上に設計しました。避難動線を確保するために、避難所まで、上がる手段としては、階段や、エレベーターだけでなく、足の不自由な人も想定して、スロープも取り入れました。また、この空間は、常時は展望台として、大阪の都市景観やベイエリアの景観を、昼夜問わず、一望することができます。



遠くからでも、避難所が確認できる



円形状・色彩検討

避難所を楕円にしたのは、安心感を与えるためです。地域の人にとって、旧水門はこれまで安全を確保してくれた力強い存在です、そんな旧水門の特徴であったアーチが2本結びつき、避難所の中の人を囲い、守ってくれる、来訪者の方にとって、なじみのない土地で、災害が発生し、避難所に隔離された時、避難所の中でも隅っこで心細く感じている様子が、目に浮かびました。楕円にすることで、隅という概念をなくし、地域住民、来訪者の方みなが、一つにつながることができる、心理的安心を確保することができます。

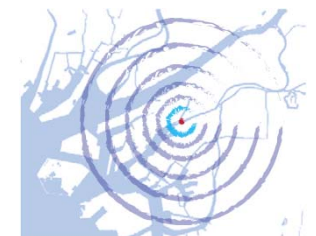
色彩計画に関して、えんじ色の格子にしたのは、空の青さとの補色にあることや、赤色は誘目性が高いため、避難所として目立つことに加え、旧水門の伝統的なえんじ色を継承するためです。さらに、上部の1つの円は、新水門が水源となり、弁天地域、大阪の周辺部に水の紋様のように、つながりを波及していく様子を表しています。



旧安治川水門が、つつみこんでくれる



補色



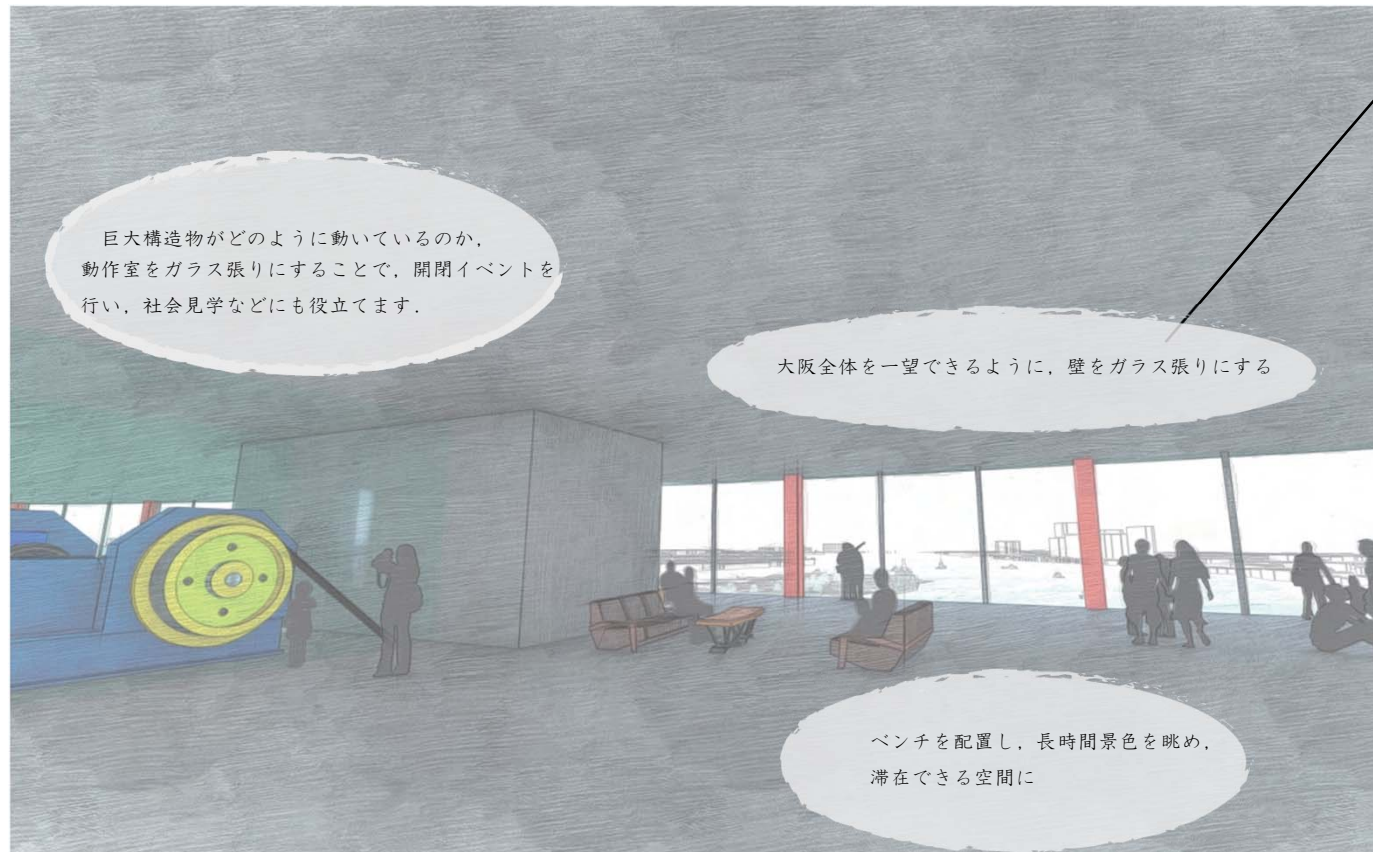
水門を起点に、波及していく

5-1-2. 新水門の詳細

5-1. 提案 新水門

新水門 機能

展望台を完備することで、新水門自体を目的地化し、大人から子供まで、多様な人が楽しめる空間にします。
また、この空間は非常時には、避難所としての、重要な役割を果たします。



動作室の操作により、ゲートが下がり、閉門した様子

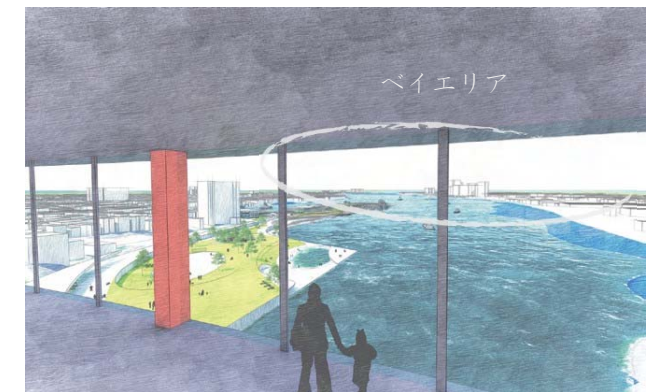


海面が上昇し、海に面した部分が浸水しかけている

展望台内部

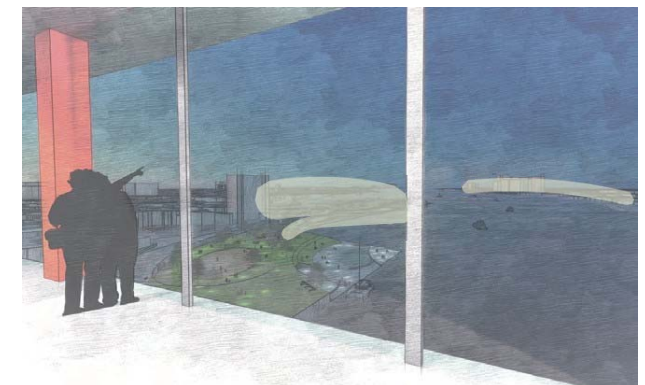
展望台からの眺望

弁天エリア、ベイエリアを含む、大阪湾一帯を一望することができます。また、夜には、工場夜景や、活気あふれるベイエリアの夜景を眺めることができます。



昼間の眺望

通常時は、ライトアップすることで、夜間の港空間のランドマークになります。また、夜間に災害が来た際も周囲に知らせる、灯台のような役割も果たします。



夜間の眺望

5-1-3. 水門管理施設

5. 提案 新水門

水門管理施設

水門と管理施設をつなげることで、安全かつ効率的な
運営管理体制を整えます。



避難動線の確保

グラウンド、水辺空間で遊んでいても、
どこにいても、何時でも、すぐ水門に
避難できるように、避難動線を確保します。

6m ラインからの
昼間の水門の眺め



夜間はライトアップされ、灯台としての
機能も果たす

6m ラインからの
夜間の水門の眺め

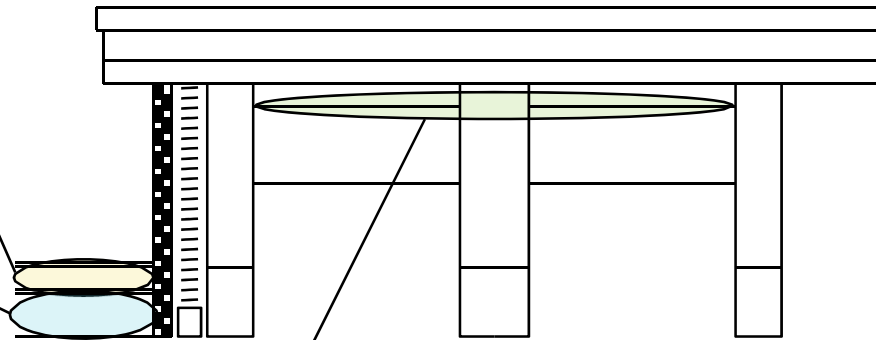


2F 管理運営事務局

地域の安全・安心を守る本部
水門の運営や安治川流域に関する
協議なども行うことができる会議室を
完備する。

1F 防災体験スペース

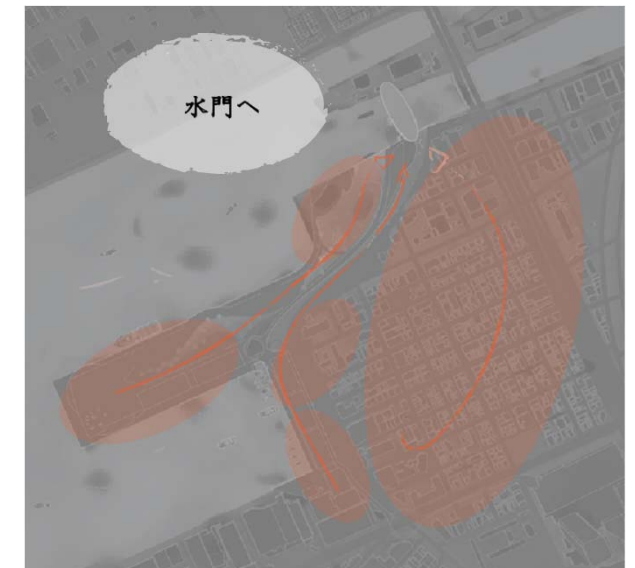
これまでの安治川開発の歴史浸水時の
写真など、水害の歴史に関する
資料を展示することで、地域住民や
観光目的で訪れた来街者に対して、防災意識の
向上を目指す。
また、空いたスペースで、地域の小中学校の
作品の展示会や、防災教室を開講する。



制水門・調整門の点検

柱に備わった点検、制水、調整などの
動作機能を、管理室から直接、維持・点検
できるように、水門の扉の上を通行可能にし、
動線を確保する。

水門～管理施設断面図



避難同線図

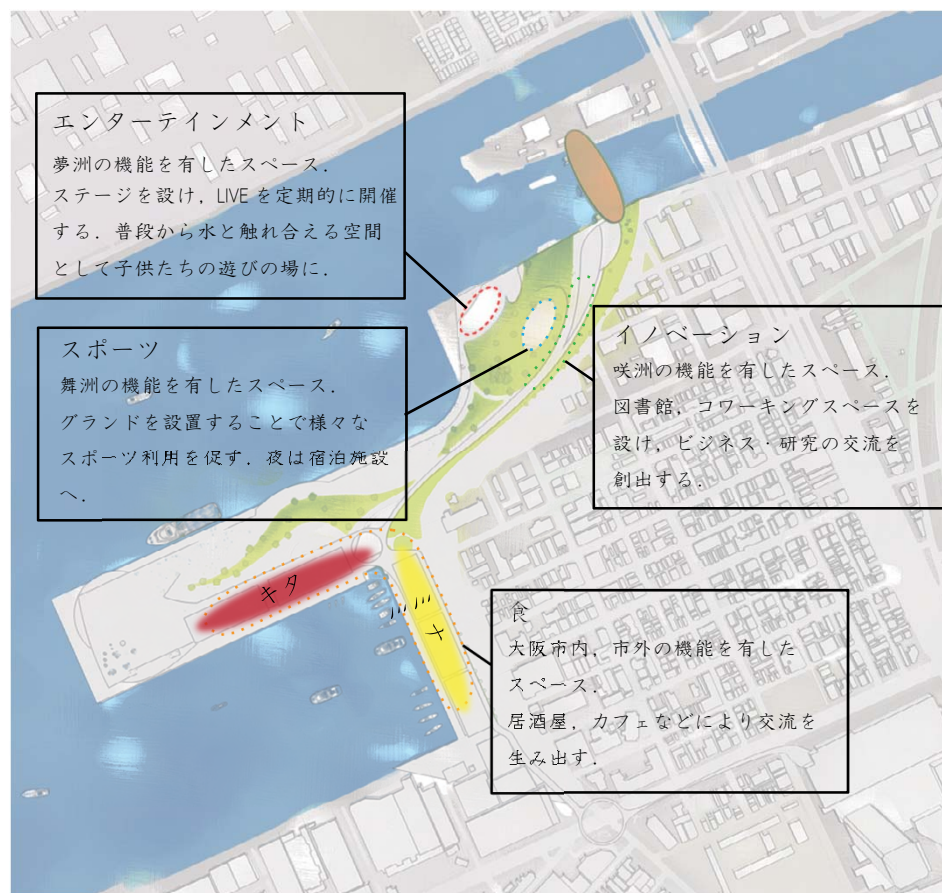
5-2-1 弁天町デザイン方針

弁天町駅と水門を結ぶアーク歩道橋

弁天町から水門を結び、地域を囲む堤防を兼ねた高さ6mの通路を設けることで南海トラフ地震で予想されている最大潮位の5mの津波から住民を守ります。

点在機能の集約

大阪の広域にわたり点在している各機能を弁天町に集約し、多様な文化の交流を育みます。

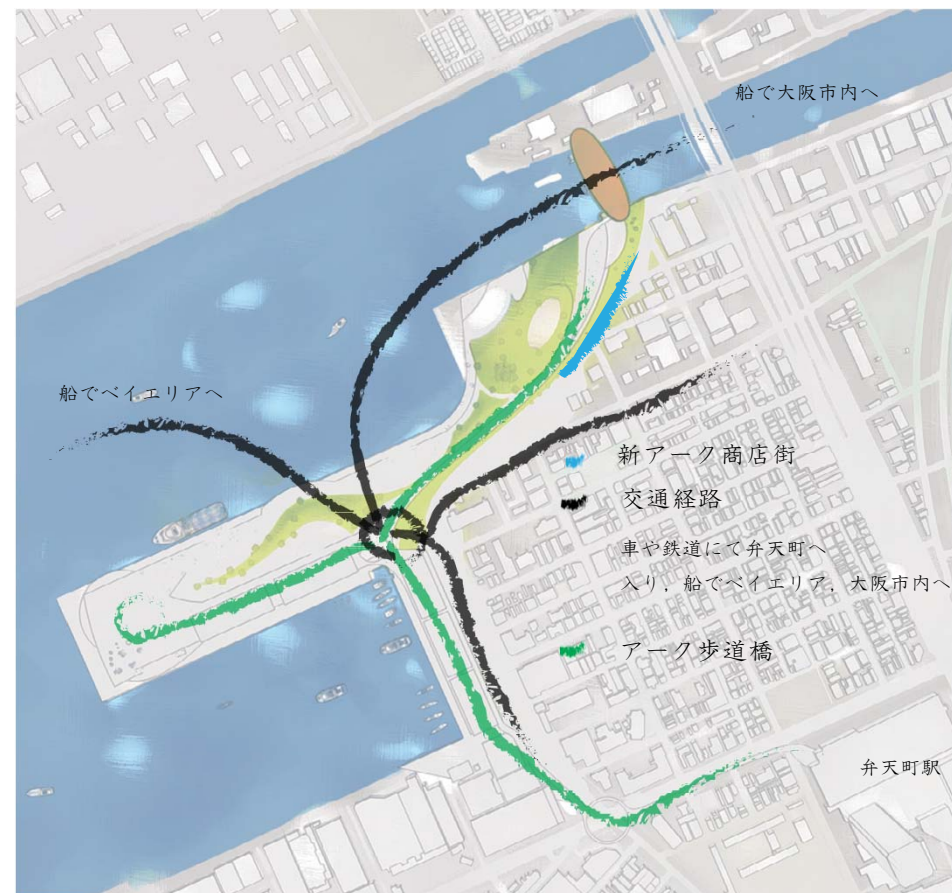


交通動線の整備

大阪周遊の拠点としてバスターミナル、駐車場を整備することで様々な交通手段での来訪を可能にします。

地域創生に向けた取り組み

新オーク商店街の復活、地域住民によるマルシェの運営により地域住民と来訪者のつながりを生み、活性化につなげます。



5-2-2 工場・キタ埠頭エリア

5-3. 提案 弁天町



駐車場スペース

埠頭北部分の地上階の部分は駐車場や、災害時の備蓄用倉庫として使います。人が多く集まらないような空間の利用することで、津波などの浸水時の被害を最小限にします。



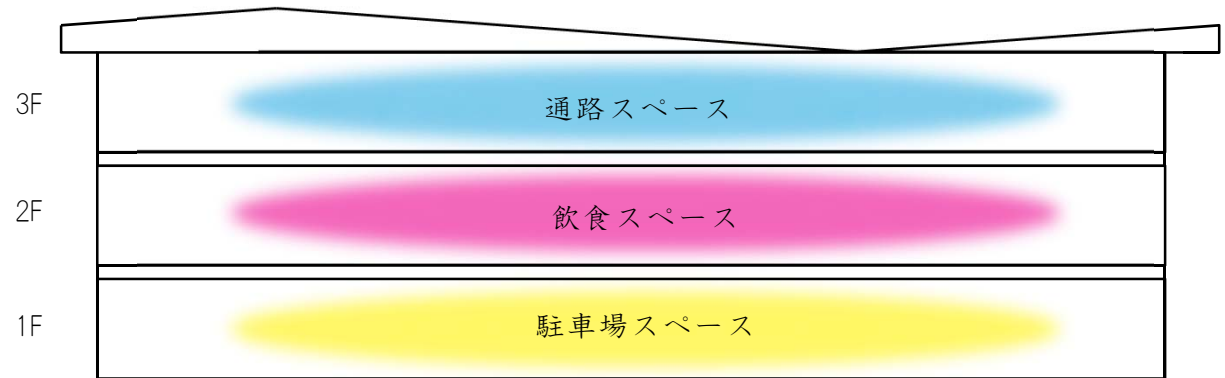
飲食スペース

船の利用者の待合室として機能する空間として整備します。キッチンカー等の移動型の店舗にすることで、災害時の被害を抑えることができます。



埠頭の親水空間

リバーターミナルを階段状にすることで、舟運の駅としてだけでなく滞留の空間としての機能がうまれます。船を使った人だけでなく、地域住民や弁天町に船以外の交通手段で訪れた人たちの交流空間となるように水辺空間を整備します。

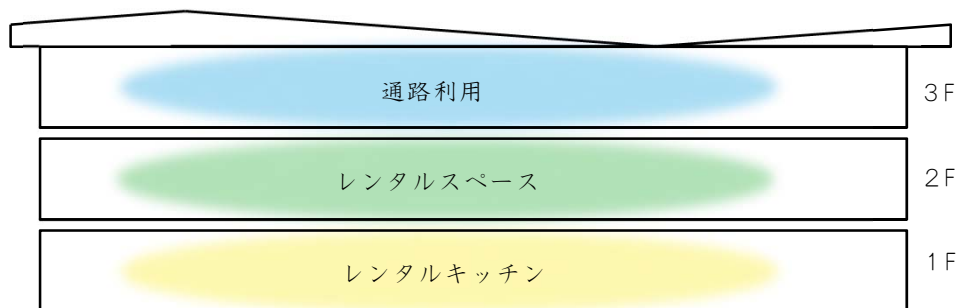


5-2-3 工場・ミナミ埠頭エリア

5-3. 提案 弁天町



1階では飲食利用、2階では多様な空間利用、3階では通路としての利用を想定しています。緊急時に建物全体で避難所としての役割を果たすための機能を設けました。



工場跡の断面図

非常時にはレンタルスペースを避難所とし、1Fのキッチンスペースを用いて炊き出しなどを行います。災害発生から復興にかけて地域住民の臨時避難場所としての役割を果たします。

利用例イメージ



5-2-4 安治川広場

5-3. 提案 弁天町



ステージでは定期的にアーティスト、お笑い芸人などがパフォーマンスを披露しますが、水に触れあえる空間として多くの時間は子供の水遊び空間になります。



新アーク商店街

かつては弁天町民の交流の場として賑わいのあった商店街を復活させます。地域住民によるマルシェも開催することで来訪者と地域住民の自然な交流が生まれます。



安治川広場の通路下にはコワーキングスペースを設けます。多様なバックグラウンドを持った働き手が出会い、交流する場としての役割を果たします。

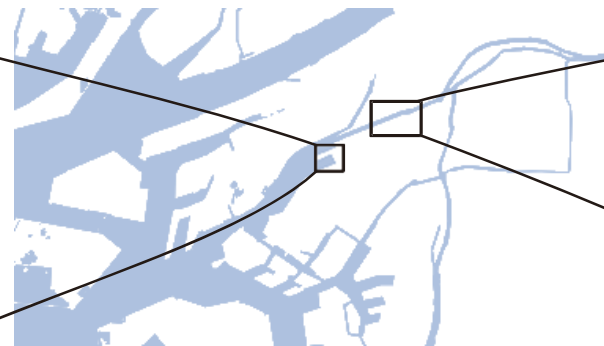


5-3-1. 安治川水域計画

5-3. 提案 安治川水域

安治川水域活性化計画

水都大阪計画の発展に寄与し、舟運の活性化を促すため、現在、開発の進む中ノ島〜ベイエリアまでの動線上に、3つのリバーターミナルを、整備する。



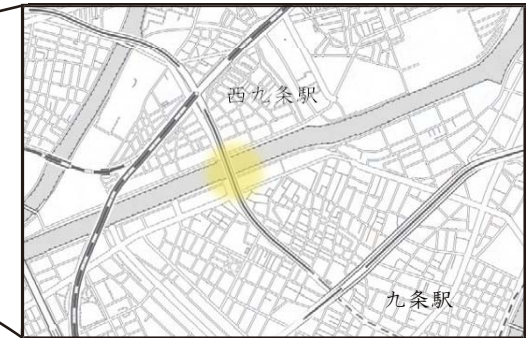
1. 弁天埠頭ターミナル

ベイエリアと弁天町を繋ぐ大規模ターミナル



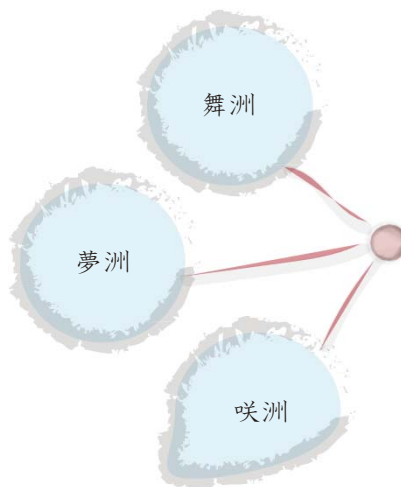
2. 安治川水門ターミナル

弁天町と中ノ島を繋ぐ小〜中規模ターミナル



3. 九条ターミナル

弁天町の2つに加え、西九条駅と九条駅の線上に小〜中規模のリバーターミナルを整備します。
西九条駅や九条駅は鉄道のターミナルになっており、利用客の増加が見込まれます。また、中之島と弁天町の間地点に位置し、このエリアにリバーターミナルを整備することで、舟運がより活性化すると考えられます。

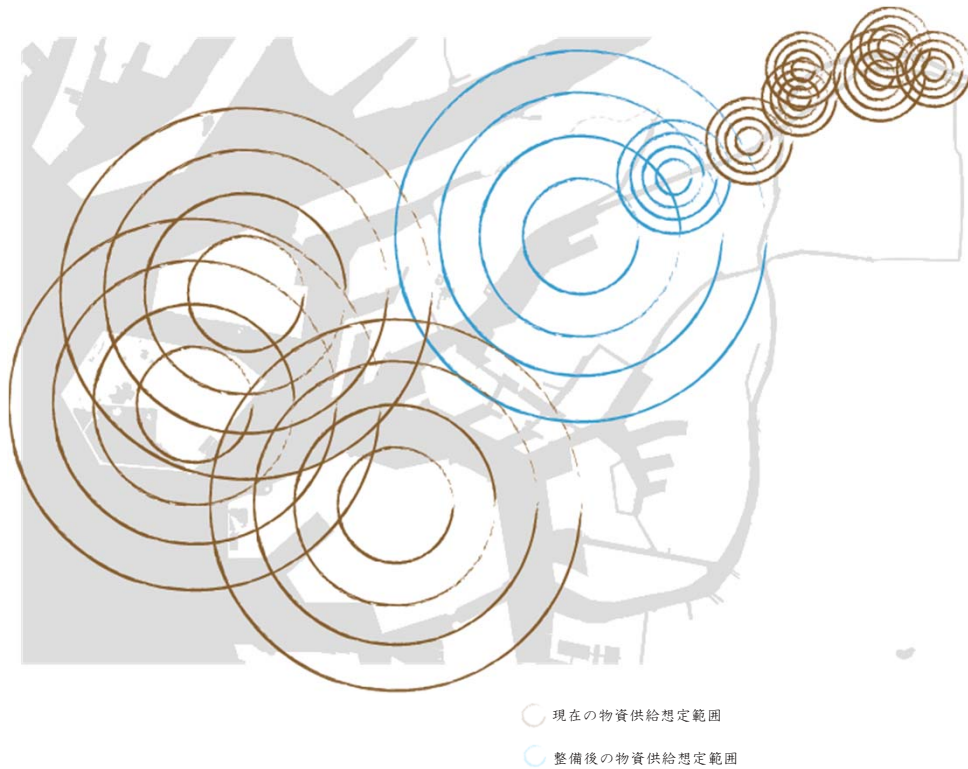


5-3-2 水域の防災

5-3. 提案 安治川水域

安治川水域防災計画

都市圏の防災ネットワークの強化を図る



普段は大阪周遊などの移動手段として機能する船舶、災害時には道路が陥没等によって使えなくなったときでも物資や人材の輸送が可能です。さらに、リバーターミナルを適切な間隔で確保することで、より素早く、より広範囲への支援が可能になります。

普段は船舶移動の駅として機能します。また、陸側を緑地として整備することで船舶を使わない人にも、憩いの場となるように整備します。

通常時



災害時には陸の交通がダウンすることが考えられます。その際、船舶を使ってリバーターミナルまで物資を輸送します。また、陸側に緑地を整備することによって被災者への炊き出しなどに使うことを想定しています。

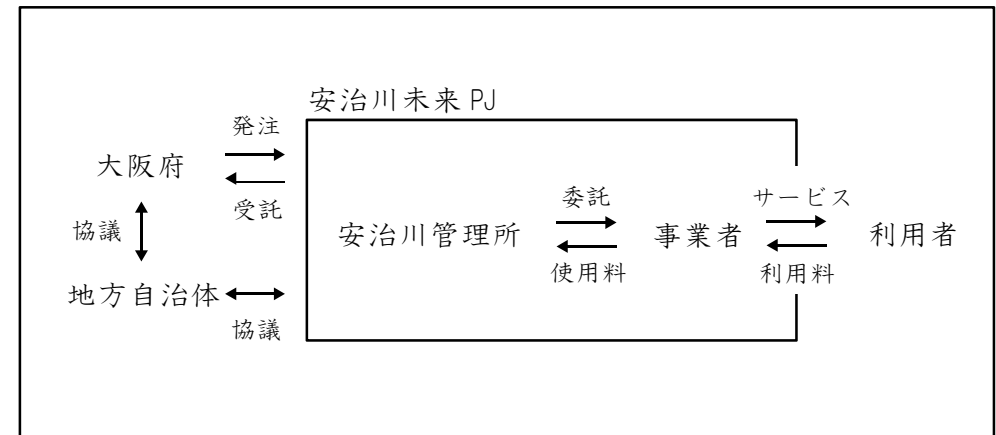
非常時



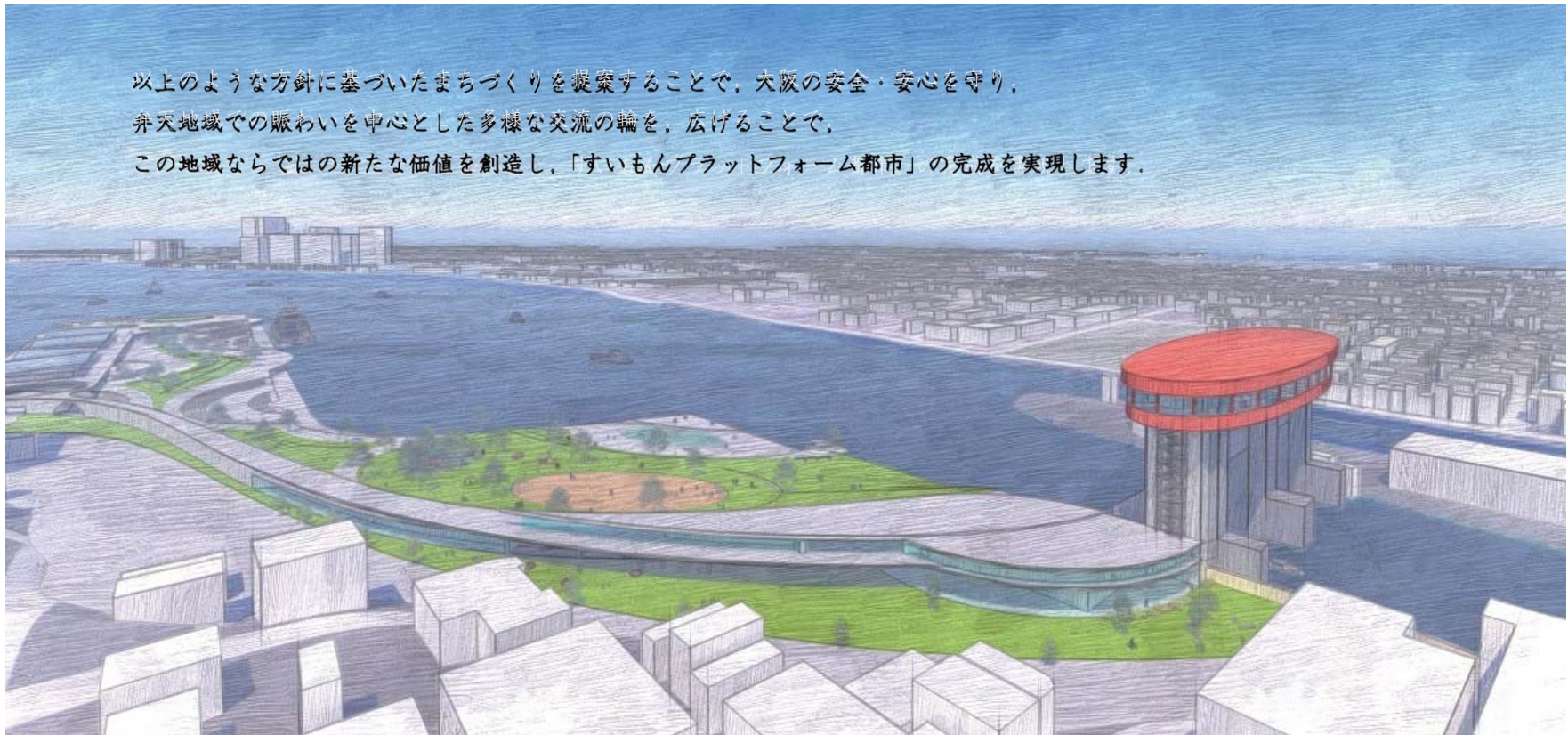
6. まとめ

地域活用スキーム

オープンスペース、工場群跡地の空間については統一感のある事業者、利用方法が望ましいです。そこで右のようなフローに基づき、安治川管理所を中心とした管理体制を構築します。安治川管理所から事業者によるサービス提供までを安治川未来プロジェクトと名づけ、水門周辺での交流をより一層活性化させていきます。



以上のような方針に基づいたまちづくりを提案することで、大阪の安全・安心を守り、
 弁天地域での賑わいを中心とした多様な交流の輪を、広げることで、
 この地域ならではの新たな価値を創造し、「すいもんプラットフォーム都市」の完成を実現します。



〈作品 004〉

帰ってきた「まちみなと」
Benten Biennale

チーム名：NE-2

水野裕介（大日本コンサルタント株式会社）

近藤美沙希（同）、坂元泰平（同）

奨励賞

帰ってきた「まちみなと」 Benten Biennale

「こんなところに新しい港が出来たのか。珍しいな、ちょっと寄ってみようかな。」
水族館・遊園地を楽しんだ帰り。弁天埠頭というどこか懐かしい響きの船着き場があることに気づく。
大きな榎と松が堤防沿いに生い茂った弁天埠頭の釣り人が古い水門と新しい水門を横目に見ている。

「弁天町って、活気のある港だな。若い人たちと交流出来る場所が多いね。」
大阪万博をきっかけに、弁天埠頭の舟運は整備された。弁天町はアーティストの卵たちが育つ街として、
昭和時代には、そこにあった人の温かみのあるまちを取り戻そうと歩みを進めている。

「古い水門にはしっかり感謝して、ゆっくりと休んどいてもらおうか。」
新しい水門が完成し、高潮だけではなく津波にも備えられるようになった。
それでも、アーチ型ゲートは川の玄関口として人々に必要とされるシンボルである。





年代	説明
1683年	河村瑞賢が九条島を二つに割いて安治川を開削。「天下の台所」と称される水運の発達した大坂市街が形成された。
1868年	大坂開港 安治川左岸に位置する富島が開港場となるも、外国船が進入できない問題があった。
1873年	ヨハネス・デ・レーケが淀川の治水および港湾機能回復の案の中で、天保山付近に新港を建設することを提案するも、財政難で事業は進まず。
1905年	天保山渡船場開設 大阪港の繁栄を企図した大阪市が港湾振興策の一環として始めた。
1939年	大阪市第一次修築工事 完工 安治川河口から直線的に伸びる防波堤を築く。
1945年	第二次世界大戦により、大阪大空襲によって壊滅的な被害を受けた。
1947年	大阪港修築10ヶ年工事 港区を全面的に盛り土して区画整理を行う。
1950年	ジェーン台風 高潮による浸水が起きる。
1965年	弁天埠頭開業 ジェーン台風の影響から運河地帯などは拡幅され、弁天埠頭に港を移した。関西汽船と加藤汽船がフェリーを操業した。
1970年	安治川水門完成 現在に至るまで台風から市民を守り続ける。
1990年	海遊館が開館する。
1996年	弁天埠頭閉業 同年、大阪港国際フェリーターミナル開業 フェリーの機能が移動する。
2001年	ユニバーサル・スタジオ・ジャパンが開園する。
2008年	大阪南港フェリーターミナルが一部供用。コンテナ埠頭をフェリー埠頭に転換した。（南港のフェリーさんふらわあの前身は弁天埠頭にかつて存在した関西汽船である。）
2020年	大阪市港区役所主催によって、フェリーの社会実験が行われ、弁天埠頭－舞洲間および、弁天埠頭－天保山渡船場間を試験運行が行われた。

■フェリー乗船場の興隆

昭和中期、ジェーン台風が大坂を襲い、安治川河口近辺の街の多くが浸水した。これをきっかけに弁天町および弁天埠頭の整備が推し進められ、現在の弁天埠頭が完成した。関西汽船や加藤汽船といったフェリーが操業される客船埠頭として、大坂から高松や別府まで結び、華やかに繁栄する。

平成に入ると、咲洲の埋立地において大阪港国際ターミナルが開業し、一方で弁天埠頭は閉業となった。弁天のフェリー乗り場は、時代の潮流の中で街から離れた埋立地へと移った。現在は弁天埠頭のかつての賑わいの面影を残すレトロな外観の加藤汽船ビルが辛うじて当時の面影を今に伝えている。

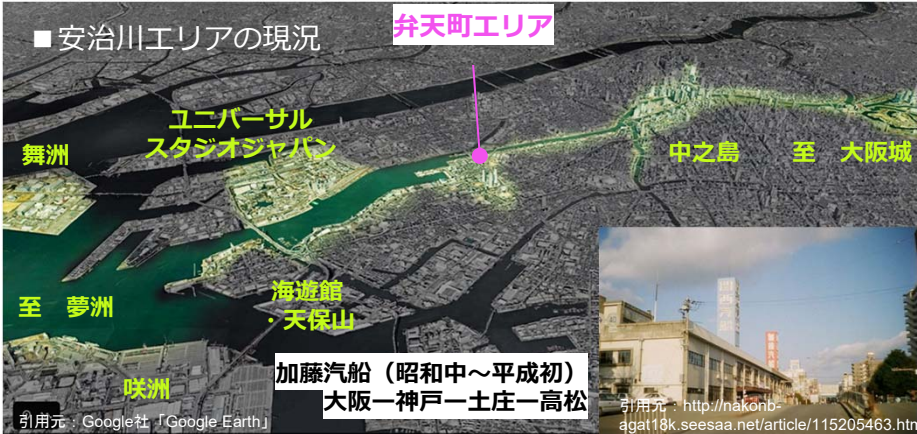
■弁天埠頭および安治川水門の立地条件

弁天埠頭は大阪城一中之島間といった市街地側の観光地をめぐる舟運のルートから、ユニバーサルスタジオジャパン－天保山間、舞洲－咲洲間といった海岸線の舟運ルートの中間地点に大きな空白区間を生み出している。

昭和に川幅が狭窄した箇所を設置された安治川水門は、巨大なアーチ形状の水門の下に半世紀以上舟運交通を通してきた中で、人々の心の中に、まさに「川の玄関口」としてのイメージを形作ってきた。

■弁天埠頭および安治川水門の現況

弁天埠頭エリアは、「客船ふ頭としての賑わい」を見失い、新安治川水門建設の計画および旧安治川水門の処遇を巡って、「川の玄関口」としての在り方の再考を迫られ、大きな契機を迎えている。

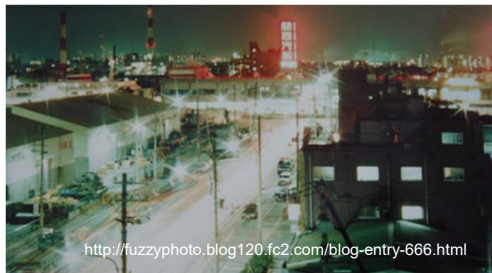


引用元：http://nakonb-agat18k.seesaa.net/article/115205463.htm

①埠頭の整備と舟運の恒常化

まずは失われた埠頭の機能を取り戻す必要がある。しかし、モータリゼーションの進展により、パーソナルな移動が主流な現代において、かつてのような大規模運航ではなく、地域の身の丈にあったスケールの運航に向けた試行を行う必要がある。

▶定期便の就航/運航ルートを選定/船着き場の整備 など



黎明期の弁天埠頭の夜景



フェリーにて四国・九州に向かう
修学旅行生

■復活した弁天埠頭の舟運



『物流中心の港区でも、広大なヤードを必要とする物流システムが、結局のところ一般市民と船舶との距離を大きくした。
 (中略) 以上のような港湾規模拡大の流れの上に、この地の港湾機能も移転配置されることがこれまでは多かったのである。
 たとえば、フェリーふ頭は、乗船待ちの車画のために駐車場が必要とはいえ、市街地から離れた埋立地先にレイアウトされた
 という事例が少なくない。それほど広大なヤードを必要としないはずの客船ふ頭も同様である。』

画像引用元：Google社「Google Map」

国土交通省 規範事例集【港湾編】より引用

②レジリエンスなソフト・ハード整備

元来の水害に弱いまちという立地条件に加えて、近年、気候変動による災害の頻発化や大規模化、南海トラフの危機など、災害への備えは最重要課題である。埠頭への入港船舶隻数は大きく減少しているものの、現在でも上屋が数多く立ち並んでおり、まちと水辺を分断している原因となっている。

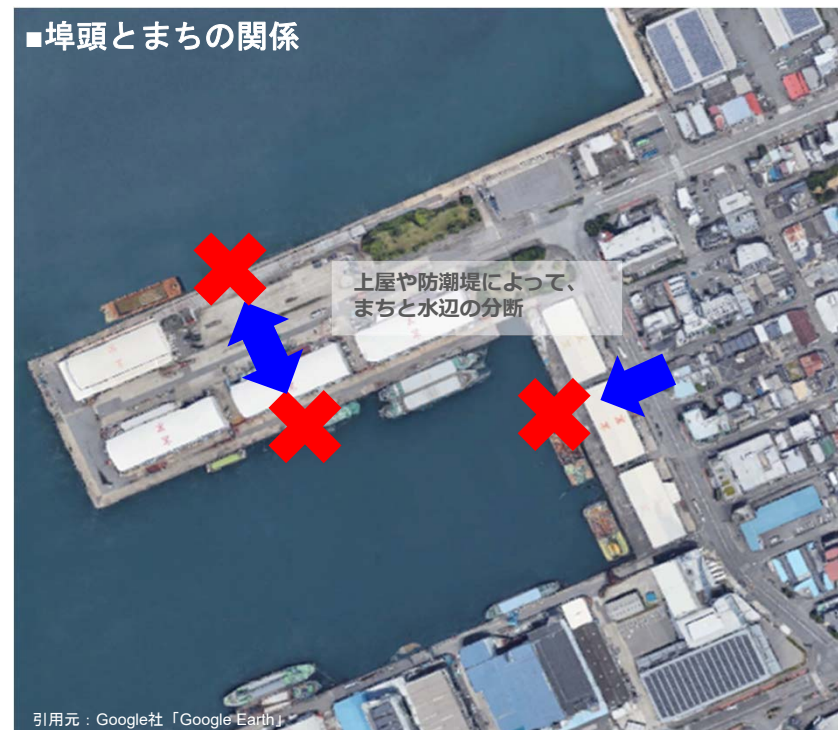
上屋や防潮堤が水辺に蓋をしている

子どもたちの好奇心

危険視されさらに遠ざかる

人と水辺をつなぎ、
水辺に関心を
持ち続けることで、
水害に適應する

■埠頭とまちの関係



上屋や防潮堤によって、
まちと水辺の分断

引用元：Google社「Google Earth」



立ち入り禁止の看板が並ぶ
弁天埠頭入口



台船

弁天埠頭

引用元：http://omb1.jp/daisenbf.html

台船上で遊ぶ子供達（平成後期）

本提案では、上屋の数の適正化を行い、まちと人の分断を解消する。あわせて埠頭へのアプローチを整備し、日常・非日常のアクティビティを通じた水辺への関心の維持し、災害へ備える。

▶台船の利活用、アクティビティスペースの整備



弁天町周辺エリア（弁天埠頭・オーク弁天商店街等）

この地域は戦災や**高潮被害**など幾度の困難を乗り越え、弁天埠頭開業後は四国・九州への玄関口の港町としてたくましく輝かしい時代が培われてきた。やがて、時代の移り変わりにより、**舟運は衰退**し、エリアの玄関口は弁天埠頭から弁天町駅へと移り変わった。その後、弁天町駅前開発土地信託事業によるORC200（現大阪ベイトワー）竣工以降、現在に至るまで開発が進められている。開発により駅周辺の利便性が高くなる一方で、来訪者の**エリアの回遊性**は乏しくなっている。さらに、高層マンションの建設による新旧の住民が混在し、**コミュニティの希薄化**が懸念されている。そのような中、弁天埠頭の**旧加藤汽船ビル**にアート工房やデザイン事務所が入居したことをきっかけに、エリア内にも新たな世代の活動の兆しがみられている。

将来、舟運の復活により埠頭が玄関口としてかつての姿を見せるとき、弁天埠頭と弁天町駅という2つの玄関口の狭間となるオーク弁天商店街周辺エリアのあり方を検討する。

地域の目指す姿

南北のエリアや人の流れをつなぐ

新旧の住民や多世代をつなぐ

水害や安治川水門の記憶をつなぐ

人と水辺をつなぐ



整備のロードマップとコンセプト

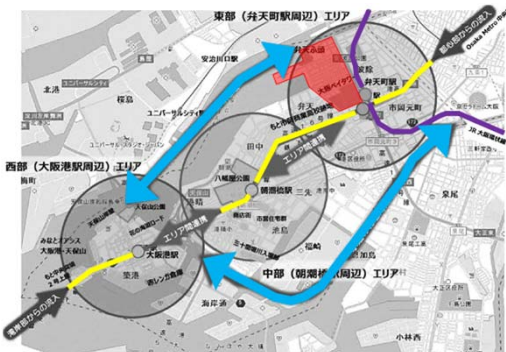
全体スケジュール



整備コンセプト

「〇〇の復興は港から」を合言葉に人々は手を取り合ってきた
時代に左右されない自分たちの港を、自分たちの手で創造しよう

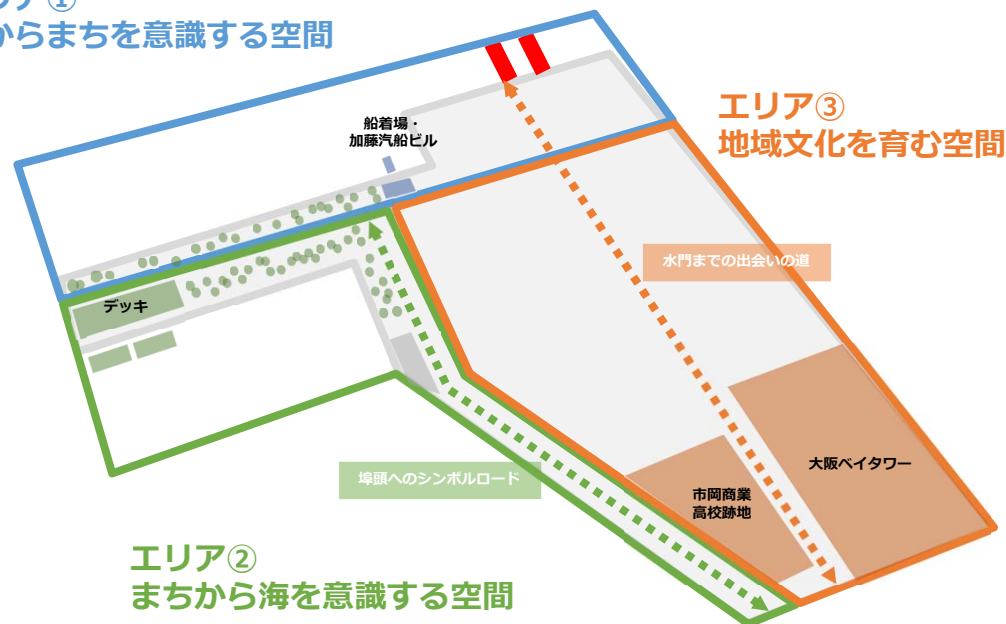
終戦時は「大阪の復興」を、2020年の社会実験では「コロナ復興」を、といったように、時代の変革の中心にはいつも港があり、人々は力を合わせてきた。産業構造の変化により埠頭の入港船舶が減少した今も倉庫群が立ち並ぶ港は一体誰のものなのだろうか。ヒューマンスケールの活動を展開できる自分たちの「まちみなと」として取り戻し、暮らしのスケールにそぐわないインフラの在り方を再検討する。陸（弁天町駅）と海（弁天埠頭）の2つの玄関口の機能を活用し、暮らしや地域文化、バリアフリー等、地域の求める姿を叶えるためのエリアモール化を実現する。



本エリアへ流入する自動車の主な利用は平日の事業者となっている。あえて自動車にとって不便な地域を作り出すことにより、沿岸に立地する大型の工業施設の立地を適正化し、地域が使える敷地を取り戻す。広域交通の軸となる中央通りの自動車交通を確保することにより、都心部からの流入の阻害やエリア間を分断することなく、エリア内のモール化を実現する。

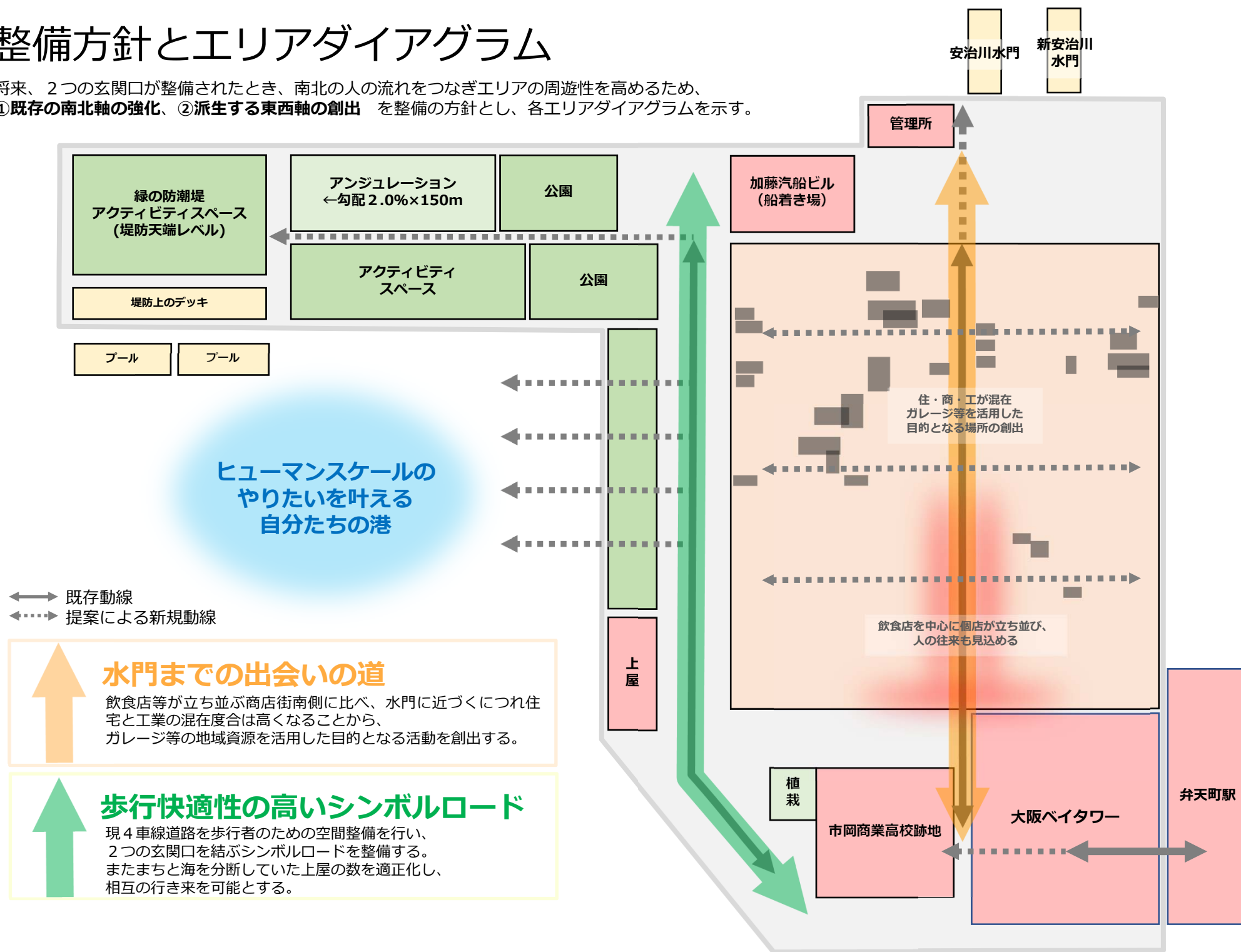
◀港区エリア別活性化プラン：エリア間連携図をもとに作成

エリア① 海からまちを意識する空間



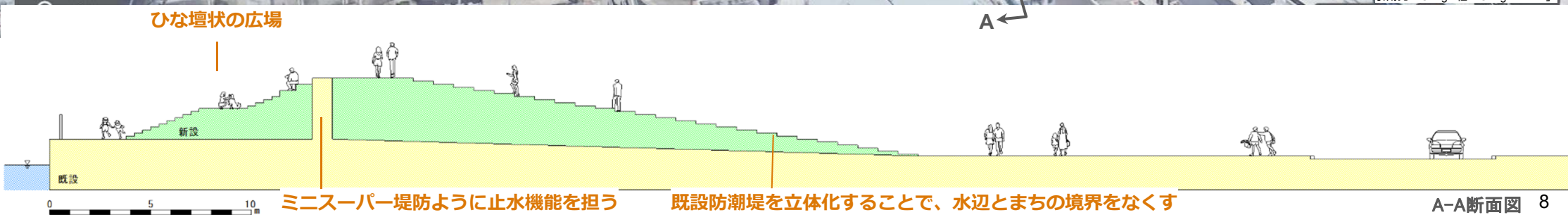
整備方針とエリアダイアグラム

将来、2つの玄関口が整備されたとき、南北の人の流れをつなぎエリアの周遊性を高めるため、
①既存の南北軸の強化、②派生する東西軸の創出 を整備の方針とし、各エリアダイアグラムを示す。



水辺とまちの境界をやわらかくつなぐ

タワーマンションに暮らし、水害にあまり関心の無い住民。
使われなくなった上屋や敷地を囲むカミソリ型の防潮堤は、
水辺を街区の裏側たらしめている。
そこで、上屋を撤去し防潮堤に階段状の構造物やスロープを配置することで、
水辺とまちを面的に、境界をやわらかくつなぐ。
また、台船上でのプールやBBQ、水上アクティビティなどによって、
水辺に触れる機会が増え、徐々に関心が水辺に向いてくる。
その関心は、生活を豊かにするだけでなく、
突然起きる水害リスクについて考えるきっかけも与えてくれるだろう。



旧加藤汽船ビルへのアート工房やデザイン事務所などの入居、民泊ベンチャー企業のクラウドファンディング企画、リノベーションシェアハウスなど、「歴史」「利便性」「コミュニティ」等、弁天町エリアという土地の様々な魅力に惹かれて集まる若者たちの活動は**弁天町の新たな地域文化**といえよう。

大小の工場が点在する本工エリアの特性を活かし、休日には遊休状態となってしまう**事業所の「ガレージ」**をアーティストの表現の場として活用し、まちに**アートを拡げる**ことで同時にエリアの**周遊性を高める**。

アート活動に対する機運を高め、住民や企業の支援のもと市岡商業高校跡地を**アーティストインレジデンス**の拠点として整備し、まちでアーティストを育む環境を整え、アートという共通言語を介して、まちが**多様な価値観の受け皿**となる素地を築いていく。



■大阪における水防の歴史

かつて大坂の街は、室戸台風、ジェーン台風といった昭和の大型台風による高潮被害において、数万人に及ぶ死傷者が出る被害を出していた。昭和中期、当時可能な限り最悪の事態を想定し、安治川水門を含む三大水門の設置以降は高潮による大きな被害は出ていない。平成に入って南海トラフ巨大地震の被害調査が行われた際、既存の水門では、高潮には耐えるが、津波には耐えない事が調査によって明らかになり、2021年になると、安治川水門の全面改修に向けた調査、検討が進められている。

安治川水門は、現在も現役で高潮の度に稼働しており、昨今では、2004年の台風16号・台風18号、および2018年の台風21号による高潮の被害を食い止めた。

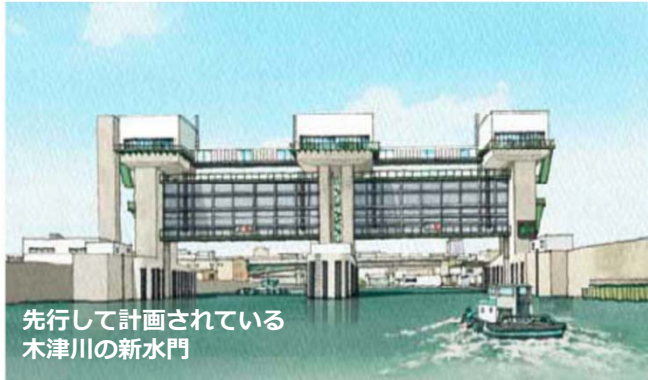
■旧水門の構造

旧水門は、開閉作業の際に四分円形状をしたガイドアーチの軌道に沿って、アーチ型ゲートをケーブルによって引っ張りながら昇降させていく構造を取っていた。そのため、傾く角度が急になるにつれ、ケーブルに掛かる力が増加していくため、水門のコントロールの為に常に動力源を確保しながら稼働する必要があった。南海トラフ巨大地震を想定した調査の結果、被災状況次第では動力源を確保する事が難しくなる、アーチのヒンジ部分が津波の力で壊れてしまう等の問題があり、アーチ型ゲートの水門は改築の必要に迫られた。

■新水門の構造

木津川にて先行して検討されている新水門は、水門を閉じる際に電源を必要とせず、自重のみで閉鎖が可能なローラーゲート式の水門が採用された。柱の頂上にはゲートの昇降に用いるケーブルを巻き上げる為のウインチが設置されており、管理用の上屋で覆われた形状が想定されている。

年代	説明
1934年	室戸台風 死傷者数17,898名（大阪府下）の被害を出す。
1939年	大阪市第一次修築工事完工 安治川河口から直線的に伸びる防波堤を築く。
1947年	大阪港修築10ヶ年工事 港区を全面的に盛り土して区画整理を行う。
1950年	ジェーン台風 死傷者数21,465名（大阪府下）の被害を出す。
1961年	第2室戸台風 死傷者数2,165名の被害を出す。
1965年	大阪高潮対策恒久計画策定 河川の河口部に防潮水門を設け、海水の遡上を防ぐ計画が策定される。
1970年	安治川水門、木津川水門、尻無川水門が完成。伊勢湾台風クラスの台風が室戸台風の経路を通り満潮時に大阪を直撃したケースを想定し計画。船舶の航行が盛んであったためにアーチ型水門を採用。
2013年	「南海トラフ巨大地震の被害想定について（第二次報告）」が報道発表される。南海トラフ巨大地震で大阪府の三大水門が開閉不能となることより、改築の計画が挙がる。
2018年	台風21号 三大水門が高潮被害を防ぐ。
2019年	「南海トラフ巨大地震の被害想定（施設等の被害・経済的な被害）（再計算）」が報道発表される。
2021年	安治川水門の全面改築に向けた調査検討に着手。



■水門の頂部を軽い印象とする

四半円計形状のガイドアーチに沿わせる様にケーブルの力を作用させることにより、**柱の上方に位置していた上屋をガイドアーチの下端位置まで引き下げ**、管理のスペースを水門の後ろに隠し、**全体としてすっきり**とさせた。

■水門管理所は再活用する

水門の管理所は、**海側の様子を把握しやすい立地に配慮して、旧水門の施設を再活用**する。水門の操作は遠隔操作で行い、災害時など必要に応じて、職員が水門裏の管理用通路にある上屋に常駐出来るようにする。

■旧水門を保存する

半世紀にわたる高潮との闘いの証として、安治川水門のアーチは残置することで、**海に向き合う安治川の玄関口としての機能を引き継ぐ**。一方で、アーチ水門を陰から支えてきたガイドアーチには今一度スポットライトを当て、新しい水門として再活用することで、半世紀以上もの長きに渡って**水害と闘ってきた強い意思や人々の水門に対する記憶は、連綿と後世へと引き継がれていく**。

■水門の上屋は一般開放する

新しい水門は、台風などの水害発生が予測される場合を除いて、一般開放し、頂部に上ることが可能な設えとする。水門を上ると海側に視界が開け、**天保山斜張橋や観覧車、大阪湾を一望**できる。

■地震時に稼働出来るローラーゲート式水門

新しい水門は、木津川で計画されている構造と同じ、ローラーゲート形式を採用することにより、**地震時など電源が無い場合も自重で水門を閉じられる**ように設計する。

■三大アーチ型水門のガイドアーチを移築

時を同じくして、令和の時代に改築を迎えている木津川水門、尻無川水門からも、撤去を予定されているガイドアーチを、特に舟運による観光が見込まれる安治川に移設することで、**当時の三大水門の健闘ぶりを偲ばせる**。

イメージ図



引用元：
https://www.tripadvisor.co.jp/Attraction_Review-g14134368-d553575-Reviews-Odaiba_Kaihin_Koen_Odaiba_Seaside_Park-Daiba_Minato_Tokyo_Tokyo_Prefecture_Kanto.html

■水門の頂部から見える景色

水門の頂部には展望のため、デッキスペースを設置。眺望を眺めたり、ジップライン等のアクティビティが楽しめる



引用元：Google社「Google Earth」

かつてモータリゼーションの影響で、歩いて行けるようなまちスケールの港を埋立地に吸い取られてしまった過去を振り返るかのように、安治川はかつてのヒューマンスケールな港「まちみなと」を復活させた。海と川の間にある舟運の空白区間となっていた弁天町エリアを復活させることは、海と川を結ぶ新たな拠点を生み出し、安治川全体の活用に影響を与えていく。

舟運の結節点として設えられた安治川水門のアーチは、海と川を結ぶ川の玄関口として変わらず人々に愛され続けていく。新しい水門は、古い水門からバトンを受け継ぎ、かつての水害との健闘ぶりを現在まで語り継ぐ。

弁天町エリアは、アートの町として息を吹き返し、他の場所にはない、地域文化の発信地となる。そこでは、アートは決して高尚な物ではなく、個人の価値観で計って良い、気に入れば顔の見えるアーティストからすぐ作品購入の交渉が出来る。そんな活気のある街を目指す。

コロナ禍を経験した日本は、歩いて行ける距離の地元のアクティビティに魅力を感じ始めている。フェリーに乗って遊園地へ行くという非日常の体験や、ゆっくりと地元のアートを鑑賞して過ごす休日というもの、悪くないのではないだろうか。



引用元: <https://www.pakutaso.com/20140722199post-4371.html>



引用元: Google社「Google Earth」



舞洲

ユニバーサル
スタジオジャパン

海遊館・天保山

弁天町エリア

中之島エリア

至 大阪城

至 夢洲

咲洲



引用元: Google社「Google Earth」



引用元: Google社「Google Earth」

引用元: Google社「Google Earth」

〈作品 005〉

みなと暮らし

～まちを守り続ける^{みなと}水門に触れる～

チーム名：チームみなと

山崎明日香、向田清峻、矢野槇一、
大利泰文、中村純子、矢吹槇



みなと暮らし

みなと

～まちを守り続ける水門に触れる～



Concept

旧三大水門の継承

日本でここにしかない
アーチ型のバイザーゲートを保存し
大阪のまちが守られてきた
歴史を伝える

役目を終えた旧三大水門を
街中で再活用する

新たな水門の提案

旧三大水門のアーチ型デザインを
継承しつつ
平時には門を陸地に引き込む
横引きスライドゲート方式とすることで
まちとの一体感を与える

受け継がれる旧三大水門と
一体となった空間を構成する

旧三大水門の歴史を伝えるとともに
新旧の水門を日常で身近に感じる空間をつくる

History

旧三大水門の特徴



日本でここにしかない
「バイザーゲート式」の
3基の水門

旧三大水門の役割



平成30年台風第21号の高潮から
大阪のまちを守る木津川水門

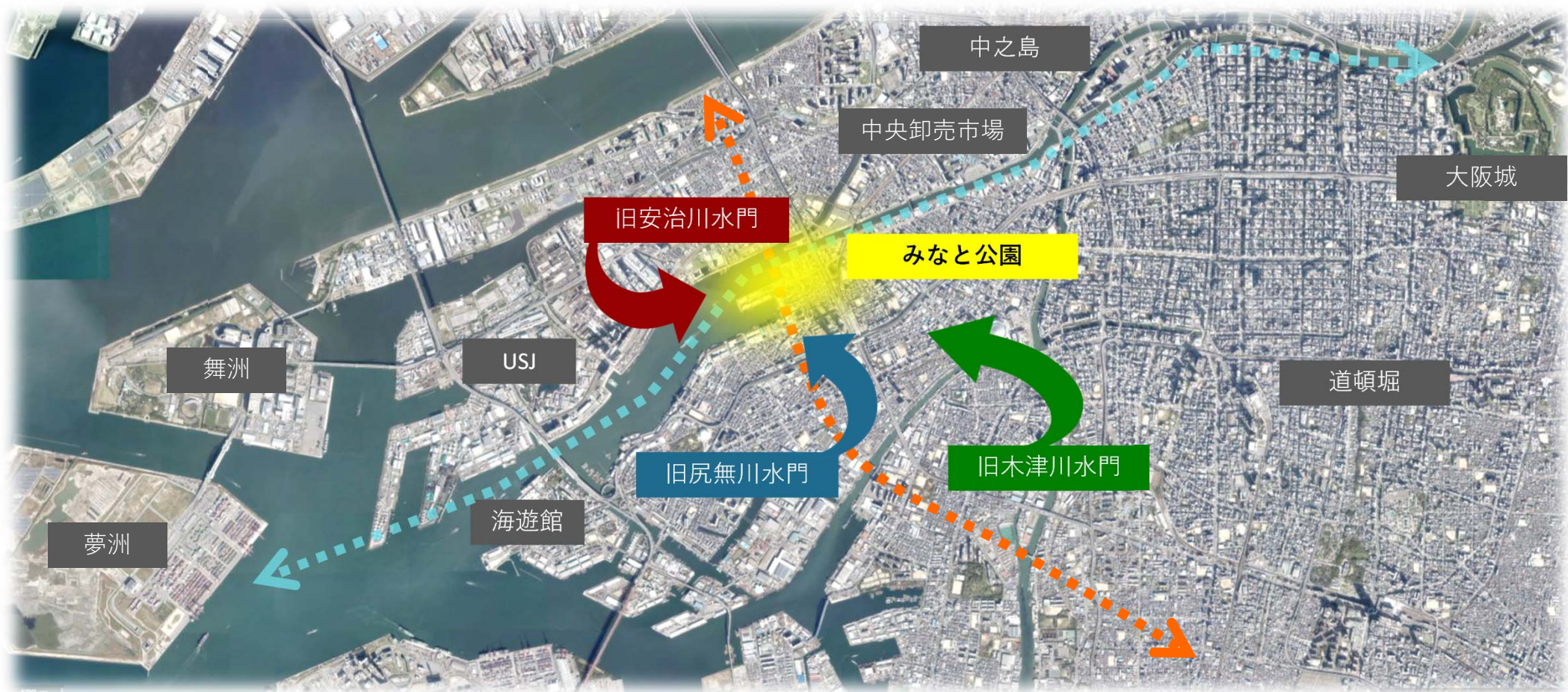
3基の水門がつながって大阪を守る

大阪を守ってきた旧三大水門を後世につなぐ

Site

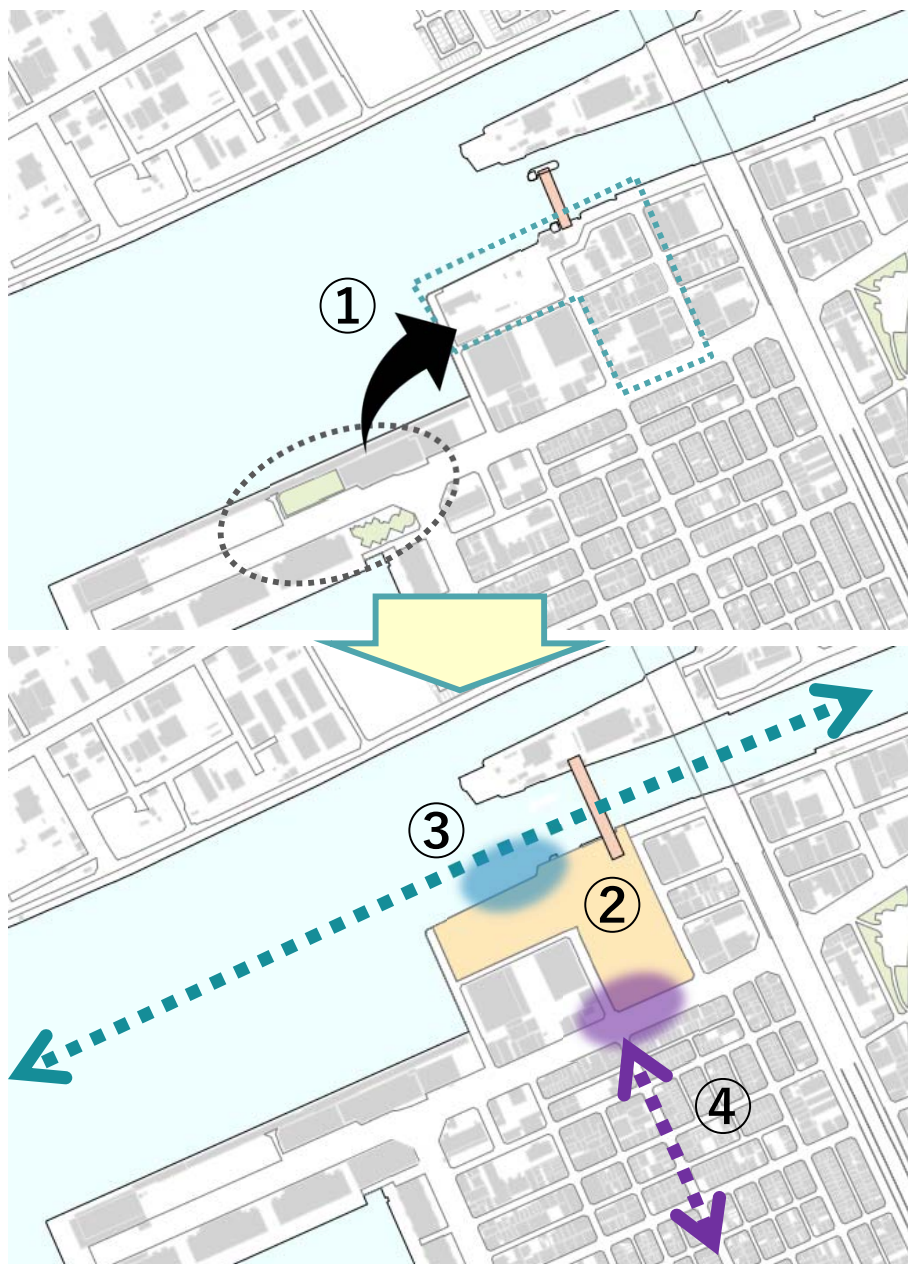
広域

- ・対象地は、中之島から夢洲までの“河川軸”と、高潮・津波への“防災軸”の交点となるエリア
- ・役目を終えた旧三大水門を対象エリアに集約・移設し “みなと公園” として整備
- ・「みなと」は、「水門」「港」「水都」の3つの意味
- ・旧三大水門の歴史を継承する場、災害への備えを伝える場、舟運と賑わいの拠点として位置づけ



Site

狭域



①旧三大水門の記憶を継承する公園の整備

区画整理手法により、周辺に点在する公共施設を水門周辺に集約・再構築し、公園用地を創出

②新水門の整備・旧三大水門の移設

役目を終えた旧三大水門を公園敷地に移設
新水門の整備とあわせ、みなと公園を整備

③河川軸との接点

公園に船着き場を整備し、安治川を介して中之島～みなと公園～夢洲までつながる周航ルートによる河川軸との接続

④まち軸（オーク弁天商店街）との接点

弁天町駅から商店街を抜け、公園へとつながる歩行者軸からのアイストップに配慮し、商店街からも水門を感じられる仕掛けづくり
駅や駅前周辺の再開発エリアから訪れる人々の動線を生み、弁天町エリア全体を活性化

Design

新水門 “すべり台”方式（重力式スライドゲート）の提案

- ・引き上げ式ローラーゲートでは、扉体および構造物が巨大となるために、河川軸からの眺望を阻害し、かつ河川区域内に閉じた構造物となってしまうことが懸念
- ・横からのスライドゲートとすることで、河川軸からの眺望を海までつなげるとともに、陸地の公園と水門をつなぎ一体感のある空間とし、水門を身近に体感することができる

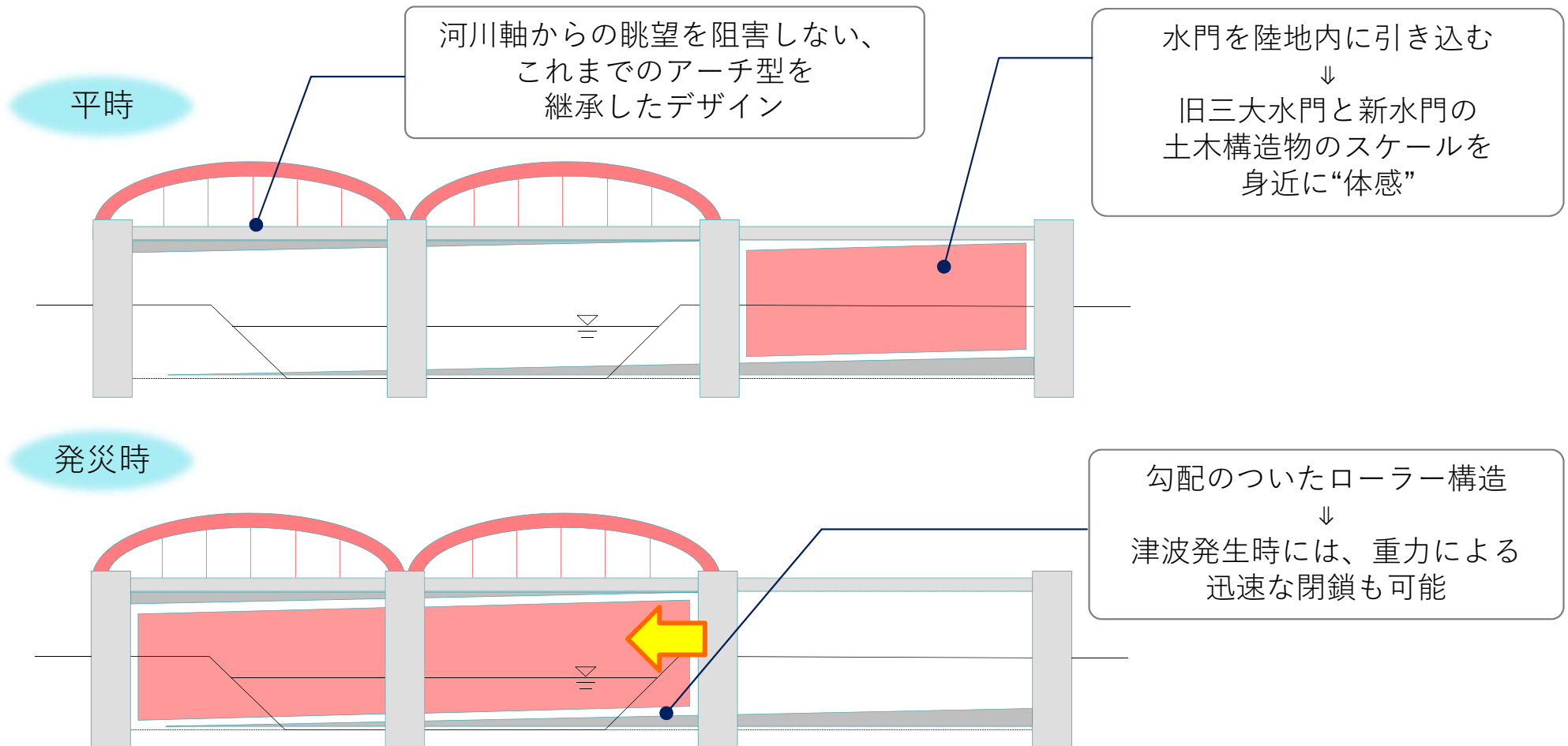


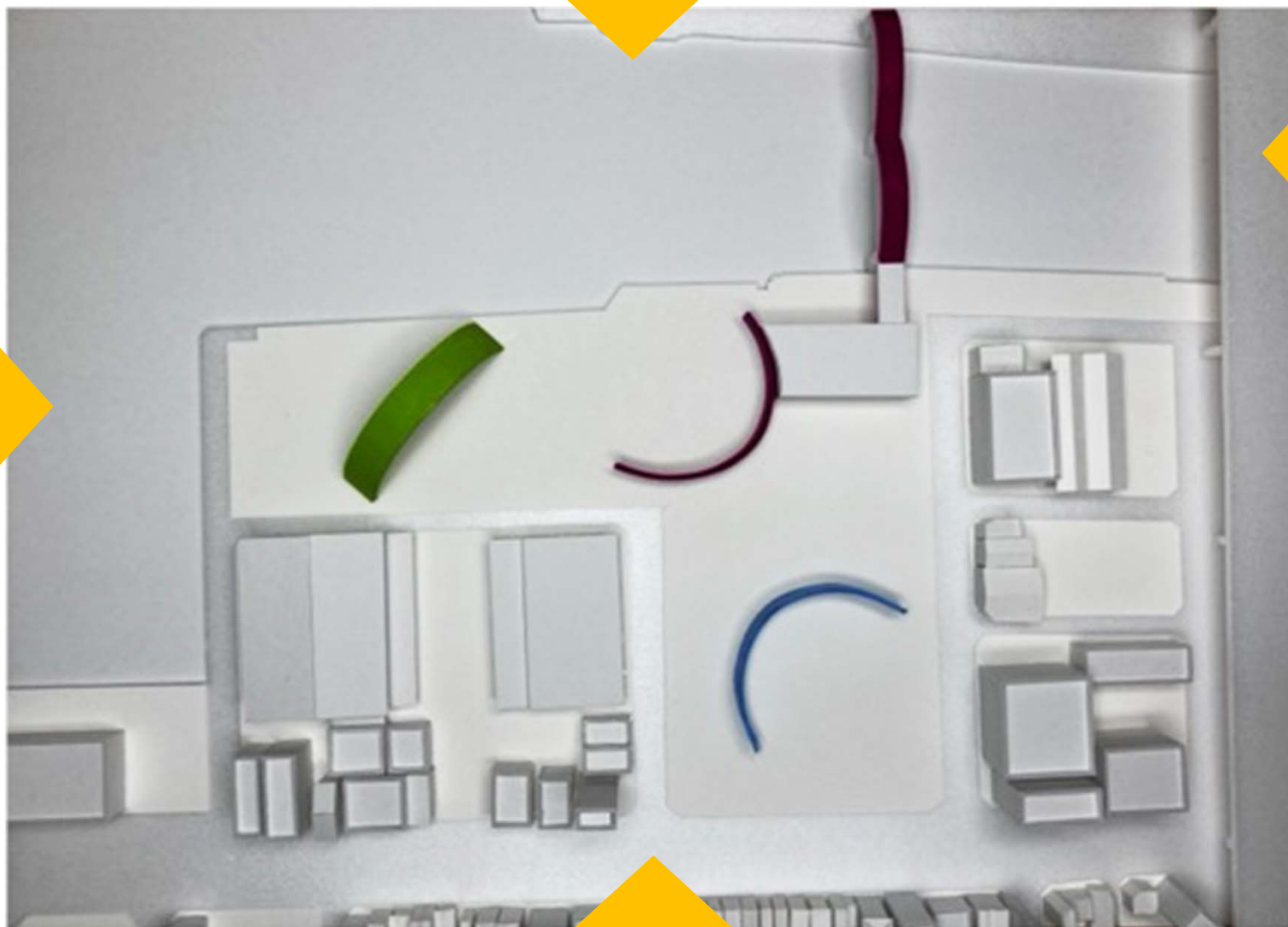
Photo Study

旧三大水門の配置・活用の検討

View Point 4

View
Point 1

View
Point 2



View Point 3

Photo Study

View Point 1

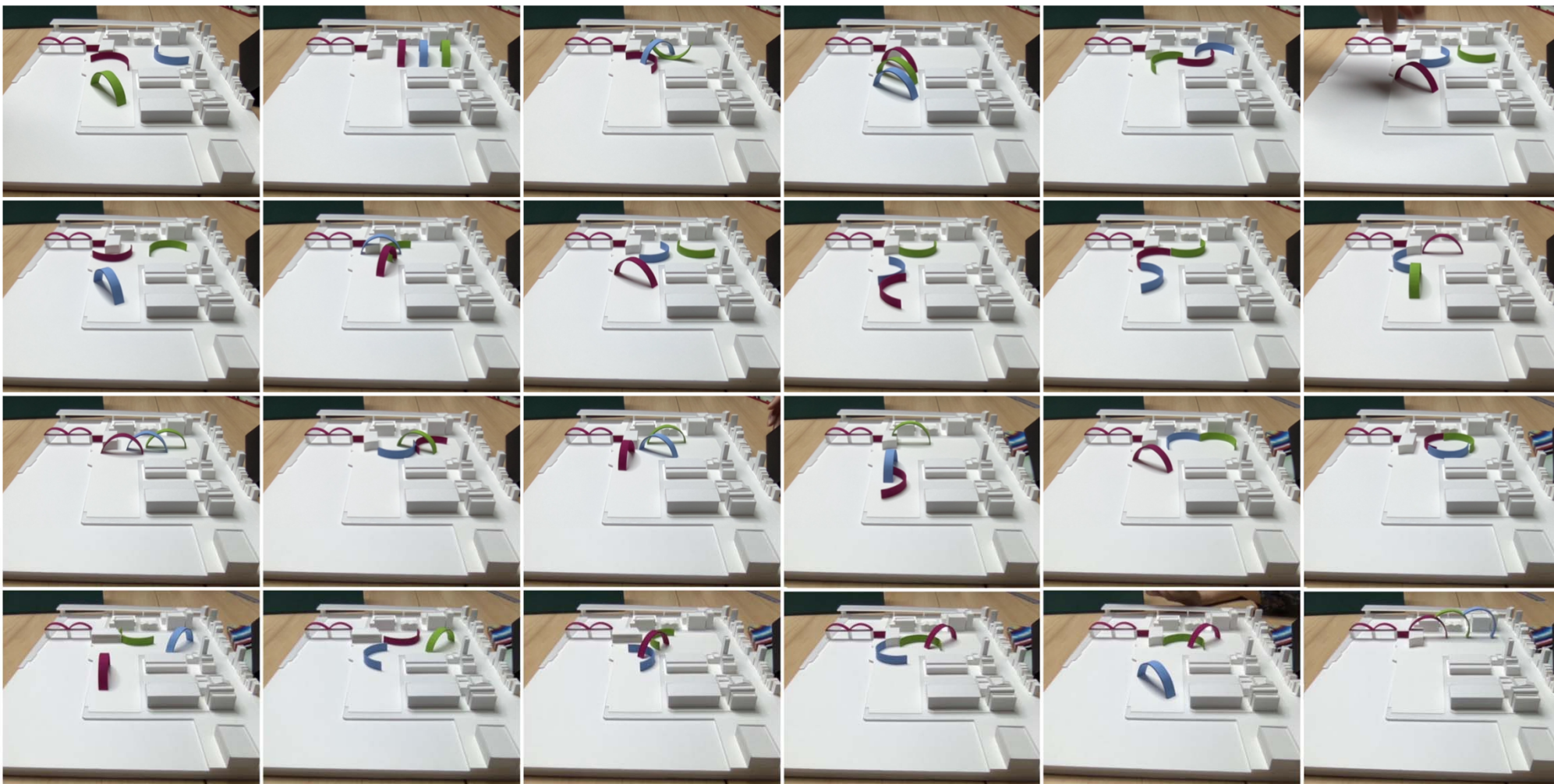


Photo Study

View Point 2

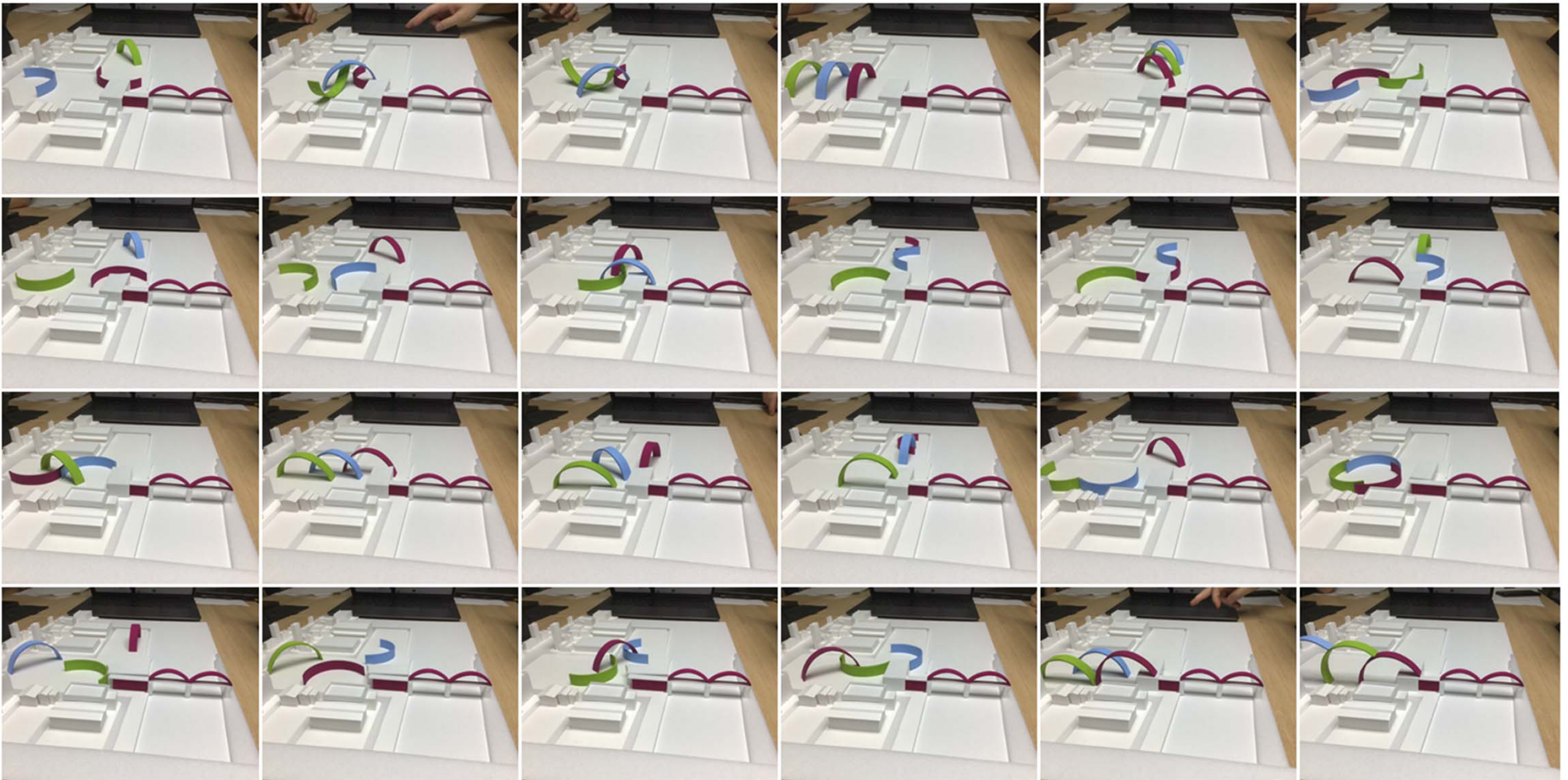


Photo Study

View Point 3

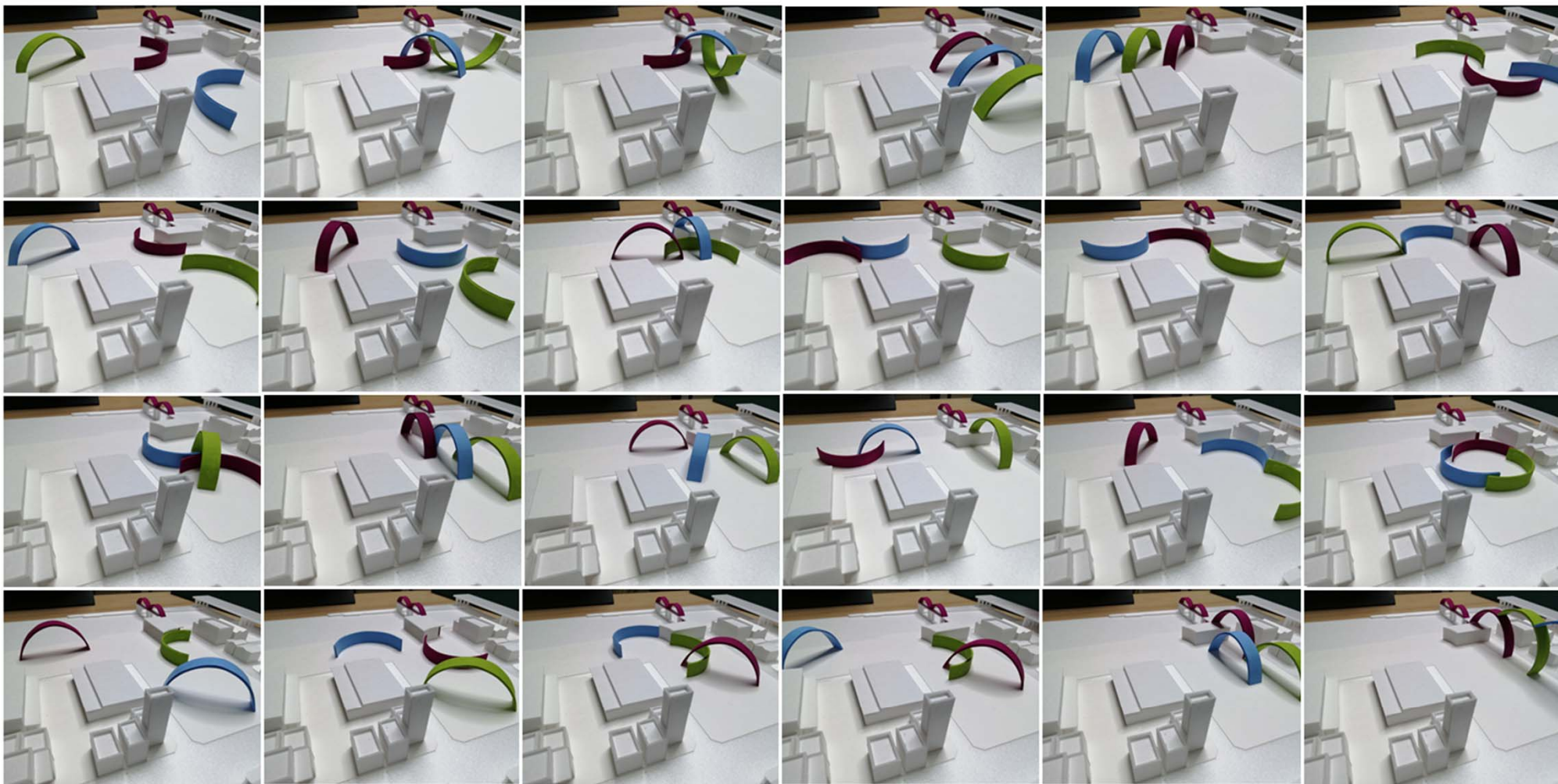
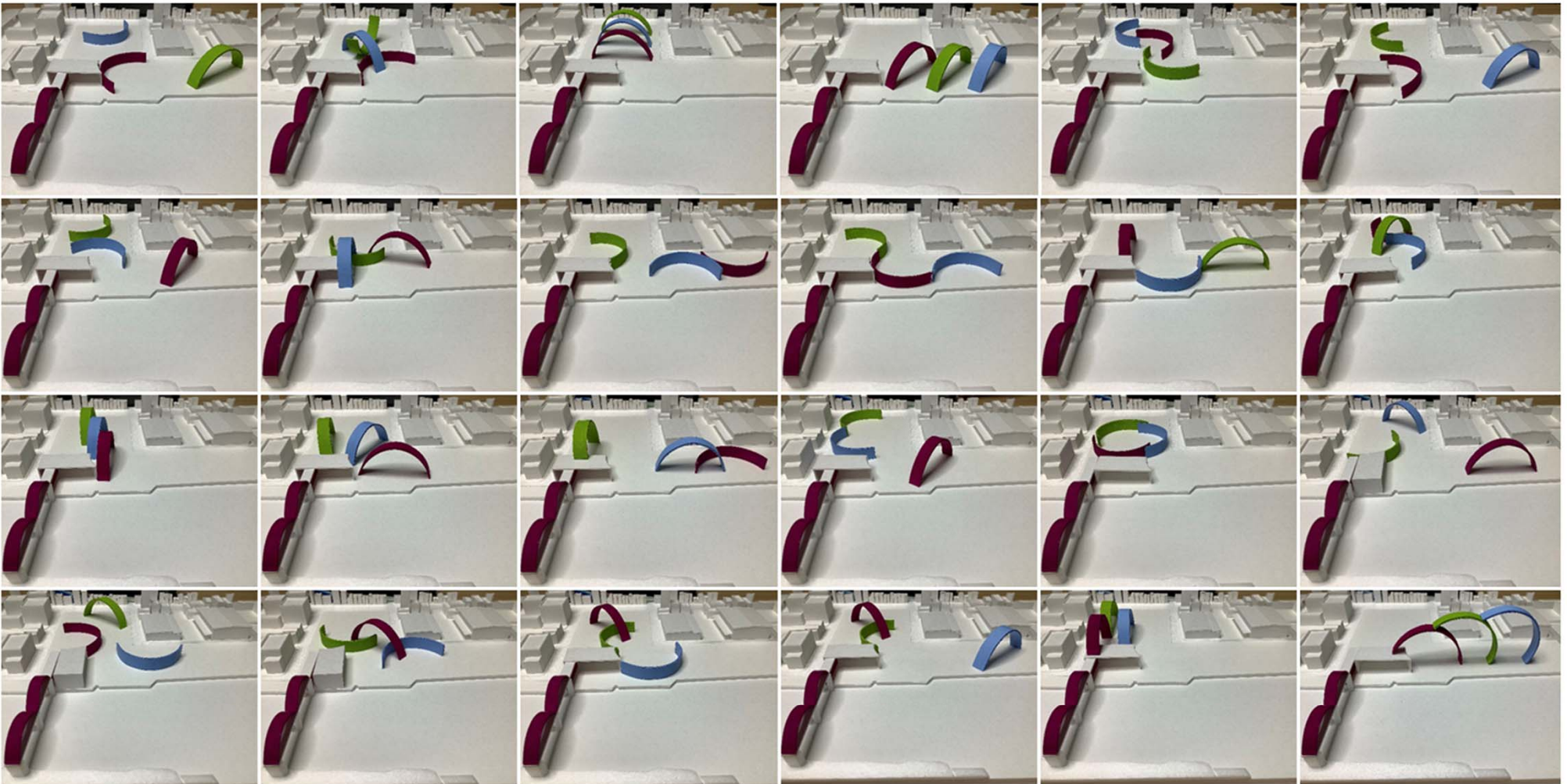


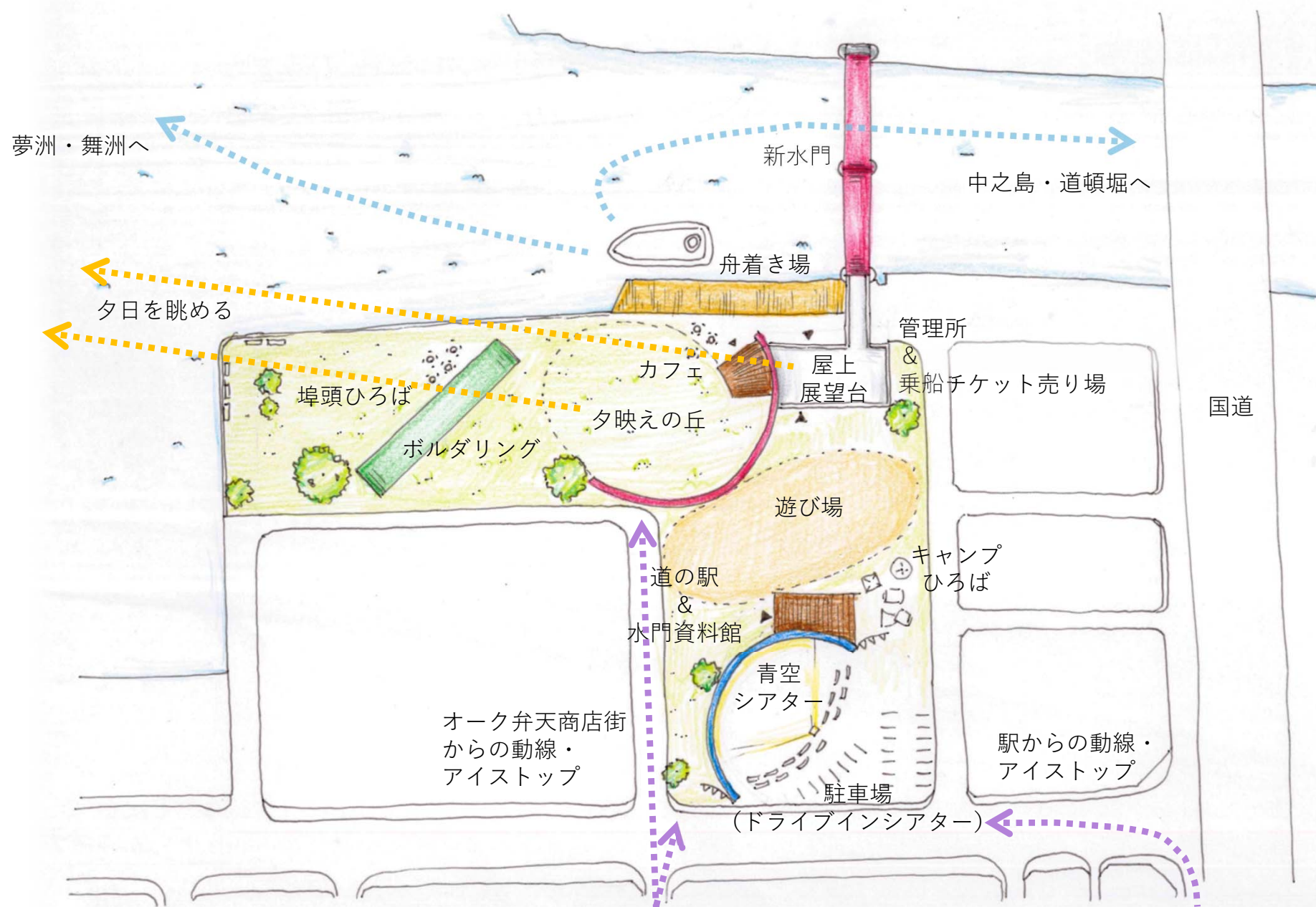
Photo Study

View Point 4



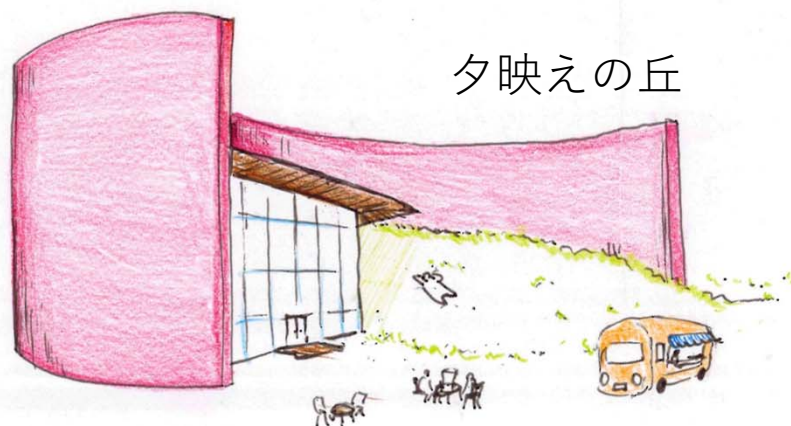
Design

みなと公園



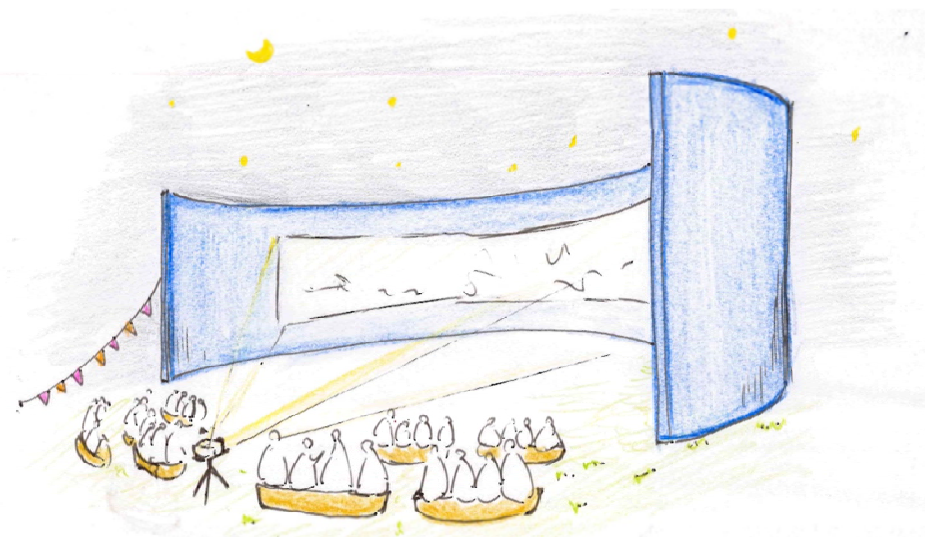
Design

旧三大水門



管理所
カフェ

キッチンカー
休憩スペース



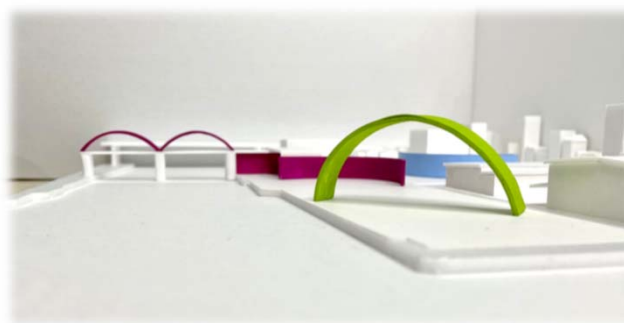
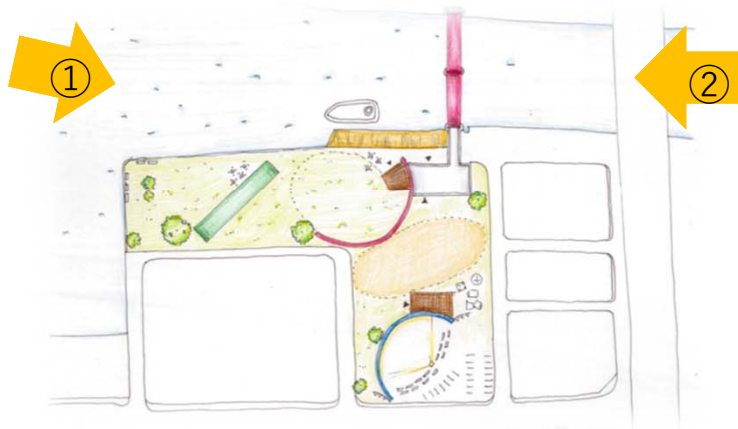
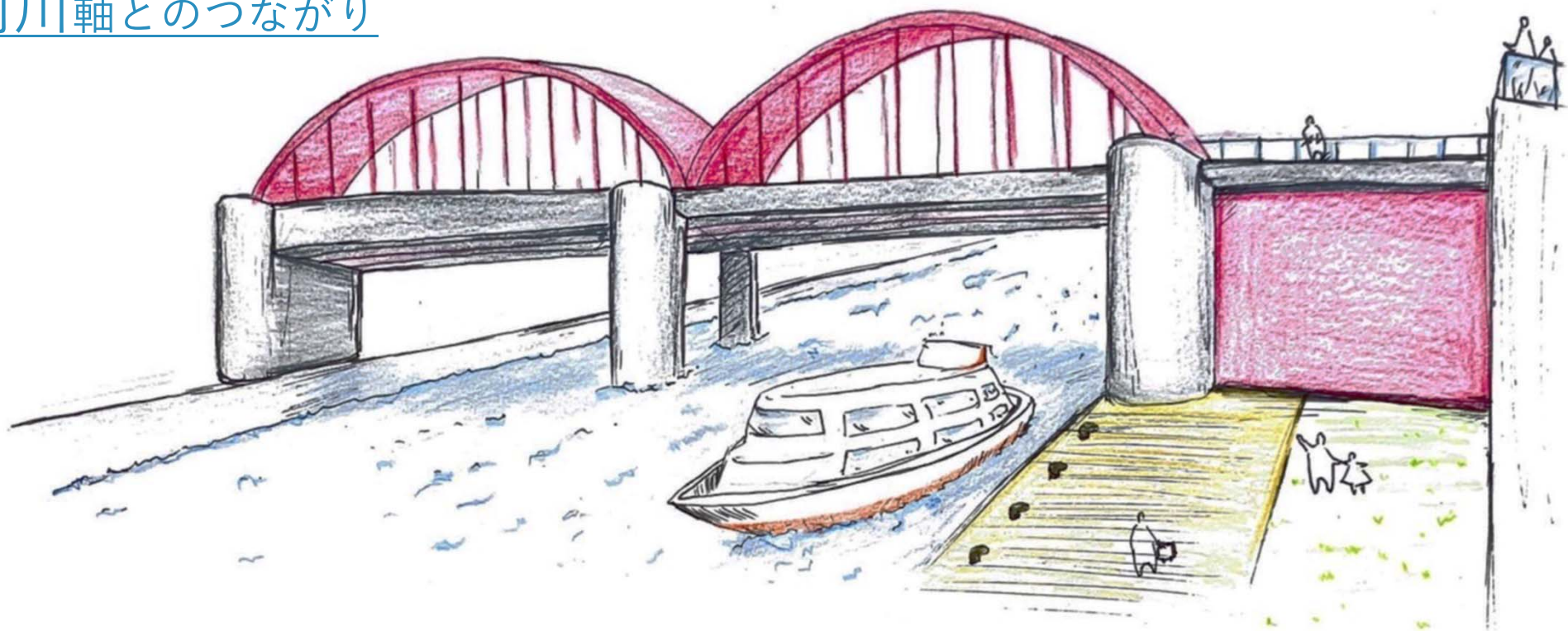
プロジェクションマッピング
屋外ナイトシアター



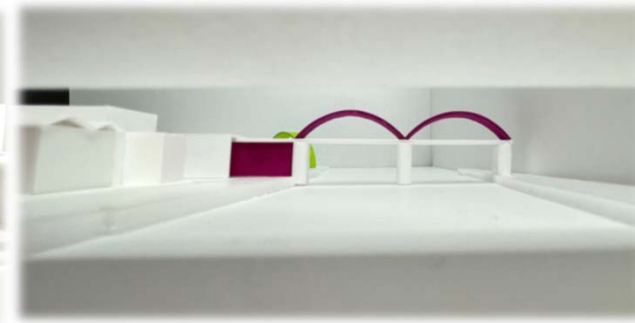
壁打ち

View

河川軸とのつながり



①市内に向かう船上からの視点

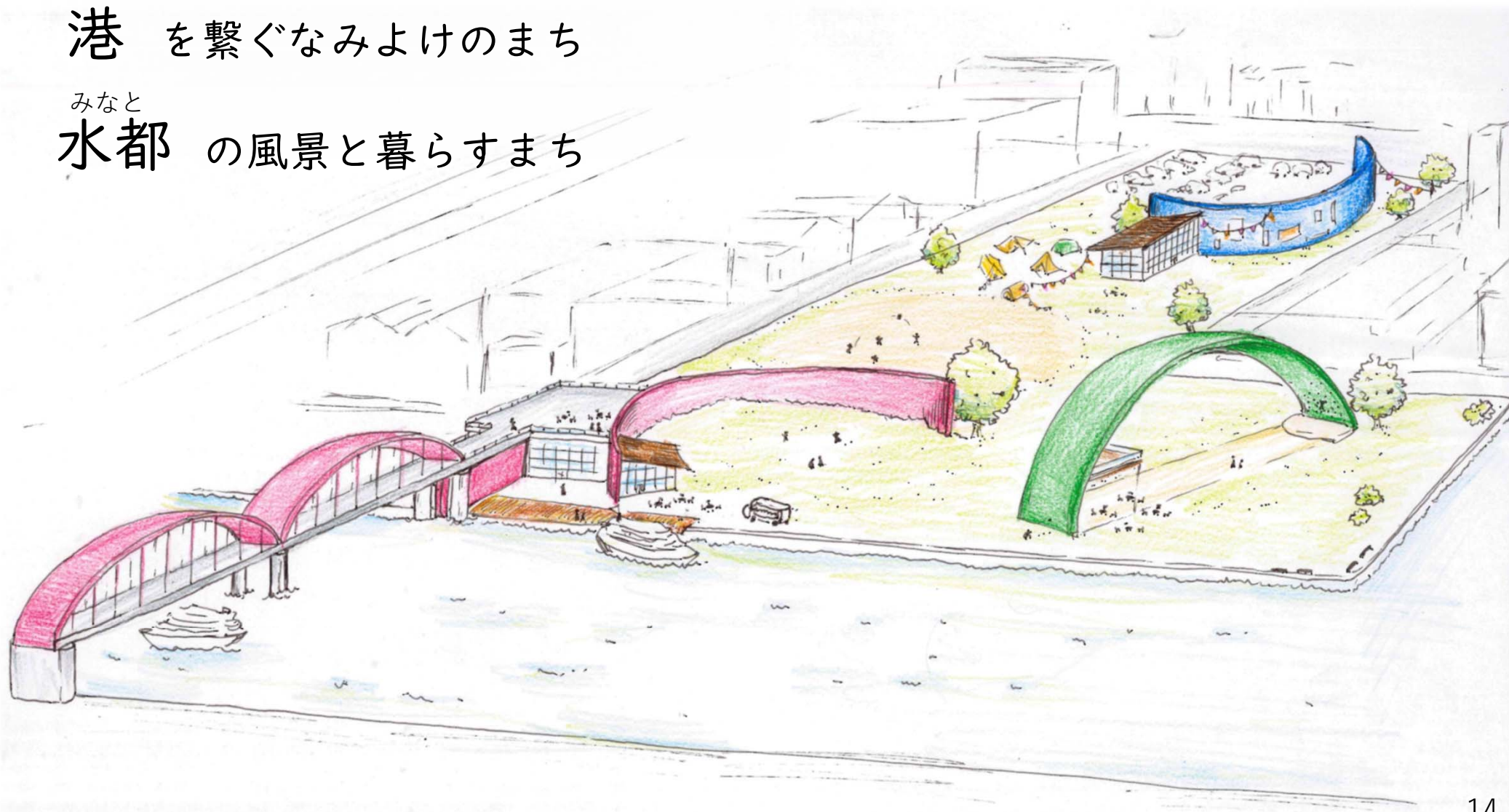


②ベイエリアに向かう船上からの視点

みなと
水門 で守り、水門 を遺すまち

みなと
港 を繋ぐなみよけのまち

みなと
水都 の風景と暮らすまち



〈作品 007〉

NEW GATE

ベイエリアと都心部を結ぶ場所

長谷川夏輝（富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科）

上埜由美子（同）、王永成（同学科 助教）

奨励賞

NEW GATE

ベイエリアと都心部を結ぶ場所

安治川水門は、時代の変化とともに人々の生活に寄り添ってきた存在である。これまでも自然災害から人々の命を守るという縁の下の力持ち的役割を果たし、これからもその役割を担っていく。

そして近年の大阪の活発なまちづくりは安治川水門にこれまでとは異なる表舞台的な役割を与えようとしている。

それは人々を迎える新しい「門 -gate-」下流側にあるベイエリアへ、または上流側にある中之島など大阪の都心部へ通じる門としての役割である。

本提案では、その両エリアを結ぶ場所として安治川水門周辺及び弁天埠頭を捉え、大阪のまちを陸上や海上で行き交う人々の交流そして余暇空間を整備する。



Night

morning



安治川と様々な流域

安治川は、中之島の西端から始まり、安治川水門を抜けて弁天埠頭、そして夢洲などのベイエリアがある大阪湾に流れる。



(a)



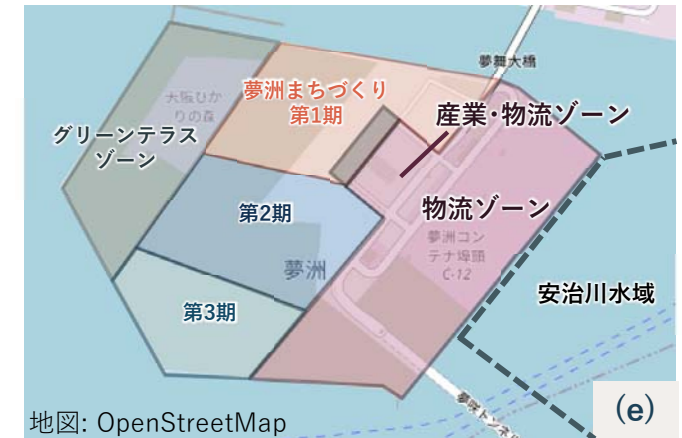
(b)



(c)



(d)



地図: OpenStreetMap

(e)

I. 中之島

中之島は江戸期に年貢米を扱う蔵屋敷が多く集まる物資拠点、明治から昭和初頭にかけては東洋一の商工都市として栄えた。大正期に建設された近代モダン建築や橋梁などが現在においても残っており近代大阪の優れた都市景観を形成されている。(a)

2008年に中之島を中心に、堂島川、土佐堀川その他、安治川、大川の一部が河川空間を活用する社会実験区域として指定されたことで、北浜テラスや川の駅はちけんやなどまちなかで水辺に親しむ空間が複数整備された。(b)

これらは「河川空間のオープン化」活用事例として国土交通省による「河川空間のオープン化活用事例集」で紹介されている。

II. 弁天埠頭

弁天埠頭は、1965年に安治川内港の旅客船ターミナルとして整備された。弁天町駅に近く利便性の高いため四国・九州への旅の玄関口として発展してきた。埠頭近くには船客待合所や土産店を設けたターミナルビルが建設され大きな賑わいを見せた。(c)

しかしモータリゼーションの進行により船客ターミナルの機能は次第に弁天埠頭からカーフェリーに対応した南港フェリーターミナルに移っていった。

その後1995年に弁天埠頭を発着する航路が廃止された。旧ターミナルビル(現:加藤汽船ビル)は建物の西側半分が解体されたが、企業が入居しており現在も使用されている。(d)

III. 夢洲・咲洲

咲洲や夢洲など大阪のベイエリアは、近隣のベイエリアと併せて関西圏の発展の鍵となる地域である。特に夢洲は、2025年に開催予定の大阪万博の会場となるエリアで洲内の開発が盛んに進められている。

夢洲は国際観光拠点として注目される他、産業・研究開発の拠点となることも期待されており、国際的なMICE施設やベンチャー企業等の育成環境の整備が進められている。安治川は、夢洲まちづくりのイメージにおいて産業・物流ゾーンとなる地域を水域に含んでいる。(e)

出典

(a)(b): 水都大阪コンソーシアム

(c): <https://www.city.osaka.lg.jp/minato/cmsfiles/contents/0000160/160768/2210.pdf> より抜粋

(d): コンペ参考データ

(e): https://www.pref.osaka.lg.jp/attach/37152/00337510/21_siryou2-1.pdf を参考に作成

安治川水門周辺と弁天埠頭

対象エリア内で、特に「弁天埠頭」は水都大阪の水辺として発展途上である印象を受けた。安治川水門のデザインと併せてこの地域を主対象に本提案を考える。



(a)

安治川水門改築計画の現状

大阪府の三大水門景観検討部会は三大水門の新たな形式として、経済性や津波、高潮水門としての機能性に優れた引上げ式構造ローラーゲートを採用した。今後は老朽化の進行程度から、木津川水門、安治川水門、尻無川水門の順に改築される予定である。最初に改築される予定の木津川水門は2020年度より景観検討が進められイメージパースが作成された。(a)

安治川水門の立地は、弁天埠頭など周辺地域の再開発計画が進められていることや中之島と夢洲などのベイエリアを結ぶ舟運ルート上にあることから、将来多くの人々から注目されることが予想される。安治川水門は安全安心のシンボルであることに加えて、水都大阪のプロジェクトや周辺のまちづくりを考慮してデザインを検討する必要がある。



(b)



(c)

安治川水門周辺の護岸の現状

護岸は、河川の水際線を構成する構造物で、河川の風景の中でも目立つ要素である。中之島西端から安治川水門にかけての乗船写真より護岸は擬石護岸、一部鋼矢板護岸が整備されていることが分かる。(b)

全体として単調な印象を受けるほか擬石護岸の一部には落書きが見られ、中之島-夢洲を結ぶ舟運ルートとして、また人々の身近にある河川空間として景観上の課題があると思われる。(c)



(d)



(e)

弁天埠頭の現状

弁天埠頭は現在公園として使用されているが川に面する位置が木々や塀で遮られ、水辺を視覚的に楽しむことが困難になっている。(d) またかつての船着場は通常、封鎖されていると思われる、水辺に近づきにくくなっている。

一方で、2020年11月に行われた港区による舟運社会実験「海まち弁天STREET」では弁天埠頭-舞洲（往復）、弁天埠頭-天保山西岸壁（往路のみ）で舟運が行われた。(e)

参加者は52名で、弁天町駅から弁天埠頭まではシェアサイクルも活用された。特に弁天埠頭～舞洲航路について参加者から概ね高評価を得る結果となった。弁天埠頭は、大阪市港区のまちづくりにおいて、水辺の魅力を創出する拠点として再び注目されていると言える。

コンセプト

NEW GATE バイエリアとまちなかを結ぶ場所

大阪市の西部は高潮がおりやすい地域で昭和期には台風による高潮で大きな被害を幾度も受けた。

安治川水門はこの地域を高潮から守るため1970年に建設され、約50年に渡りその役割を果たしてきた。そして2011年の東日本大震災発生を契機に、津波発生時にも対応できることが望まれ、改築されることになった。

安治川水門は、時代の変化とともに人々の生活に寄り添ってきた存在である。これまでも自然災害から人々の命を守るといふ縁の下での力持ち的役割を果たし、これからもその役割を担っていく。

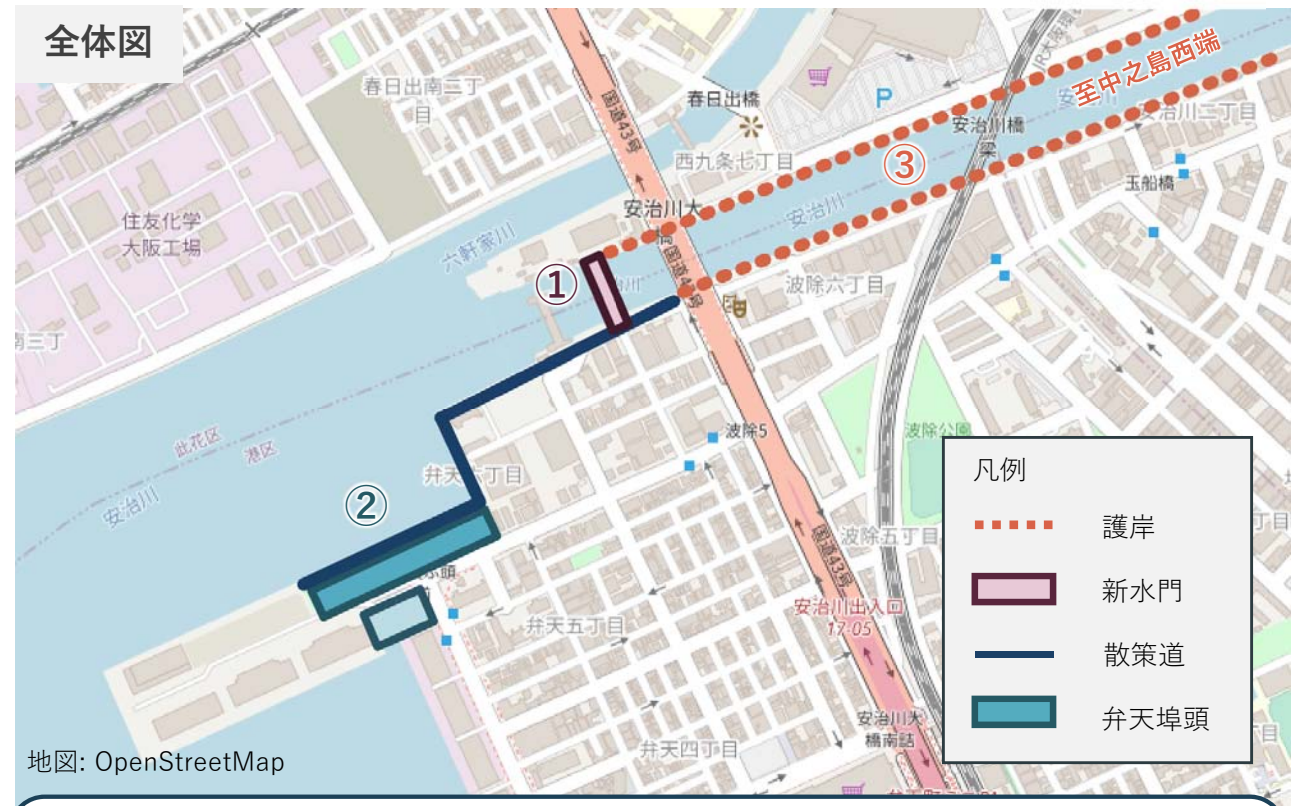
そして近年の大阪の活発なまちづくりは、安治川水門にこれまでとは異なる表舞台的な役割を与えようとしている。それは人々を迎える新しい「門-gate-」下流側にあるバイエリアへ、または上流側にある中之島など大阪の都心部へ通じる門としての役割である。

バイエリア及び大阪都心部ともにまちづくりの機運が高く、両エリアが融合する機会が増えれば更に人々の暮らしを豊かにし、わくわくする未来が創り出せる。

本提案では、その両エリアを結ぶ場所として安治川水門周辺及び弁天埠頭を捉え、大阪のまちを陸上や海上で行き交う人々の交流そして余暇空間を整備する。

全体計画

本提案の計画と募集要項で示されている「提案を求める対象エリアの対応関係は以下のとおりである。



① 新安治川水門および管理所敷地

募集要項に指定された地点にて新安治川水門のデザインを検討し、管理所は新水門の両脇に付属させて計画した。なお本提案では、現安治川水門を解体・撤去することを想定している。

② 弁天町周辺エリア(弁天埠頭・オーク商店街等)

本提案では、弁天埠頭公園及び弁天埠頭緑地の再整備を検討した。再整備計画では、敷地の造成及び水辺の複合施設等を提案している。

③ 安治川水域(中之島-夢洲)

本提案では、中之島西端から安治川水門周辺にかけての護岸のリニューアルを検討した。

新安治川水門のデザイン



デザイン 検討のポイント

構造形式は他の三大水門と同様に引上げ式構造ローラーゲートを採用した。その際景観性に配慮して、水門高さを抑えたり構造物の重たい印象を和らげるため扉体、門柱及び堰柱の形状等を工夫した。管理所は安治川左岸に設け、水門に隣接させた。

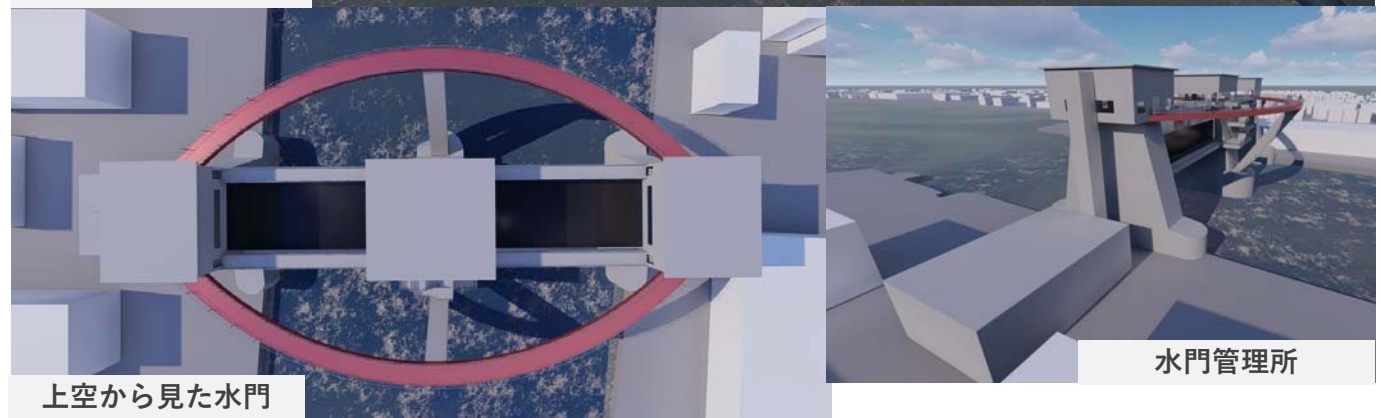
展望室間は展望橋を通して移動することができる。展望橋は現安治川水門が稼働している

ときの形状をモチーフとし、約50年に渡って大阪を守ってきた現安治川水門のイメージを継承することにした。

都心部及びベイエリアを結ぶ舟運ルートに位置する安治川水門は、今後人々の注目を浴び観光スポットとしての機能も期待できることから左右の巻上機室を展望室としても活用することを検討した。



上流から見た水門



上空から見た水門

水門管理所

扉体二段式(ダブルゲート)構造を採用

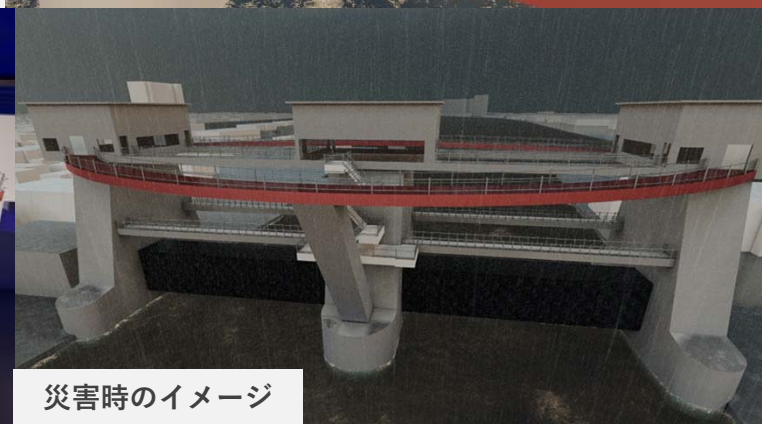
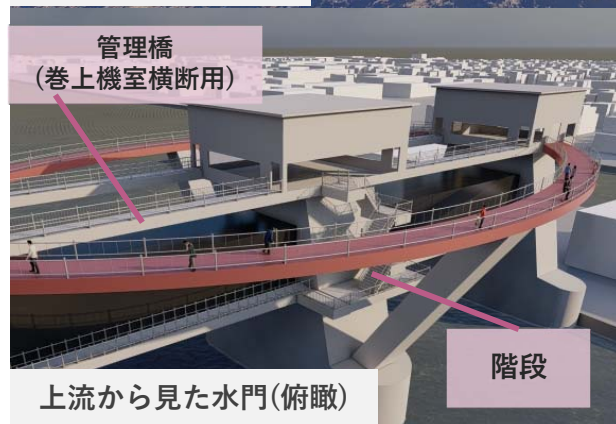
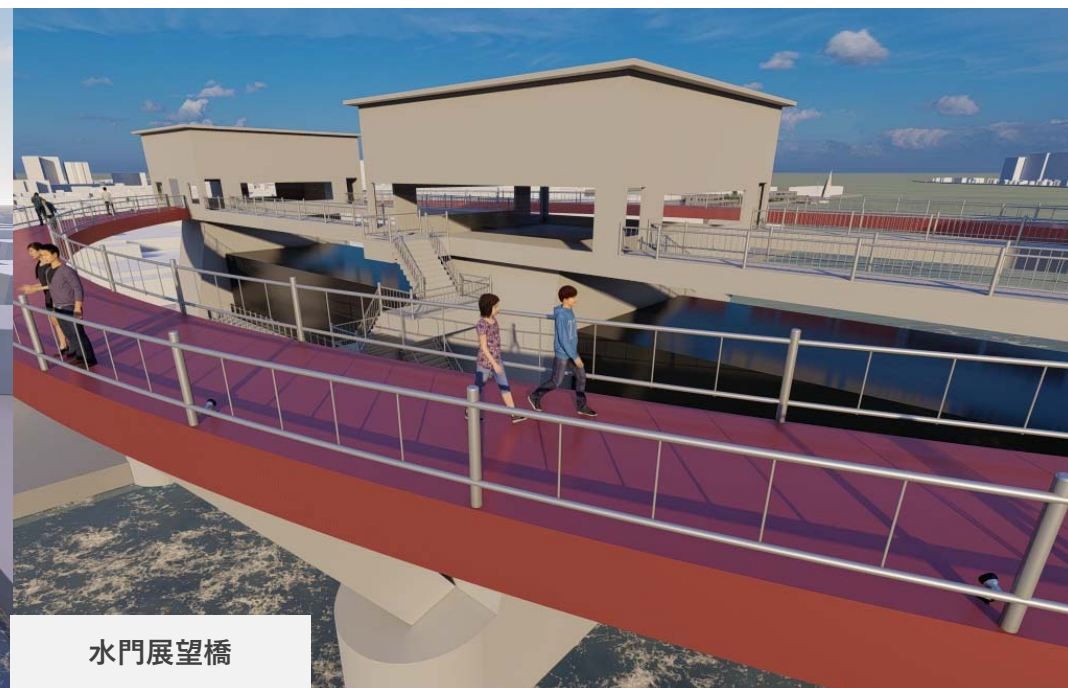
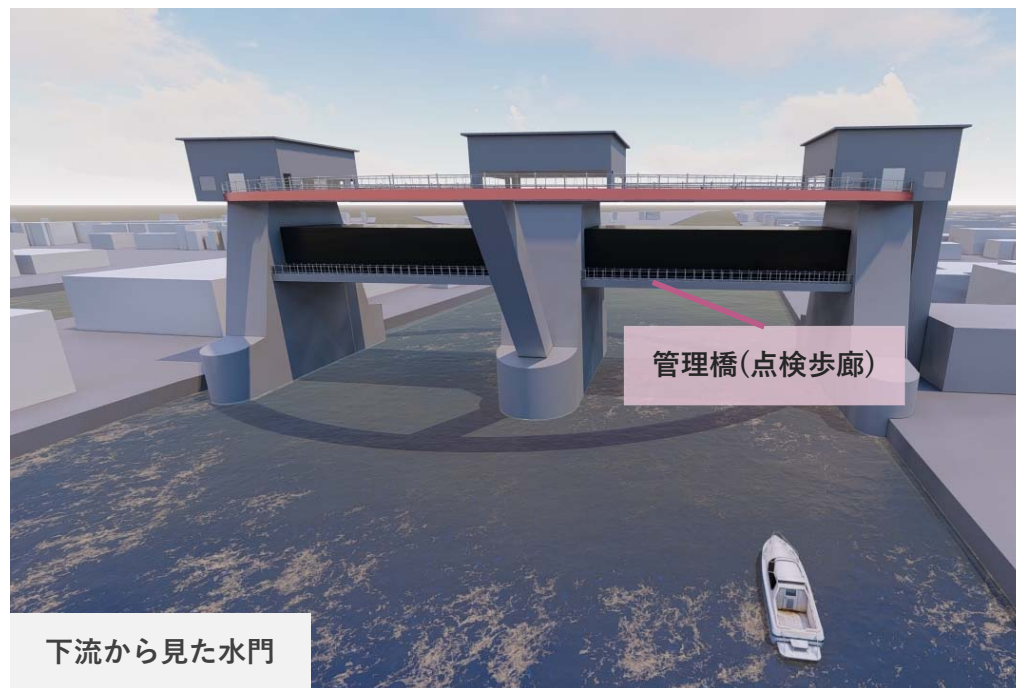
シングルゲート構造の場合は扉体が垂直方向に高くなりそれに比例して水門全体も垂直方向に高くなる。水門が高くなると景観性に優れないためダブルゲート構造にし、高さを抑えた。

門柱と堰柱のデザイン

門柱は勾配をつけることで水門を横から見たときに周辺の景観に馴染むようにした。堰柱は曲線にし、周辺の景観に馴染むようにした。木津川水門計画案と同様に上面に勾配を設け、水がたまりにくい形状とした。

管理所とエレベーター

管理所は水門に隣接して配置した。水門の管理所としてだけでなく、展望台への入場口としても利用することを想定している。エレベーターは管理所から巻上機室にアクセスするために設け、作業員用と観光客用で分けて計画した。



巻上機室(展望室)

展望台としても使用するため、左右の巻上機室を展望室と併用した。展望室としても使うため4面に窓ガラスを配置した。

展望橋

現安治川水門の稼働時の形状をイメージして設計した。現安治川水門の要素を取り入れつつ、新しい安治川水門の重要な要素である展望台としての機能を集約する。

管理橋

管理橋は、巻上機室間を接続するものとゲートの点検歩廊として使用するものを設置し。また中央の巻上機室から直接ゲート点検歩廊にアクセスできる階段を配置した。

護岸とストリートファニチャー



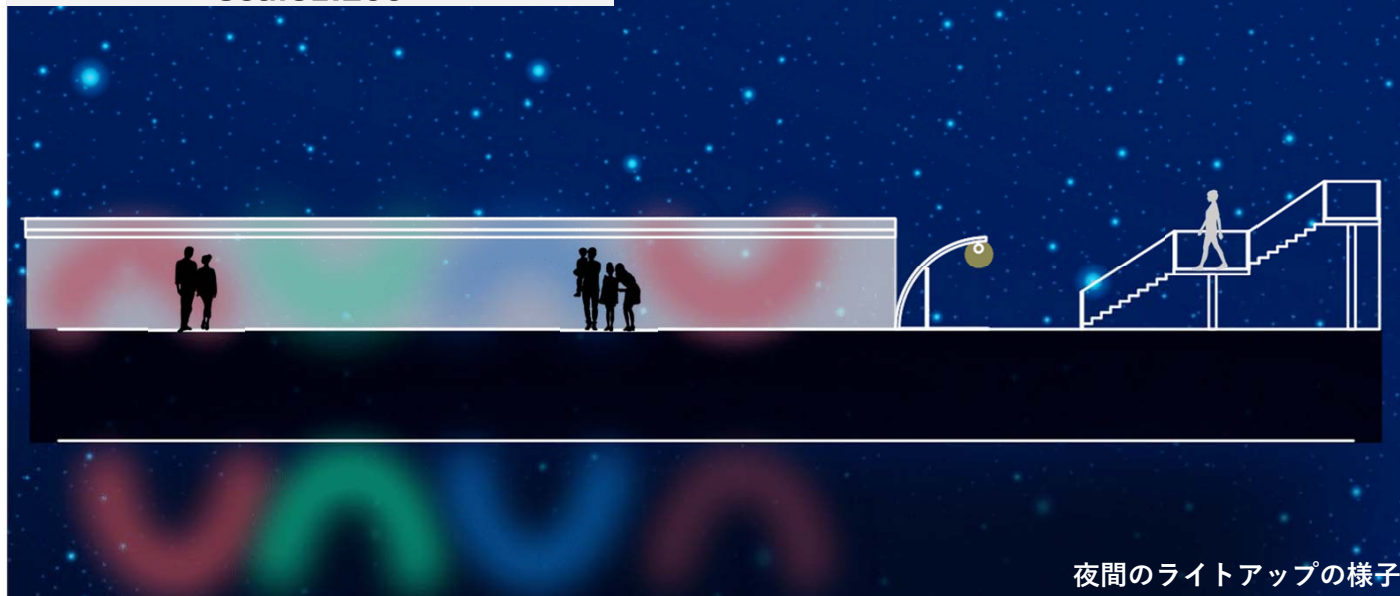
デザイン 検討のポイント

護岸は鉄筋コンクリート造で、表面はコンクリート打放し仕上げとした。一定区間ごとに水辺に近づくスポットを設け、ライトアップによる夜間景観を楽しむことができるようにした。なお通常時は護岸の点検場所として利用することを想定している。

スポットには、ストリートファニチャーとして案内板やベンチを設置する。ストリートファニチャーには、約50年の間縁の下の力持ちの役割を果たしてきた現水門を今度はより人々の身近で活躍できるように現安治川水門解体時に出る材料を使用して製作し、アーチ(円弧)部材を取り入れたデザインを検討した。

ストリートファニチャーは弁天埠頭の屋外広場等にも設置することを想定している。

水辺に近づくスポット scale1:200



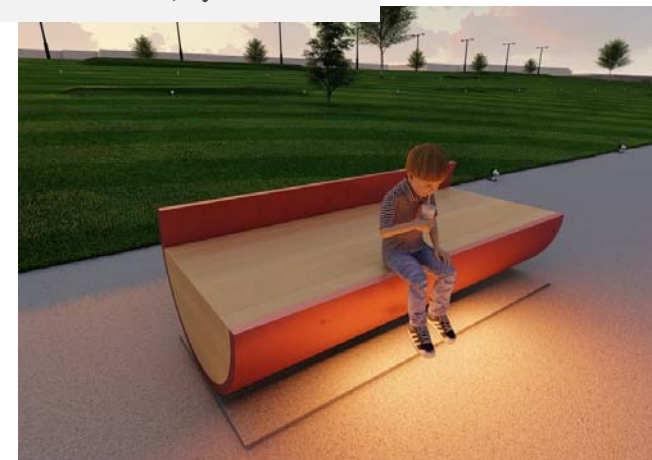
夜間のライトアップの様子

ストリートファニチャー① シェルター



シェルターは案内板の設置場所や駐輪場としても利用できる。また円弧状の部材の先端部分に照明を設け、夜間の道路照明としても利用できるようにした。

ストリートファニチャー② ベンチ



ベンチは、足元を照らすことで夜間のライトアップツールとしても利用できるようにした。

弁天埠頭再整備計画

コンセプト

水辺をひらく

現状、近づきにくくなっている弁天埠頭の水辺空間を人々にひらく。
水辺のひらき方については次の三つを検討した。

I. 水辺を楽しむ余暇空間としてひらく

カフェやレストランなどのある複合施設と水辺に親しむ屋外広場を計画した。

II. 舟運の拠点としてひらく

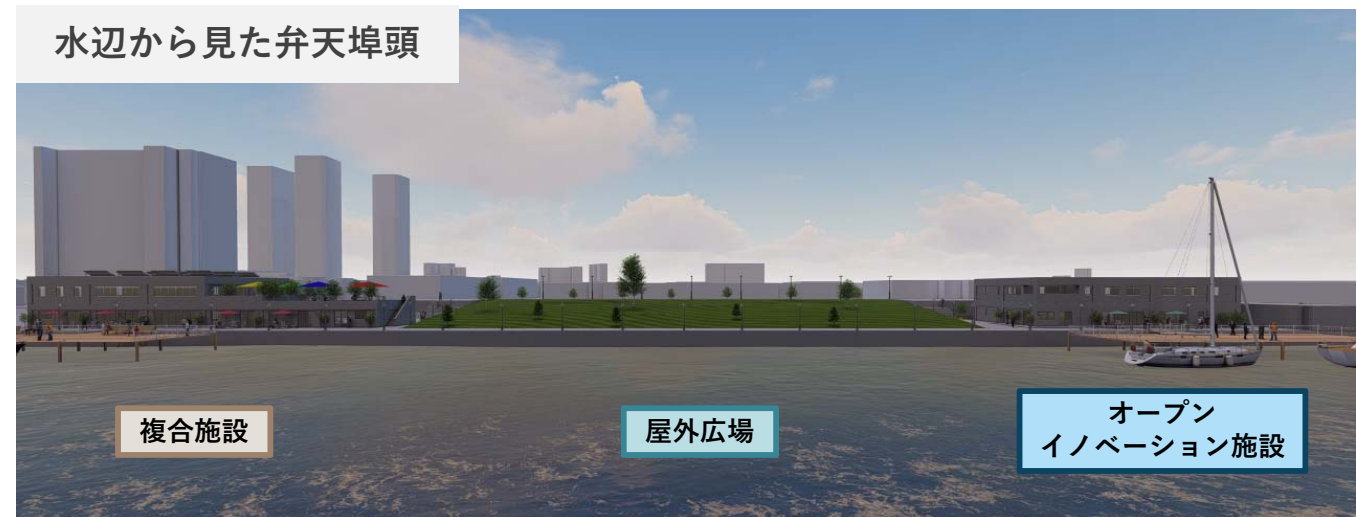
旅客向けの船着場を整備するとともに、遠方からの利用客の呼応通手段の乗り換えに対応するため、弁天埠頭緑地に駐車場・駐輪場を計画した。

III. イノベーションの拠点としてひらく

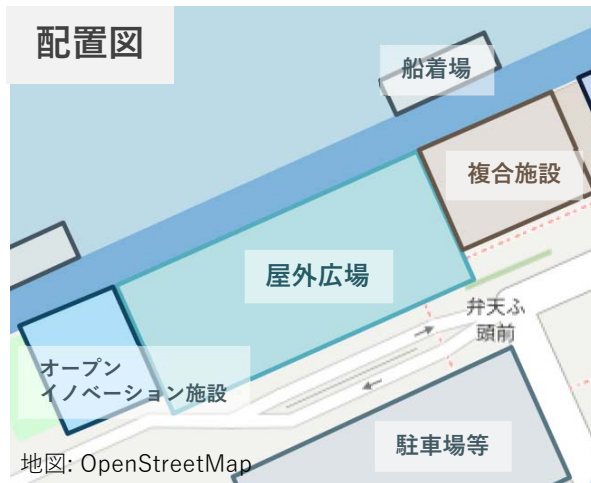
ベンチャー企業等の成長を支援することなどを目的としたオープンイノベーション施設及びビジネス利用のための船着場を計画した。

その他

既存の加藤汽船ビル(旧ターミナルビル)は一部改修し、複合施設等の運営会社の事務所が入居することを想定している。
その際既存入居者は引き続き入居できるよう配慮する。



水辺を楽しむ屋外広場

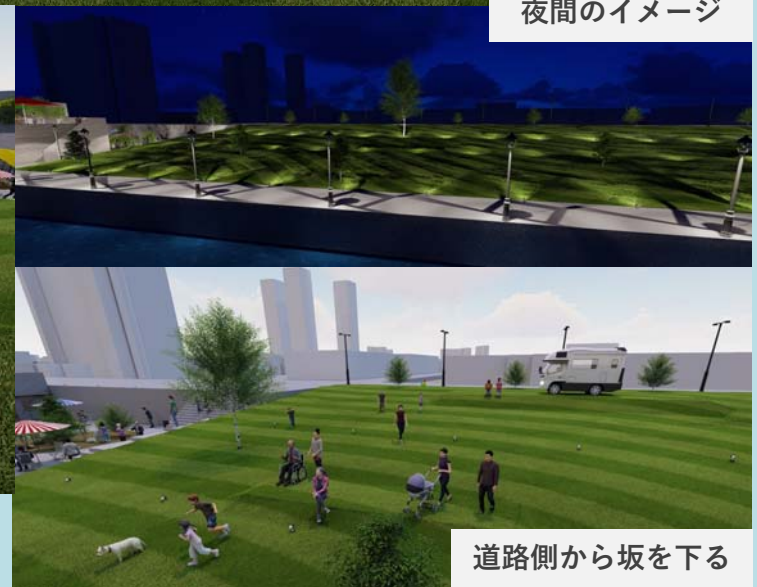


安治川・バイエリアを望むことができる開放的な芝生

再整備計画の敷地の中心部に人々が水辺に親しむ屋外広場を整備した。

ただの芝生ではなく、少し勾配をつけることで坂になり川方面を望みながら休憩できるように配置する。都会の中にはない開放的な空間であることを活かし、バイエリアとまちなかの間にある都会のオアシスのような役割を担うことを想定している。

坂の中に平場を設けることでベビーカーを利用する家族づれや車椅子利用者に配慮した。広大な芝生の空間は、屋外イベント等での活用も想定している。



水辺の複合施設

配置図



水辺と緑の余暇空間

舟運の通過点として乗船・下船する人や水辺を散策する人が食事や買い物を楽しむことができる複合施設を整備する。また建物の一部に貸スペースを設け、水辺を臨みながらの屋内イベント等に活用してもらうことを検討した。

建物南東角には中庭を設け、利用者が植物を眺めることにより得られる豊かさや安らぎ感の向上の効果が得られるようにした。2階の屋外テラスからは中庭のほか、弁天埠頭の水辺を眺めることができる。

施設案内

- 1F ☐ レストラン
☐ 屋外テラス
- B1F ☐ 舟運チケット売場
☐ お土産店
☐ カフェ
☐ 管理会社施設内事務所
☐ 貸スペース



水辺より建物を臨む



散策道からのアプローチ

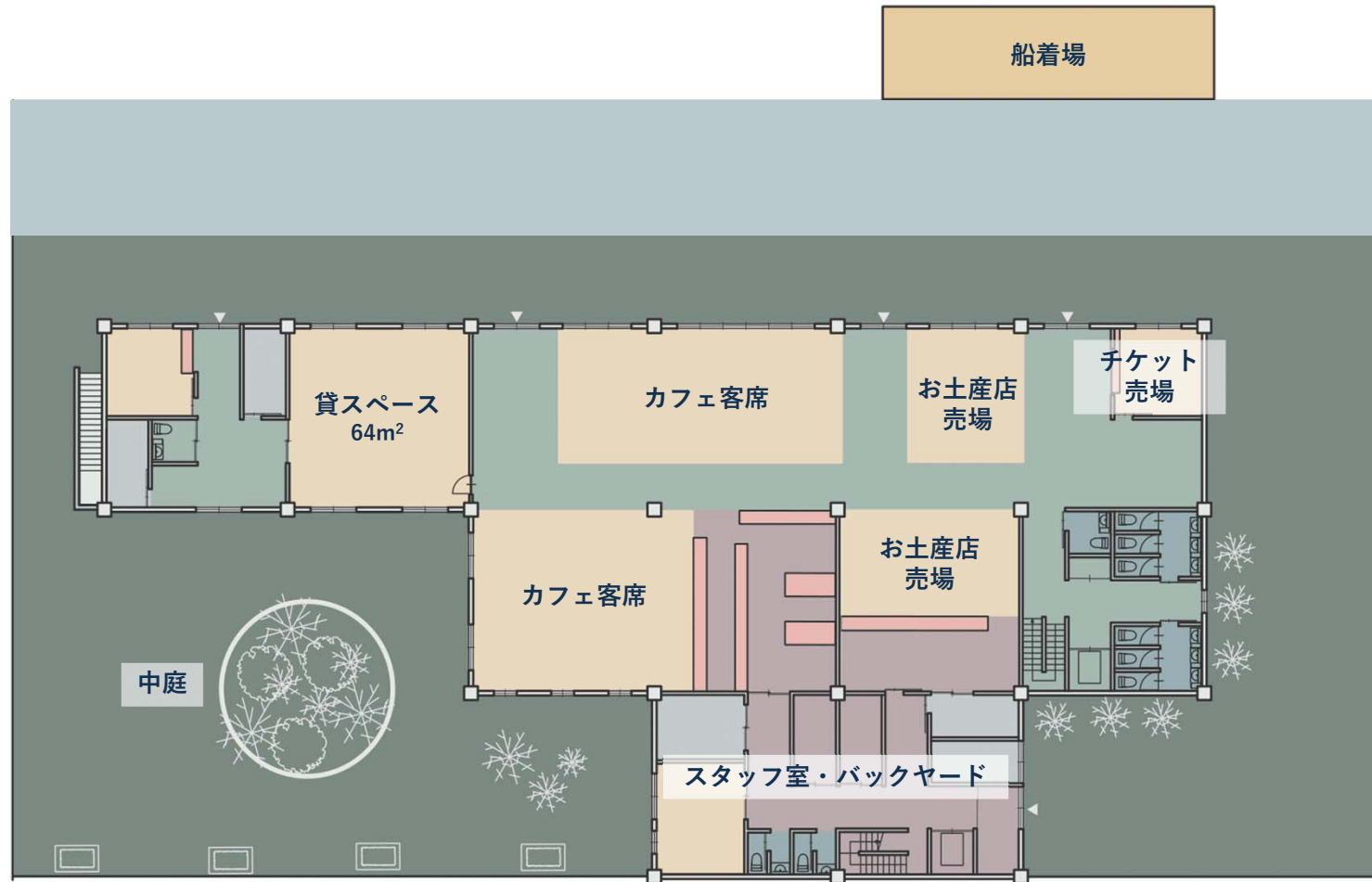


中庭



夜間のイメージ

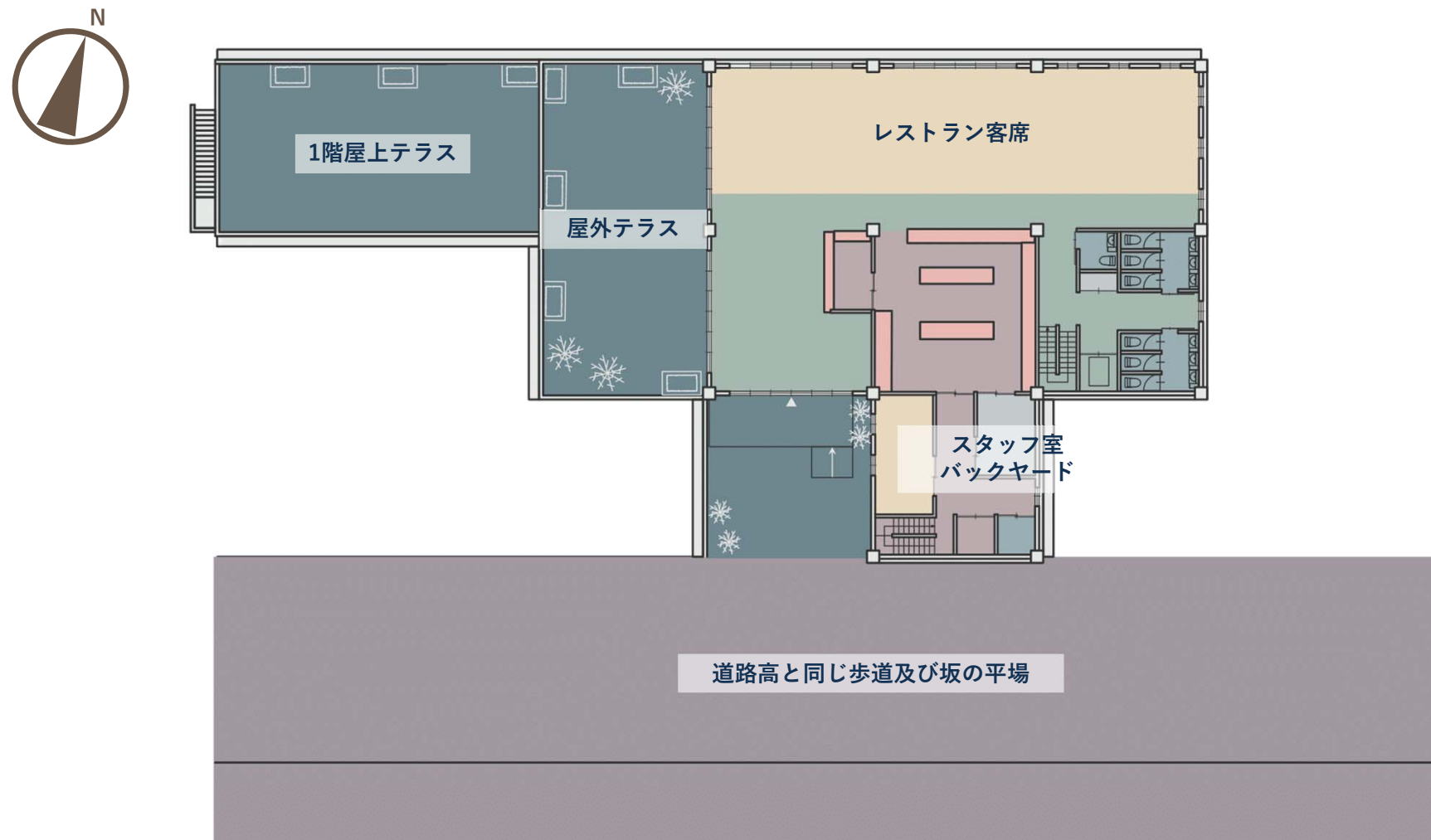
水辺の複合施設 B1階平面図



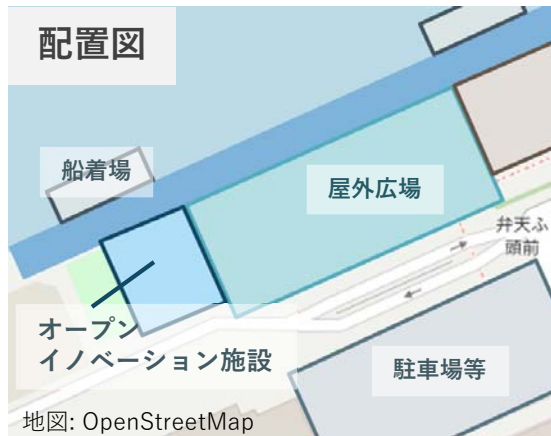
※室の床面積は柱心間で計算。



水辺の複合施設 1階平面図



水辺のオープンイノベーション施設



水辺から始まるイノベーション

弁天埠頭にオフィス施設を整備する最大の利点は、交通の利便性の高さである。弁天埠頭は、弁天町駅付近にあるため、大阪都心部へのアクセスがしやすく、海上交通を使うことで夢洲の物流・産業ゾーンへのアクセスも可能である。

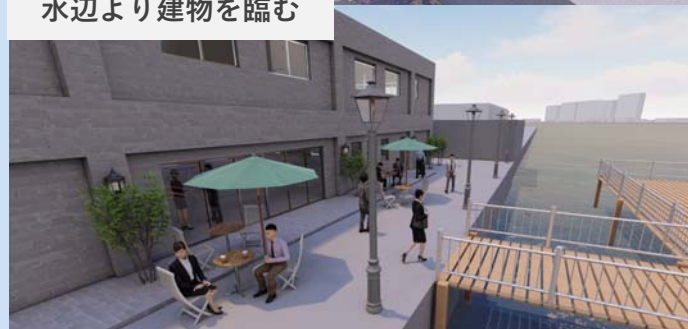
この利点を活かして、夢洲を始めベイエリアと連携してビジネスを展開することやこれらの地域のまちづくりに参画することを目的に事業に取り組むベンチャー、スタートアップ企業や個人事業者を対象にしたオフィス空間を提供する。

施設案内

- 1F
- 専有オフィス(6室)
 - ミーティングルーム
 - 交流ラウンジ
- B1F
- 会員シェアスペース
 - 研修室
 - 来賓室
 - 交流ラウンジ



水辺より建物を臨む

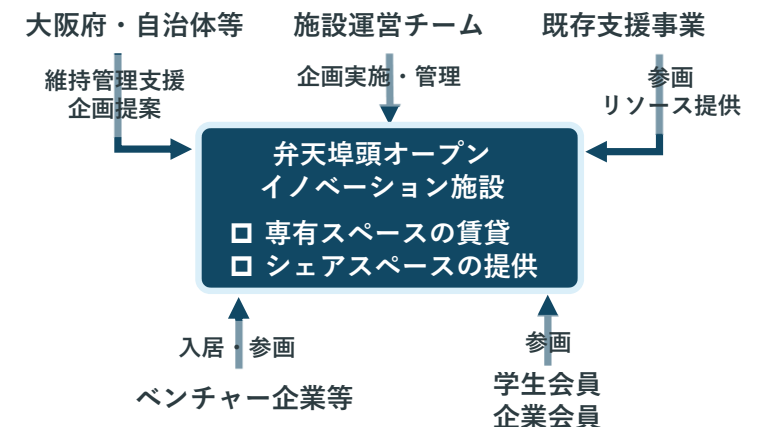


中庭

想定される運営体制と施設利用

大阪府の商工労働部では、ベンチャー企業や起業家の成長を支援するプログラムを展開している。施設を有効に活用するために、大阪府の既存事業等と連携して入居者を募集しその成長を支援する体制を構築する。

また企業同士の交流や起業に興味を持つ学生への働きかけにも活用できるよう会員制度を設け、会員であれば施設内のシェアスペースを利用できるほか会員向けのセミナー等の開催も考慮する。



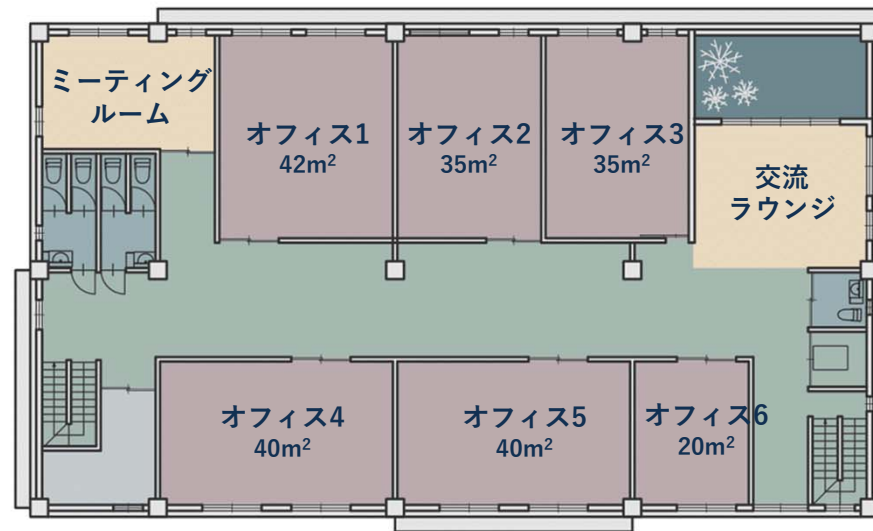
水辺のオープンイノベーション施設 B1階平面図



※室の床面積は柱心間で計算。



水辺のオープンイノベーション施設 B1階平面図 (scale1:250)



※室の床面積は柱心間で計算。



〈作品 008〉

BENTEN 2050

チーム名：ユーレイブール

小林諒（佐藤総合計画 / yuureibool）、宇田川剛（同）

田中達大（トライコーン株式会社 / yuureibool）

木下翔太（ケーティーマシナリー株式会社/ yuureibool）

奨励賞

動画は公式ウェブサイトに掲載



BENTEN 2050

新安治川水門アイデアコンペ応募案

かつて港町として開発された町「弁天町」

2025年の大阪万博を機に、より国際的な交流・イベントの場としての価値が高まることが想定されます。新・安治川水門をシンボルとし、商店街エリアを活性化、さらに都市全体で親水空間をデザインすることで先進的かつエコフレンドリーな弁天町の未来像を提案します。

Contents

Masterplan

弁天町の未来像について

Watergate

水門のデザインと利活用

Shopping Street

新しい商店街のデザイン

Waterfront

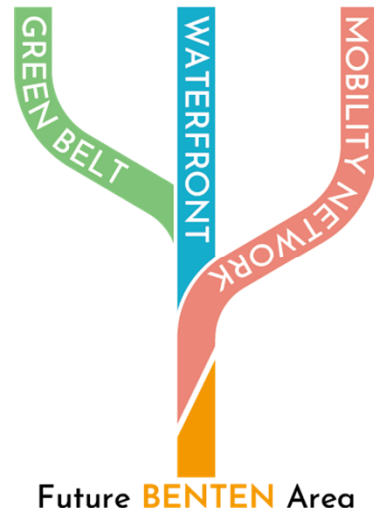
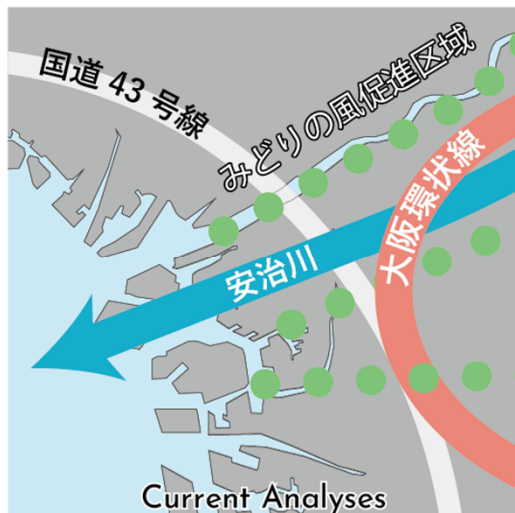
まちと水辺の結節点



今回のコンペティションにおいて提案の対象は3地区です。
 私たちは、それぞれを別個に提案するのではなく、
 弁天地区に求められる役割の分析から「マスタープラン」を考案し
 それぞれの個所にふさわしいデザイン提案へと結び付けていきます。

01 | Analyses

弁天町：多種多様に交錯する都市軸を受け止める場所



府市統合で取りまとめられた『グランドデザイン・大阪』により、2050年を目標とする大都市・大阪の都市空間の姿が示されました。こちらの資料では、大阪の将来像を形作る要素として「みどりの創出」「親水空間の創造」「交通・インフラの整備」などが挙げられています。

弁天町周辺エリアは今後開発の進むベイエリアと水都大阪の要である中之島の中間に位置するため、上に挙げられた要素を満たしつつ来訪者をより満足させる魅力的な都市景観を整備することが肝要です。

以上を踏まえて、新安治川水門と周辺地域および河川軸における都市デザインの提案を行っていきます。

02

Proposal

「3つのシンボル」と「3つのリング」を起点に弁天町を活性化

Point 1
弁天リング

大阪ベイタワー・新水門と新たに提案するコンベンションセンターを結び、都市に親水空間を構築します。

大阪ベイタワー

(既存)

Point 2
モビリティリング

多様な公共交通機関の交通網を配置し、海の玄関口として新たな産業やエンターテインメントを誘致します。

コンベンション
センター

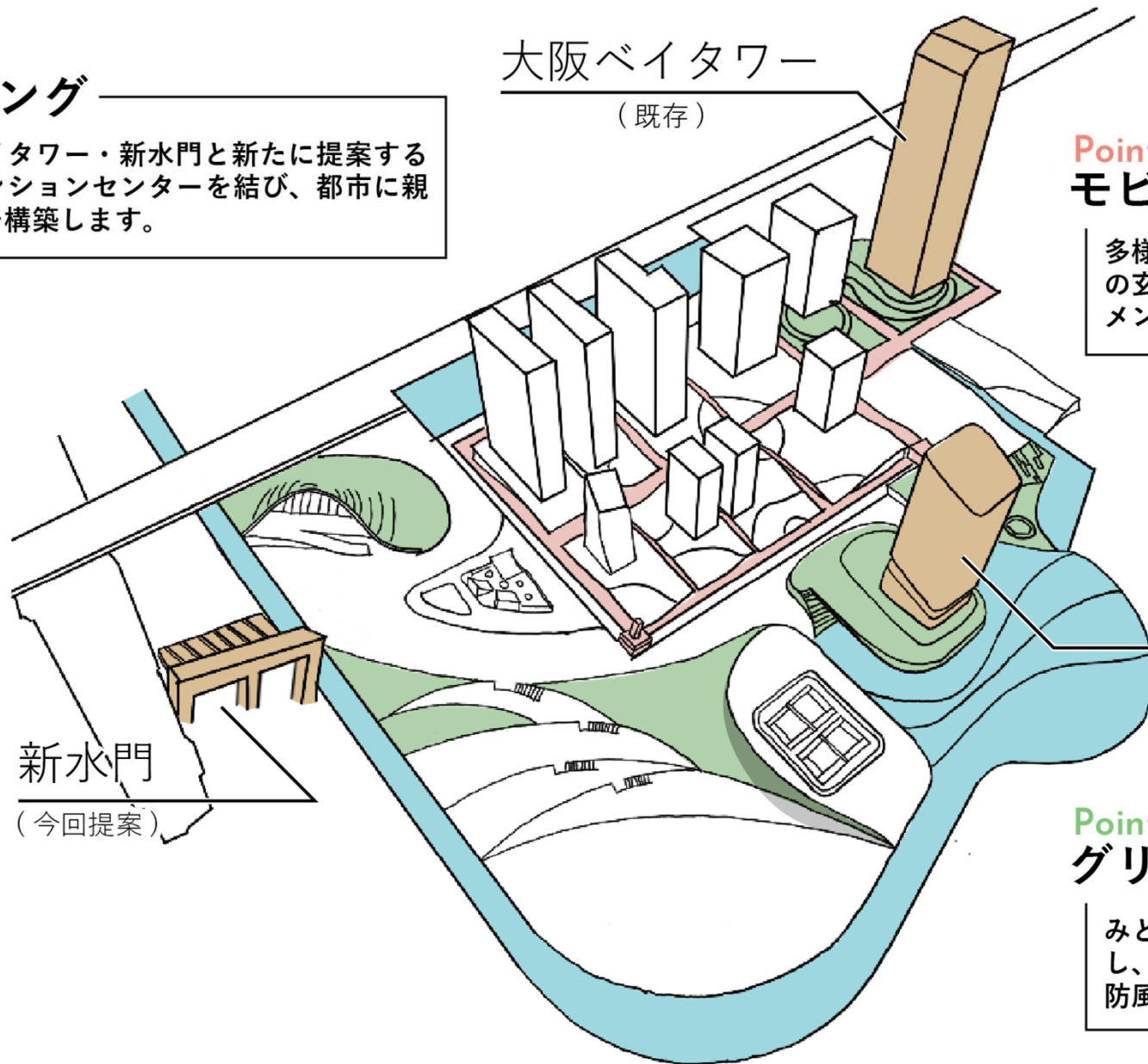
(今回提案)

新水門

(今回提案)

Point 3
グリーンリング

みどり空間を整備し都市に憩いの場を創出し、同時にヒートアイランド現象の緩和や防風林としての役割も果たします。



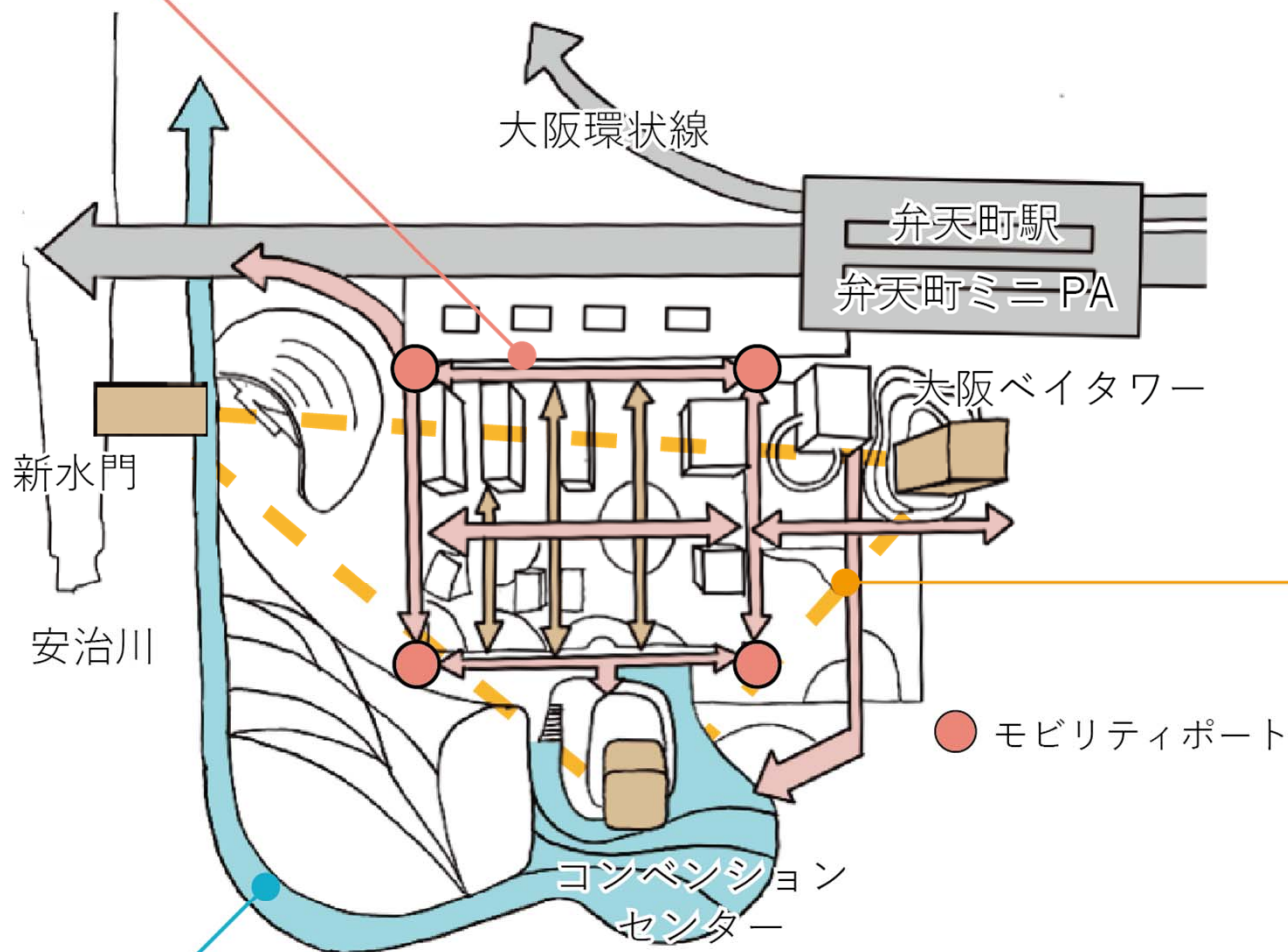
03

Activity

水門周辺地区で展開される都市生活

ウォーカブルな都市空間を創造

自動運転車及び歩行を軸とした交通網を整備し、歩行者中心の都市空間を形成。同時にモビリティポートを整備し、多様な交通手段を提供します。



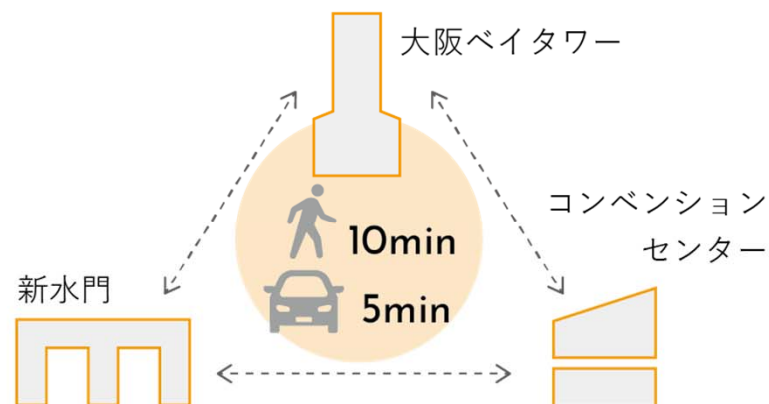
身近な親水空間を構築

シンボリックな水門を基軸に、客船の停泊も可能な親水デッキを構築。大阪市の目指す国際的な拠点を構成する一助となる水辺空間を提案します。

「3核3モール」型の都市計画



イオンの店舗計画等に見られる「2核1モール」



今回提案する「3核3モール」

既存の大阪ベイタワーに加え、新水門・コンベンションセンターを新たに計画します。これら三拠点間を、5分以内で移動可能となるように公共交通及び自動運転車・歩行者ネットワークを整備し、面的にまちを活性化していきます。



Watergate

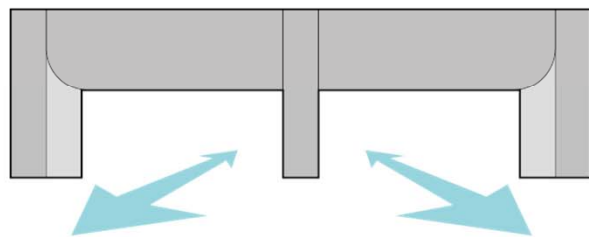
水辺に賑わいを創出する水門

01 Strategy

いかなる時にも水辺空間のシンボルとして機能する水門

Daily Use

平常時：水都大阪のゲート

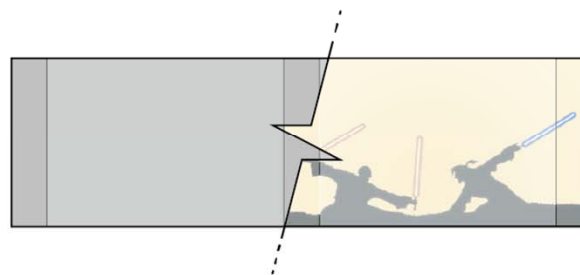


Test Run

月 1 回の試運転

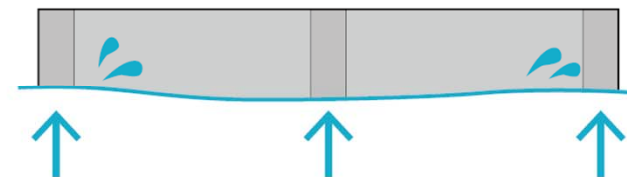
Event

イベントの開催



Disaster

災害時：水都大阪の砦



Phase Free Design

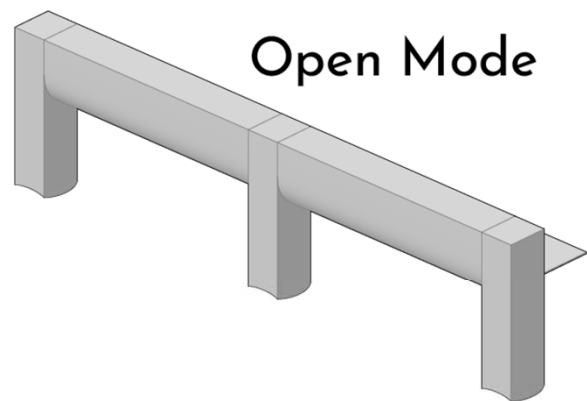


Open Mode

平常時・水辺に人々を誘うシンボリックな外観

02 | Daily Mode ⇔ Disaster Mode

平常時・水都大阪のゲートとなる水門

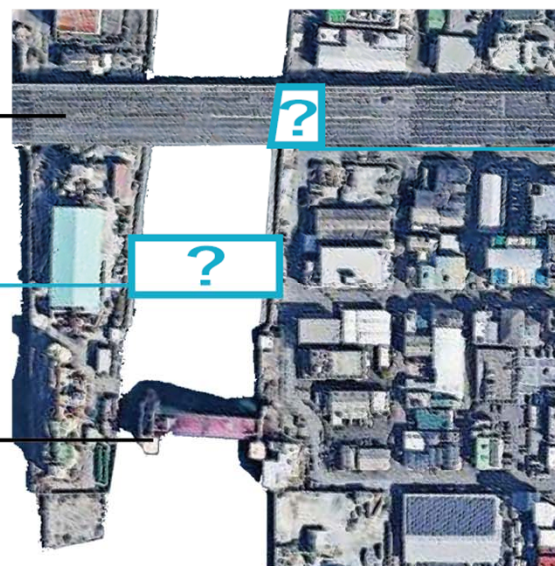


Open Mode

国道 43 号

Project Site 01
新水門建設予定地

現安治川水門

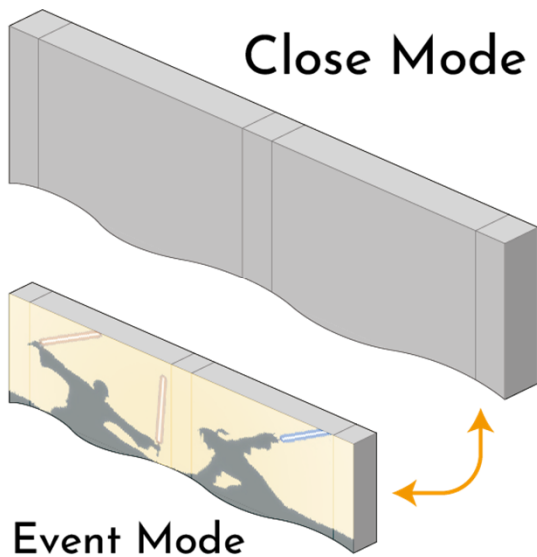


Project Site 02
水門管理所敷地提案

水門管理所を国道 43 号線の
高架下空間に提案します
詳細は **Waterfront** の章にて

Close Mode 災害時 / 試運転時・巨大な面としての表情

03 | Daily Mode ⇔ Disaster Mode 災害時 / 試運転時・水都大阪の砦となる水門



「映える水門」は人々を呼び込む

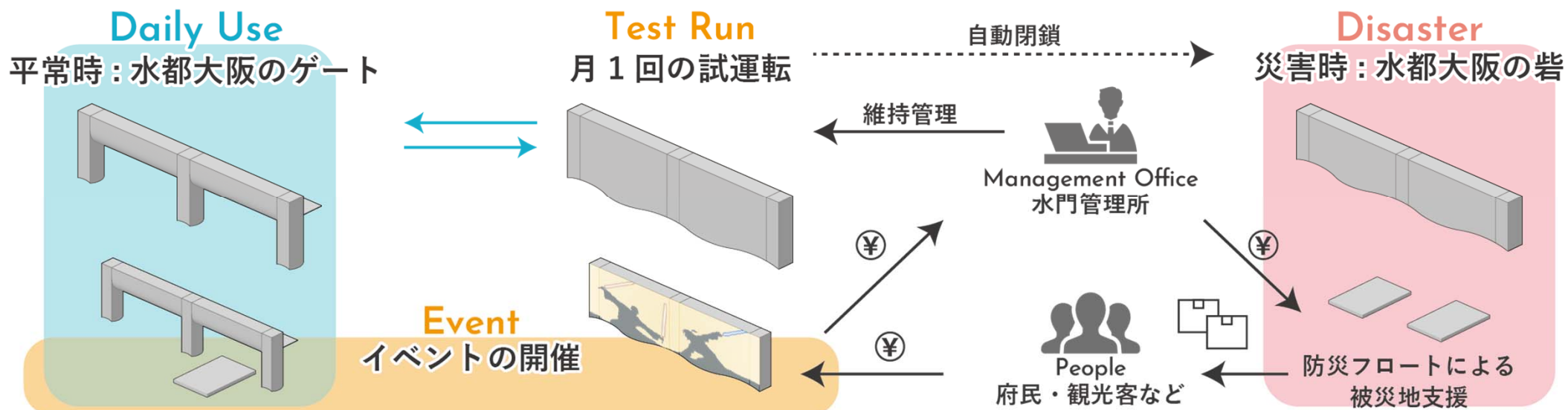
地域への経済的波及効果を期待するにあたっては観光客などの「動員」が不可欠であると考えます。月一度の試運転（閉門）が「SNS 映えスポット」となるようなブランディングを提案します。

防災フロートと連携して防災の拠点的形成

現在ユニバーサルシティ側には防災フロートが接岸しフェリー乗り場として日常利用されていますが、構造的な問題から東日本大震災時に外洋航行が不可能でした。防災フロートを水門と連携して常時稼働・移動させることで、常に安全に利用可能な状態を保ちつつ、河川上でのより様々なイベント実施や、災害時には沿岸地域への物資輸送に利用することを提案します。



04 Business Model 動員装置としての水門モデルの提案



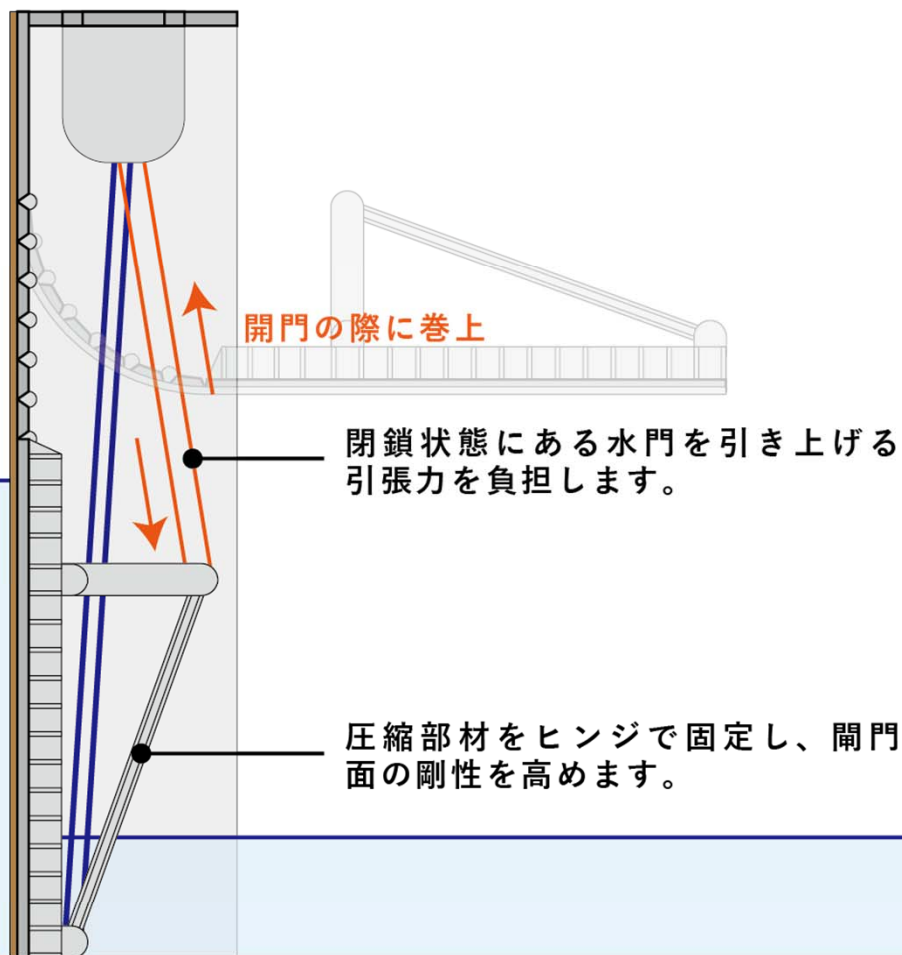
05

Design

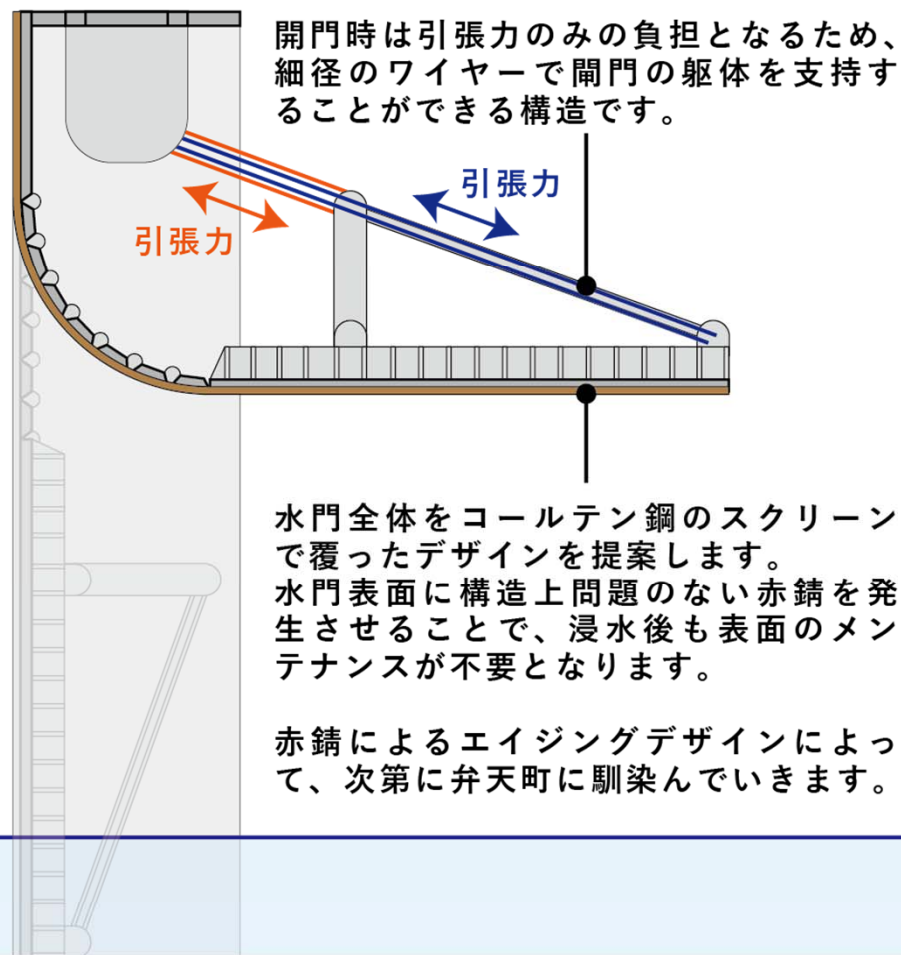
暖簾のように開閉する構造体と、メンテナンスフリーのスクリーン

二種類のウインチ・ワイヤーの連携により、暖簾のような開閉を行う水門

Close Mode



Open Mode



水門のシンボル性を高め、同時に人々が憩う場にもなって欲しいという思いから、「場所性のある水門」をコンセプトにデザインしています。また、水面下に沈む部分に可動部を持たないことで、メンテナンス上有利なデザインとしています。



Shopping Street

弁天商店街の賑わいをアーカイブし、新たな風を吹き込む

01 | Problem + Potential 既存商店街の課題と展望

▼ Problem

公共交通網の不足・過疎化

↳ 車道の再分配・暫定利用
歩行者ネットワークの充実

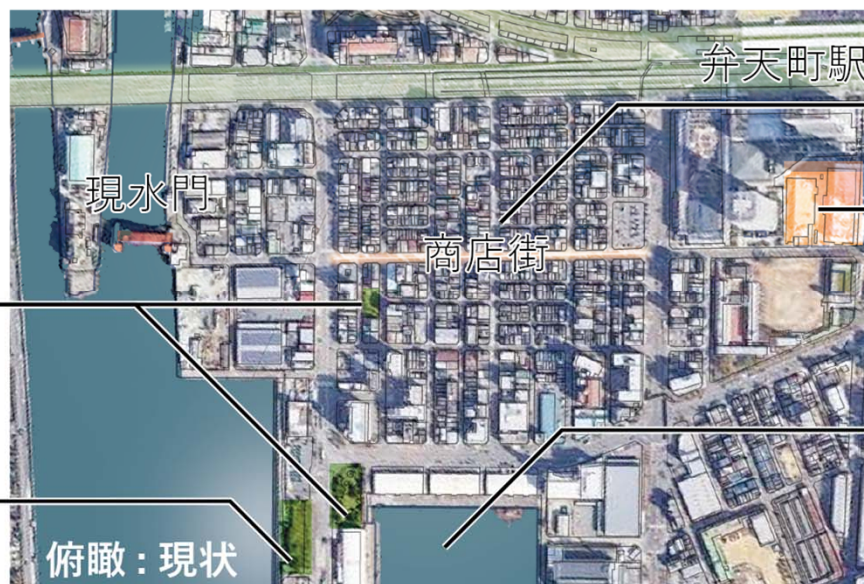
▼ Problem

非効率な緑地の利用及び配置

↳ 連続的緑地の整備

▲ Potential

豊かな水辺空間



▲ Potential

飲食店などの賑わいが点在

▲ Potential

地域の拠点：大阪ベイタワー

↳ 従前の賑わいを保存

▼ Problem

水辺まで見渡せる場が少ない

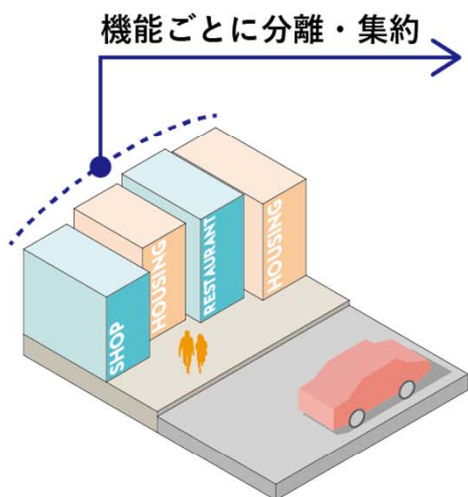
↳ 視認性を重視した街区

02 | Proposal

第一種市街地再開発による都市集約

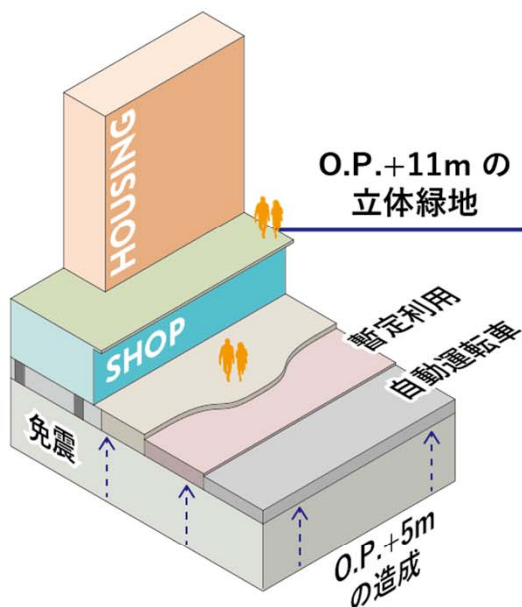
Before

従来の商店街



After

機能の集約による見通し・
防災性能の向上



多様な活動を促すグランドデザイン



商店街の機能を集約し立体的な街並みを作ることで、視認性が高くかつウォーカブルな移動空間を形成します。





03 | Design Code 「弁天町らしい」賑わいの創出

小さな経済の連鎖による商店街の活性化

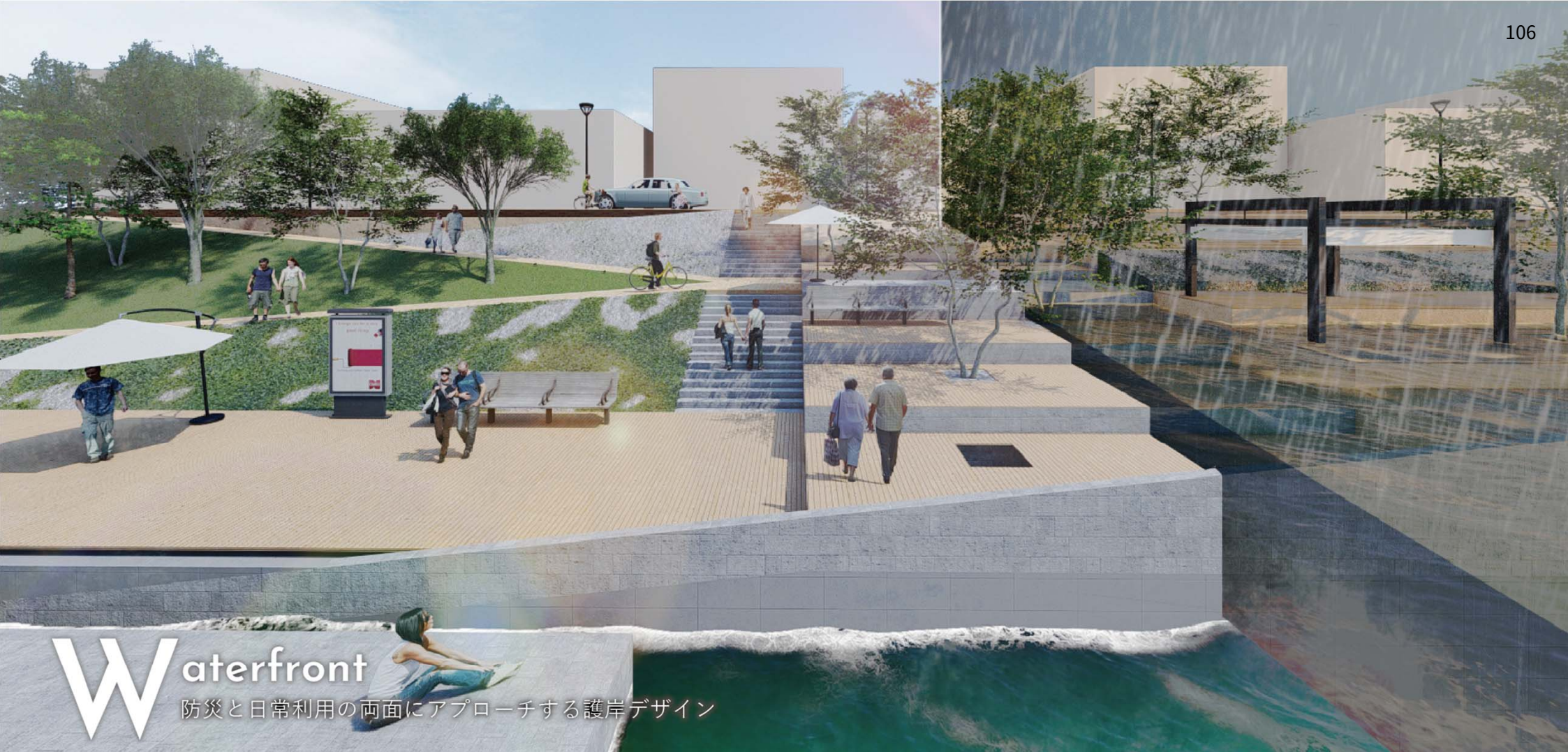


商業店舗をオープンスペースと統一されたデザインで連鎖的に配置し、来訪者が数珠繋ぎ的に商業店舗に足を運ぶよう配置計画を行います。

まちとつながる新しいビジネスモデル



新旧のシンボルを観光資源として観光客を誘致し、これにより地域住民の商業的活動を促進し弁天商店街を活性化します。

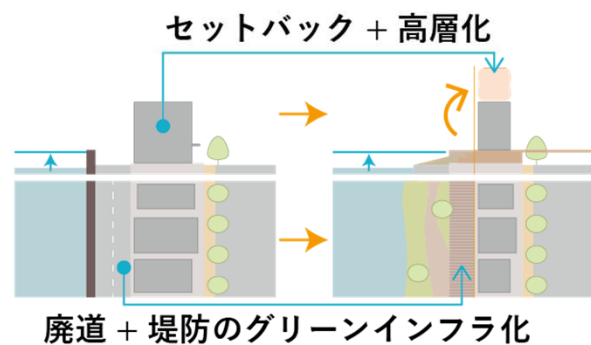


Waterfront

防災と日常利用の両面にアプローチする護岸デザイン

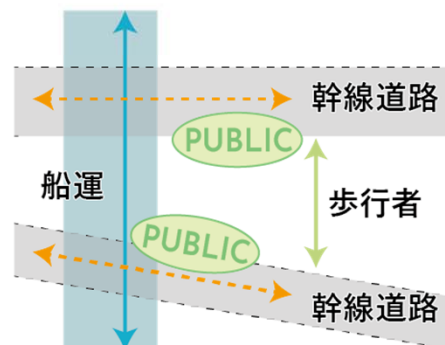
Point 1

水辺へと開かれた都市デザイン



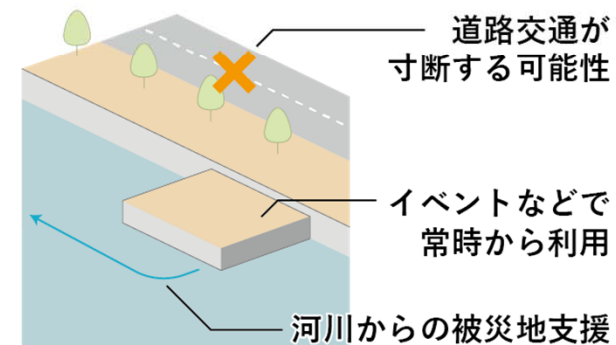
Point 2

高架下のパブリックスペース化



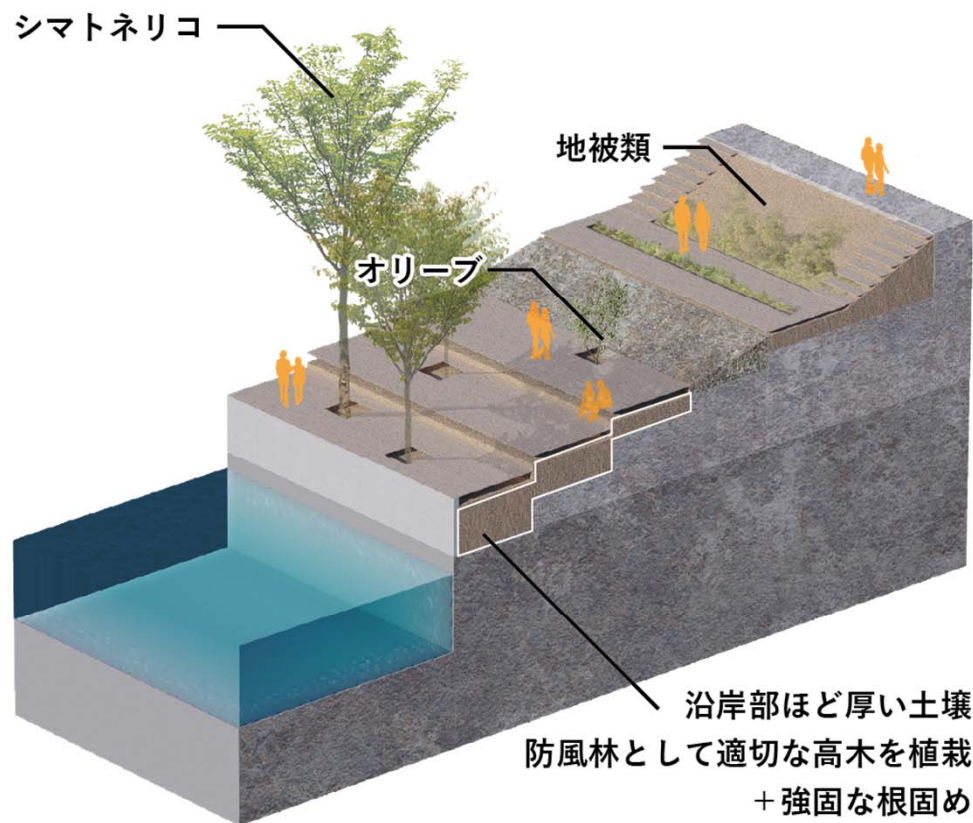
Point 3

防災フロートの日常利用

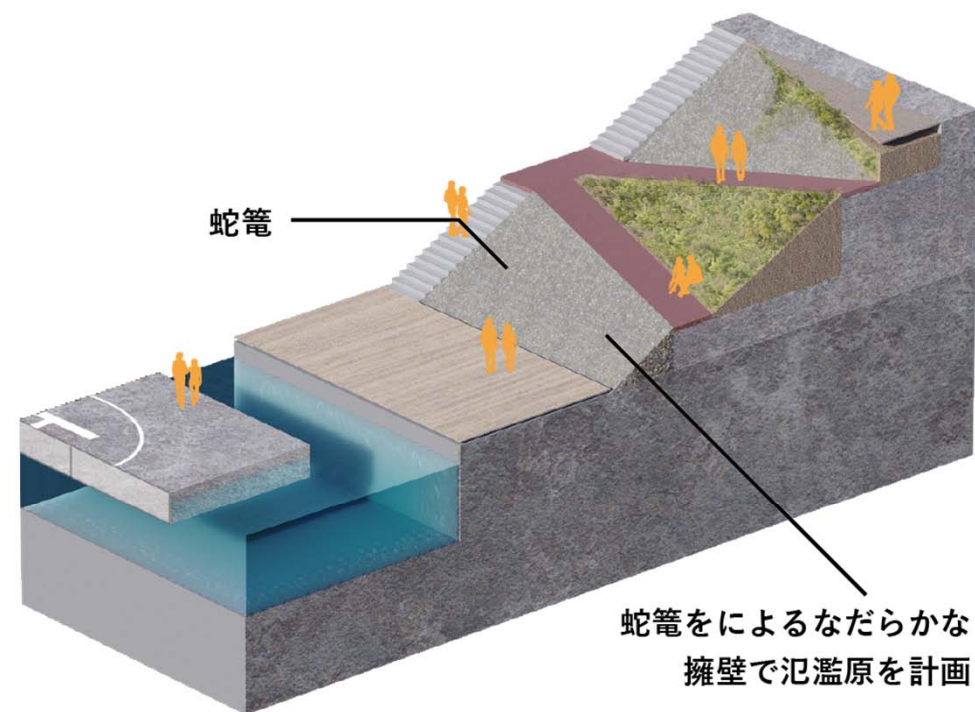


01 | Social Design Strategy

都市と水辺の結節空間をデザインする



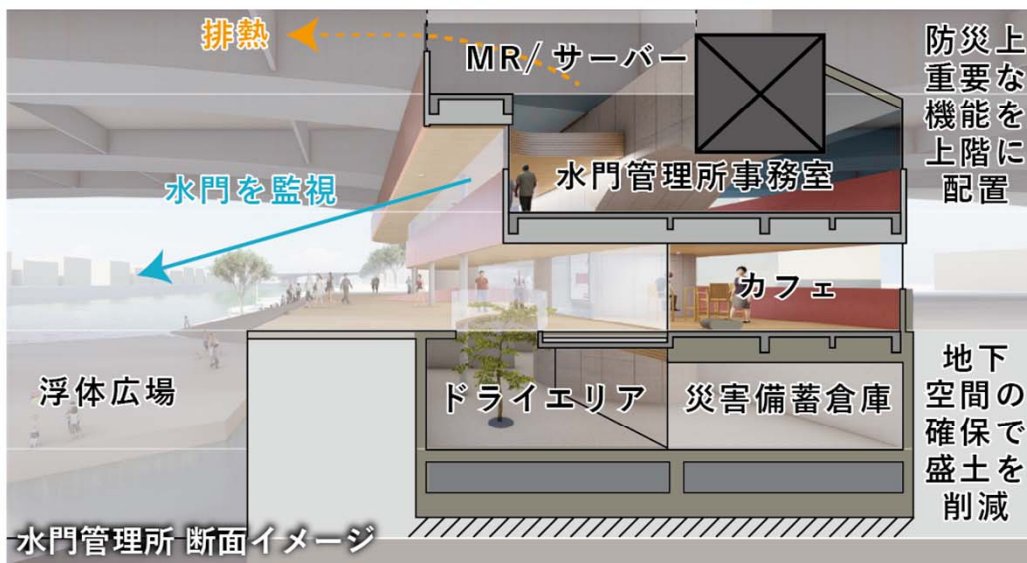
植栽のグラデーションによる防風性能を備えた
グリーンインフラモデル



街区レベルから沿岸部及び河川上までを一体的に
利用可能なパブリックスペースモデル

スーパー堤防は強固である一方、河川の様子を日常的に感じることができず、水嵩がある一定のラインを越えた途端に内水氾濫を起こすというリスクがあります。本提案においては河川軸周辺を氾濫原として計画することで、ゲリラ豪雨時などに危険を事前に察知できるよう配慮しています。

02 | Waterfront Management Office 高架下の水門管理所

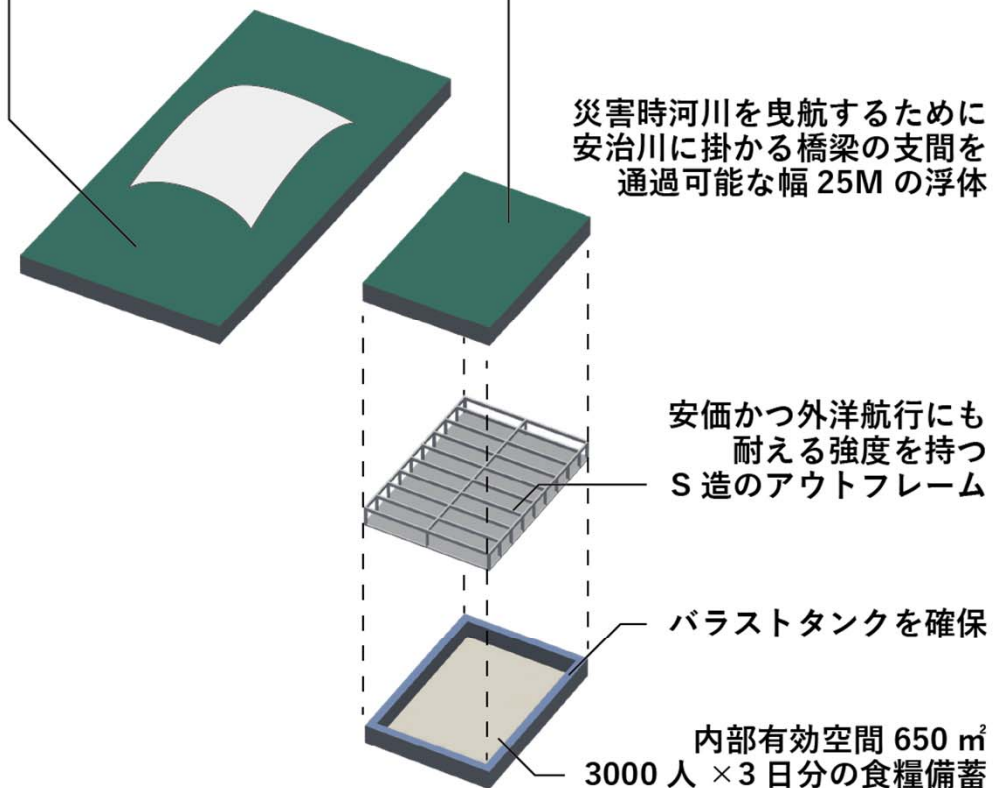


高架の構造体を利用した水門管理所を提案。水辺空間と交通網の結節点としてポテンシャルの高い空間であり、公共建築への応用も可能です。

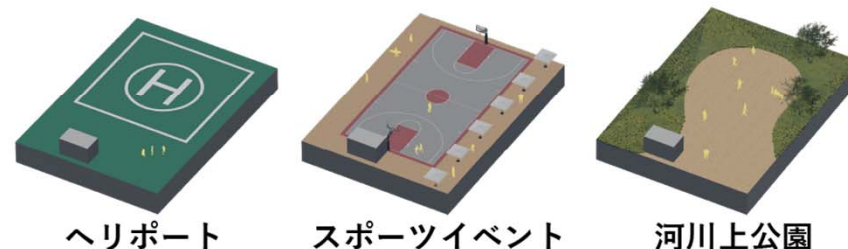
03 | Floating Park 河川上のパブリックスペース

大阪湾防災フロート
RC 造 80Mx40Mx4M

提案：小型防災フロート
S 造 35Mx25Mx4M



陸地の機能を河川上に拡張可能



災害時に河川周辺に物資輸送を行う防災フロートの配備を提案します。日常利用で利潤を生み、同時に水辺を活性化します。

〈作品 009〉

新安治川水門アイデアコンペ
ご提案書

西村均（西村均設計事務所）

新安治川水門アイデアコンペ
ご提案書

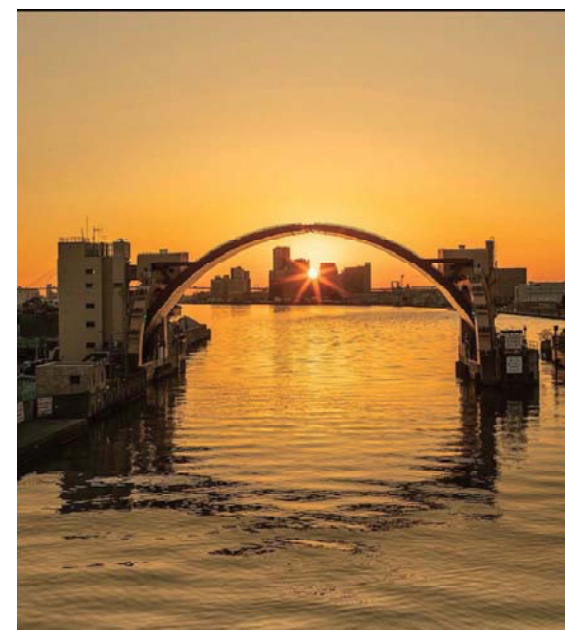
2021.09.07



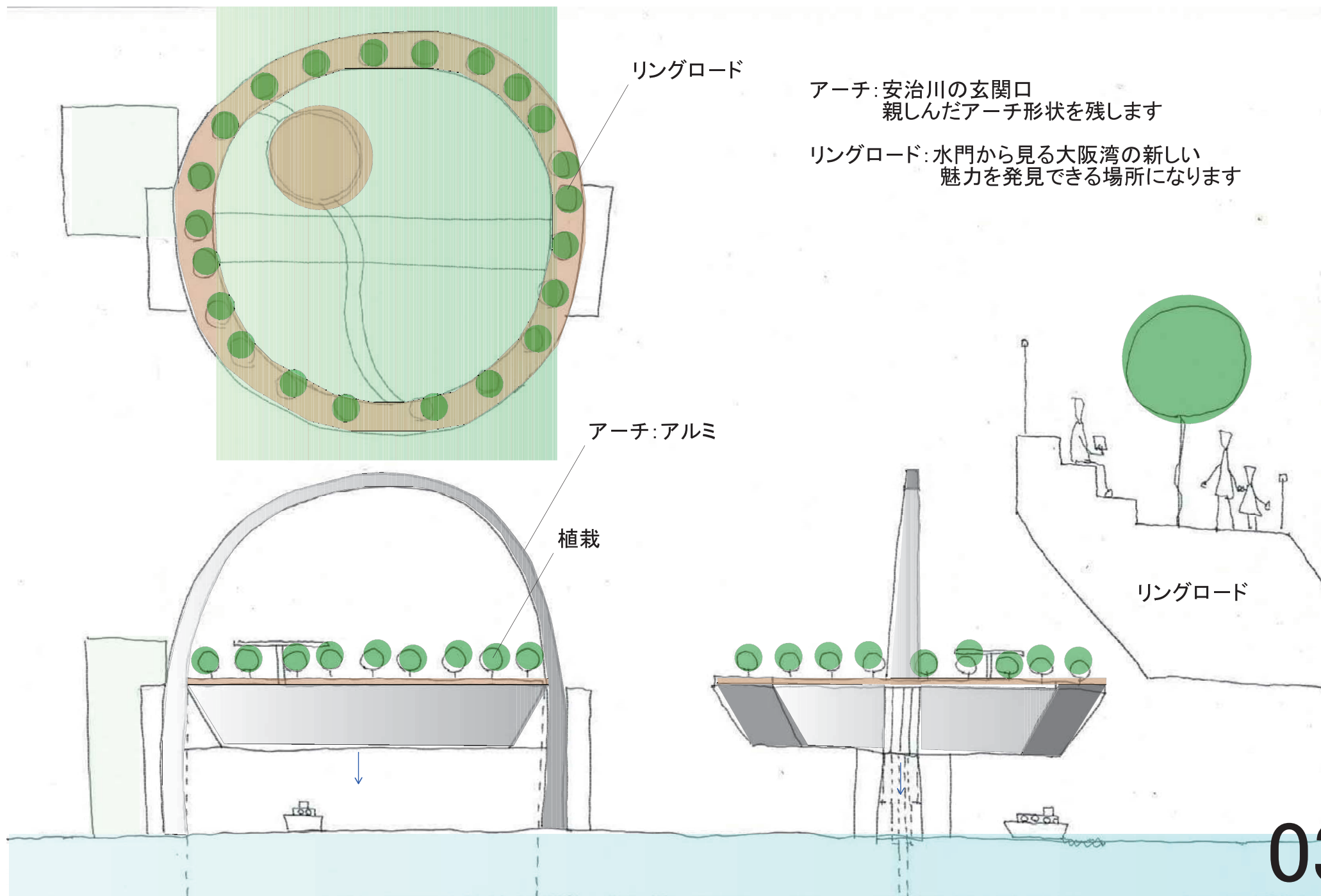
アーチ型が連続する景色

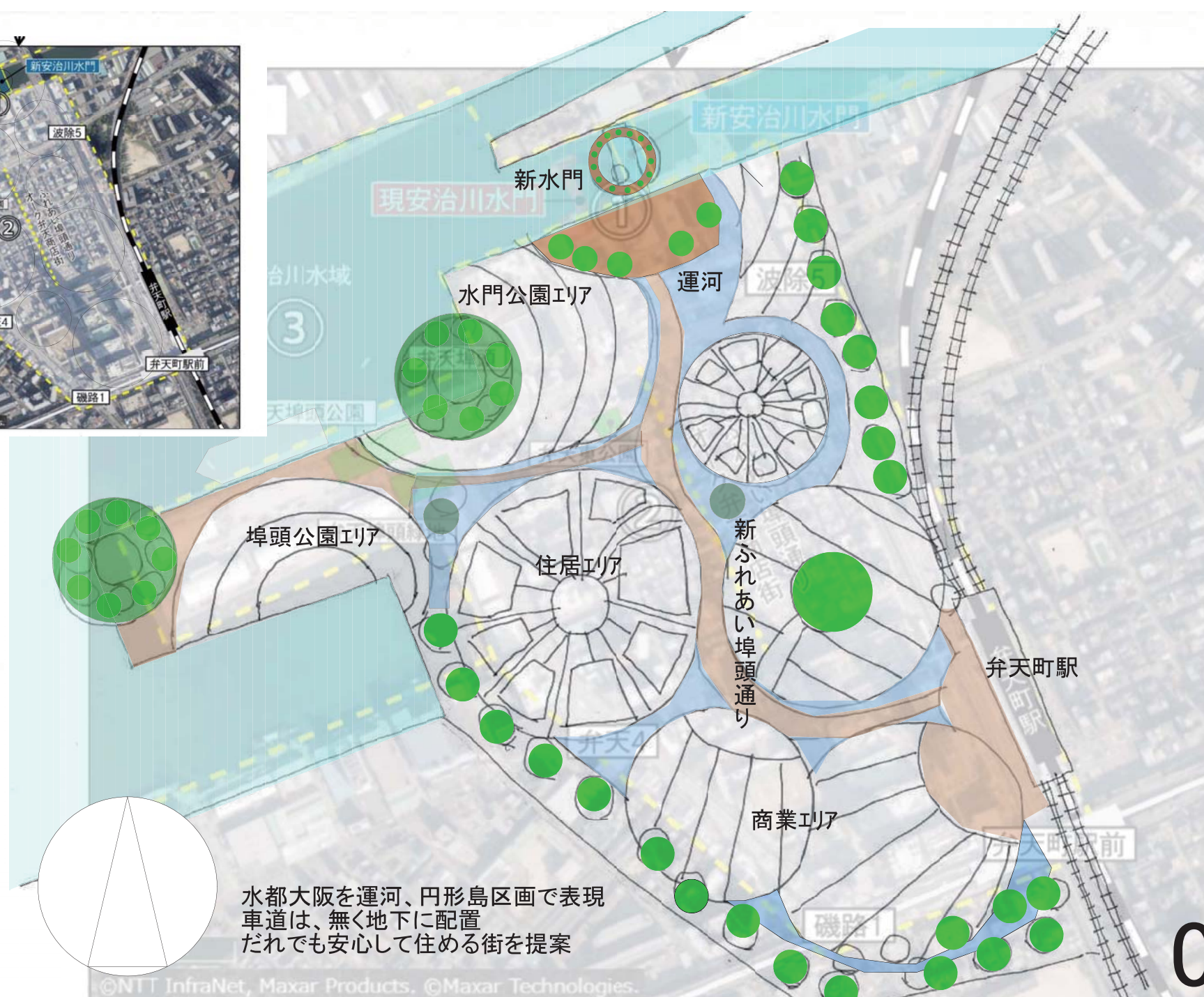


アーチ型の安治川の玄関口



アーチ越しにみた夕日





毎日ニュースでは、コロナ感染患者、死亡者の数が発表され見通しが真っ暗な状況のなか、希望に輝く水都大阪の街を子供達に残します。

身近で居心地の良い、だれもが笑顔が絶えない地域に寄り添う魅力ある街をご提案致します。

最後までご覧いただき、
ありがとうございました。

〈作品 010〉

「安治川いいであいプロジェクト」
提案書

チーム名：安治川げんきプロジェクトチーム

木村昌弘（大阪大学 工学部 非常勤講師）

岡崎 善久（岡崎善久建築設計事務所 所長）

加藤 創一（近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系）

河西 茂行（地球デザイン研究所 所長）

審査員特別賞

「安治川いいであいプロジェクト」提案書

気候変動等による水災害の深刻化に対処するため、流域全体であらゆる場所や手法で、すべての関係者が一体となって取り組む流域治水対策が必要とされている。今回の府の取り組みは、治水施設とまちづくりを一体的に進める流域治水の先進的事例であることから、以下のキャッチフレーズを基に「安治川いいであいプロジェクト」とした。

大阪府「流域治水」のキャッチフレーズ(案)

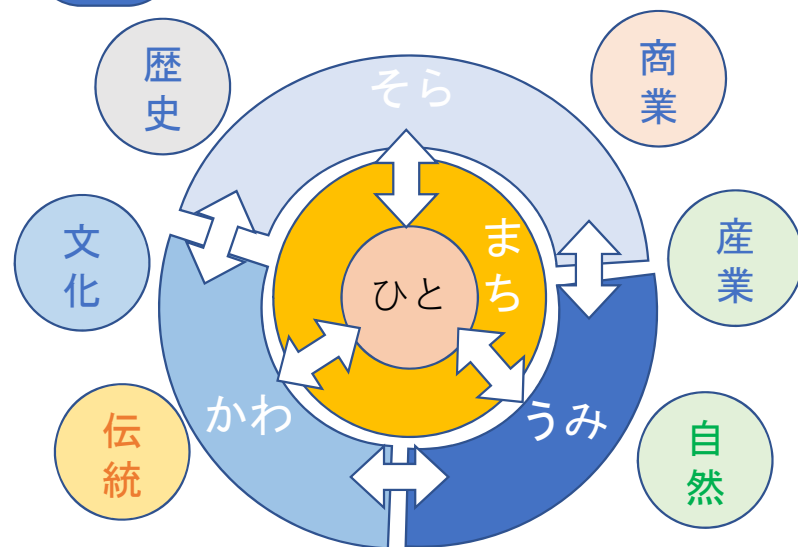
い	つも	WHEN	日頃から(フェーズフリー)・グリーンインフラ・Eco-DRR
い	っしょに	WHO	住民・NPO・市町村・都道府県・国・企業等
で	きることから	WHAT	タイムライン・ハザードマップ・防災計画・訓練・土地利用
あ	らゆるところで	WHERE	河川(河道・ダム・遊水池・防潮水門等)・各戸・各施設・宅地・農地・山林等
い	つまでも安心安全	WHY	気候変動に伴う豪雨災害の増加・人口の高齢化

プロジェクトの基本理念と対応方針

基本理念

ひと・まち・みず・そらとのいい出会いで
安らかに治まる川と
魅力ある安全安心
なまちづくり

対応方針



「安けく治むる」：安治川の語源

1. 河川と海とのいい出会い

- ① 高潮・津波対策と洪水対策の両立
- ② 弁天ふ頭の再興・舟運の活用

2. 人と水とのいい出会い

- ① 親水空間の創造
- ② 高床・ピロティ式住宅等への転換

3. 人とまちとのいい出会い

- ① 天空回廊の整備

4. まちとまちとのいい出会い

- ① 安治川左右岸地域の交流
- ② 舟運の復活

5. 歴史やそらとのいい出会い

- ① 現安治川水門等の保存
- ② 川・海・空の眺望確保

安治川
水門

弁天町
周辺

安治川
水域

1. 新安治川水門および管理所敷地のデザイン

(1) 新安治川水門形式はマイターゲート(河川と海とのいい出会い)

治水機能、維持管理、景観・利用、気候変動対応の4面から評価を行い、マイターゲートが最適として、この形式で水門をデザインすることとした。

- ①治水機能：海側からの高潮・津波だけでなく河川側からの洪水への対応性で評価
(無動力で開閉の容易性：台風時の高潮と豪雨及び排水ポンプ故障対応)
- ②維持管理：水中作業の有無で評価
- ③景観・利用：景観面と上部利用の可能性で評価
(水面上での威圧感、水上イベントステージ等の上部利用)
- ④気候変動対応：建設後にゲートの嵩上の可能性で評価



水門形式	マイターゲート	起伏式ゲート	横転式ローラゲート	引きげ式ローラゲート
①治水機能	◎水圧で開閉可能	◎同左	◎同左	○開時に動力必要
②維持管理	○リフトアップ可能	△水中作業	◎常時は陸上	◎同左
③景観・利用	◎景観・上部利用	◎	○	△景観・上部利用
④気候変動対応	○嵩上可能	○嵩上可能	△嵩上困難	○嵩上可能
総合評価	◎	○	○	○

(2) 安治川アーチ水門は産業遺産として保存

・ 安治川水門の歴史的価値の認識評価(歴史とのいい出会い)

① 高潮対策に果たした大きな効果

⇒ 先人の治水努力の伝承

② 地域のランドマーク的役割大

⇒ 歴史的シンボル景観の継承



現安治川水門を貴重な土木遺産として保存し後世へ継承



(3) 現水門管理棟は保存活用

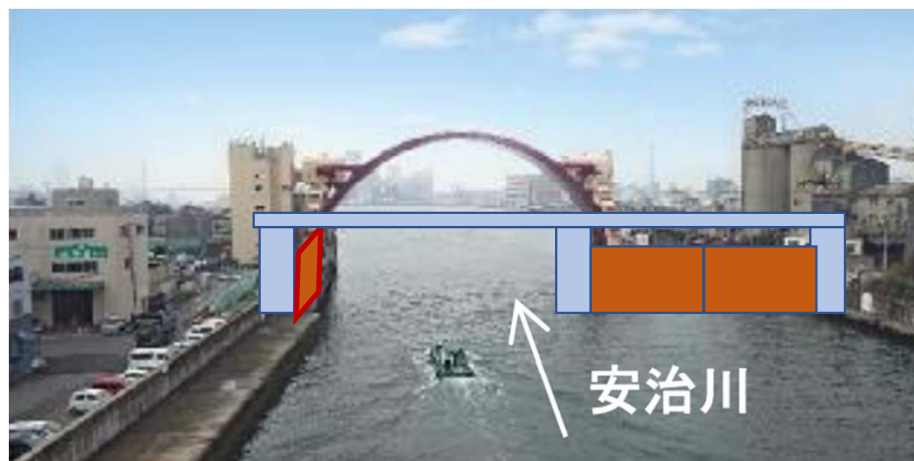
① 現水門と一体的にリニューアル保存

② 高潮津波ステーションと一体的運用

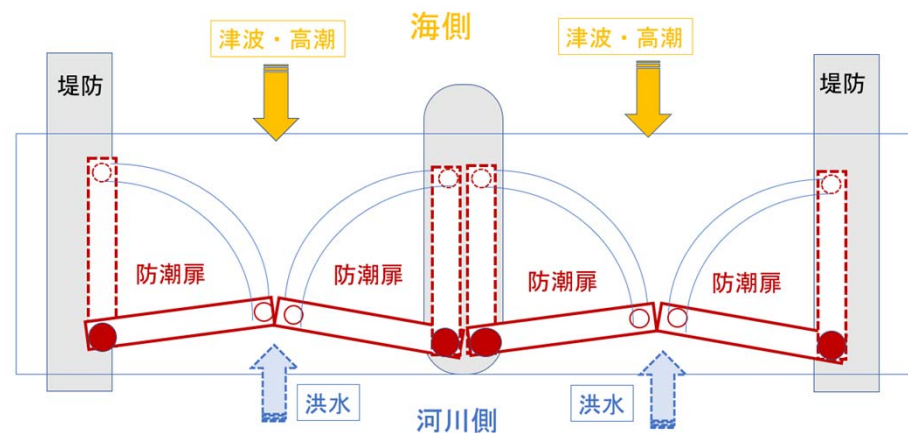
③ 管理施設・子ども教育・PR等に活用



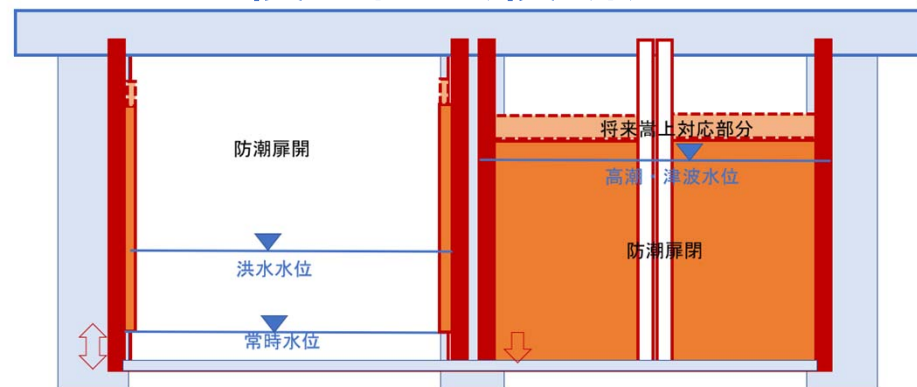
新安治川水門イメージ図



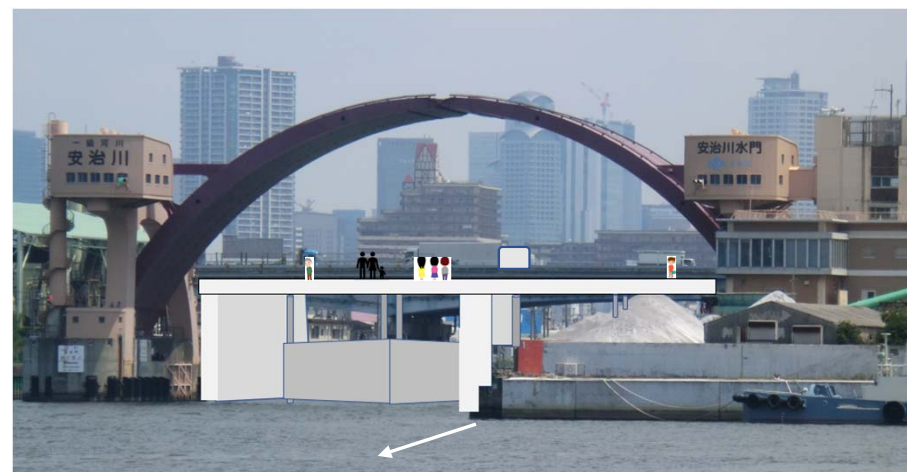
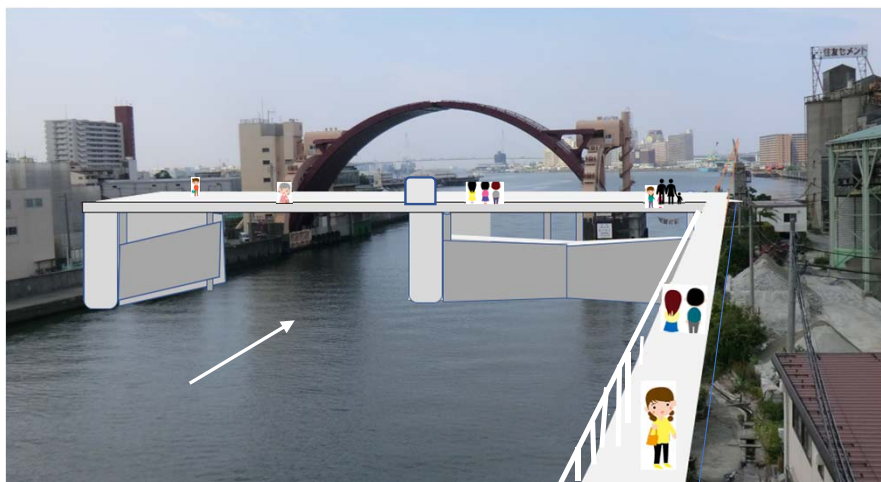
模式図（平面）



模式図（横断）



新水門・管理棟デザインイメージ



水門上部広場の活用例



災害・水位情報の常時点灯表示

2. 弁天町周辺エリアのデザイン

まちづくりコンセプト：

水都の守護（水防災情報発信都市）モデルタウン弁天

瀬戸内航路の玄関口⇒水防災の玄関口

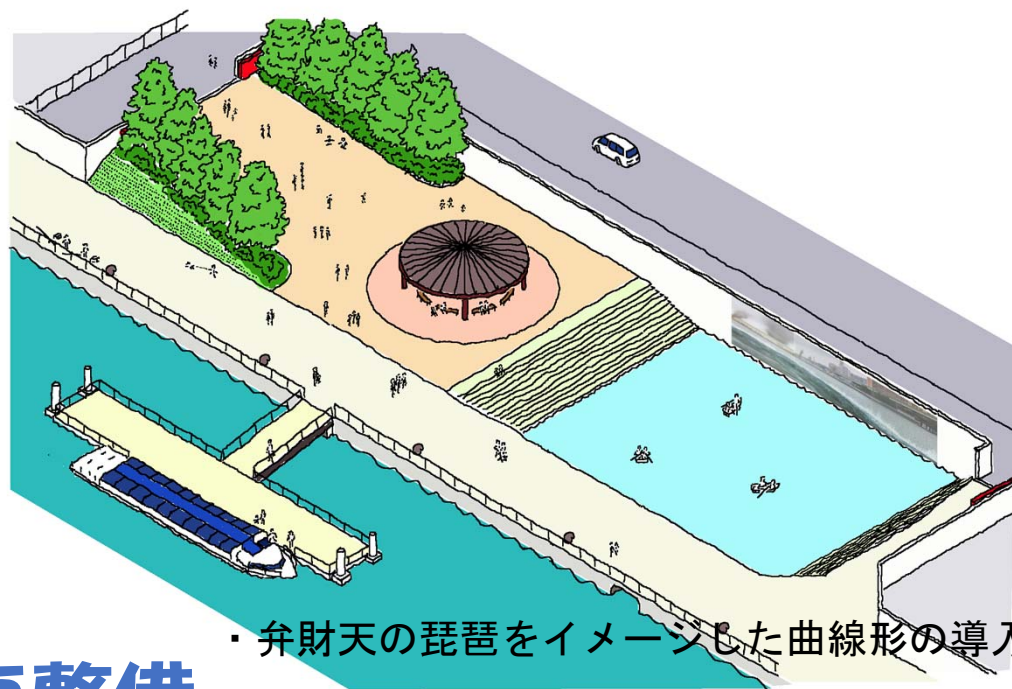
**べんりさとさいがい対策が
てんこ盛りのまち**

- （１）弁天ふ頭の復興活用
- （２）災害情報発信の拠点整備
- （３）天空回廊の整備



(1) 弁天ふ頭復興活用

- ① 弁天埠頭公園の拠点化
 - ・ 防潮堤の位置を変え水辺と一体化
 - ・ 感潮型の池を設け親水空間化
 - ・ 定期的な朝市を開催
 - ・ 屋台・キッチンによる賑わい創出
- ② 新航路の拠点整備
 - ・ 浮棧橋設置等による水運復活。
 - ・ ワンデマント 小型舟運ネットの導入
- ③ 防災機能との連携（海上輸送拠点等）



・ 弁財天の琵琶をイメージした曲線形の導入

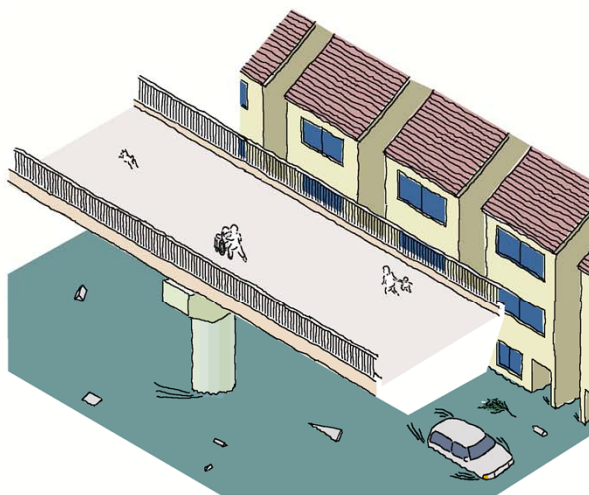
(2) 災害情報発信の拠点整備

- ① 現水門管理棟の活用
 - ・ 津波高潮ステーションとの連携（研修・PR）
- ② 各拠点毎に系統的案内表示板設置
 - ・ 防潮堤（スクリーン化）・水門上部広場・天空回廊



(3) 天空回廊の整備(人と水とまちのいい出会い)

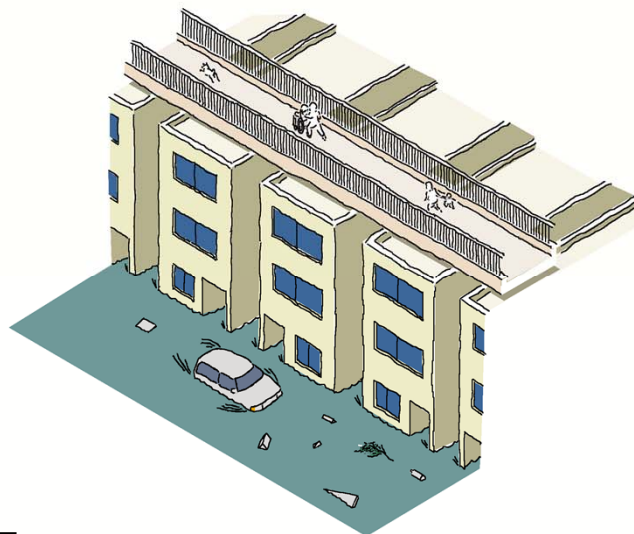
①避難用天空回廊の整備



浸水発生時に避難用通路として利用
平時は、にぎわいの場を創出

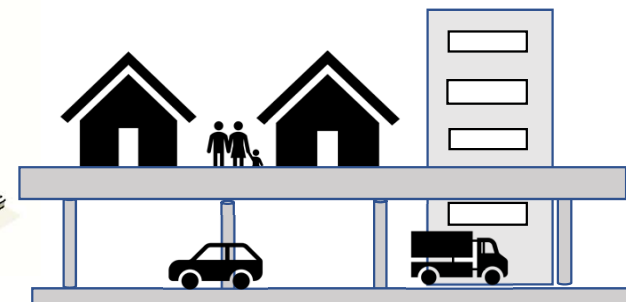
- ・ イベント利用可能な幅員を確保
- ・ オーク商店街のアーケード的活用

②耐浸水性建物への建替に合わせ、民地内通路を整備



天空回廊と接続し、バリアフリーの移動を可能とする

③将来的には、上層をアメリティ生活空間とする2層の都市への移行



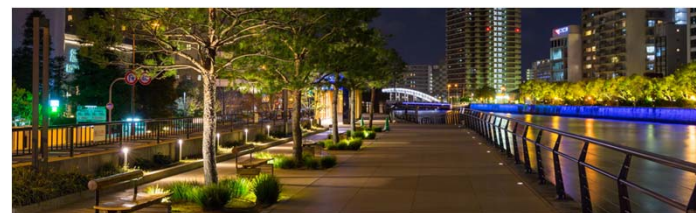
人工地盤都市（坂出市の事例）



3. 安治川水域エリアのデザイン

デザインコンセプト: あじ(あ字)サイト(彩人)水回廊

- ・ 目的: あんぜん(安全)・あんしん(安心)、アメニティの創出
- ・ エリア設定: あそぶ、あきなう、あじわう、あつまる、あるくエリア
- ・ 河川および周辺建築物の色彩・照明:
あお(あい)色、あか色を基調とした色彩で統一、あかいの演出
- ・ 自然環境の保全と活用:
あじさい、アマモで満る水辺と海域



エリア別の整備イメージ（人と水とのいい出会い）



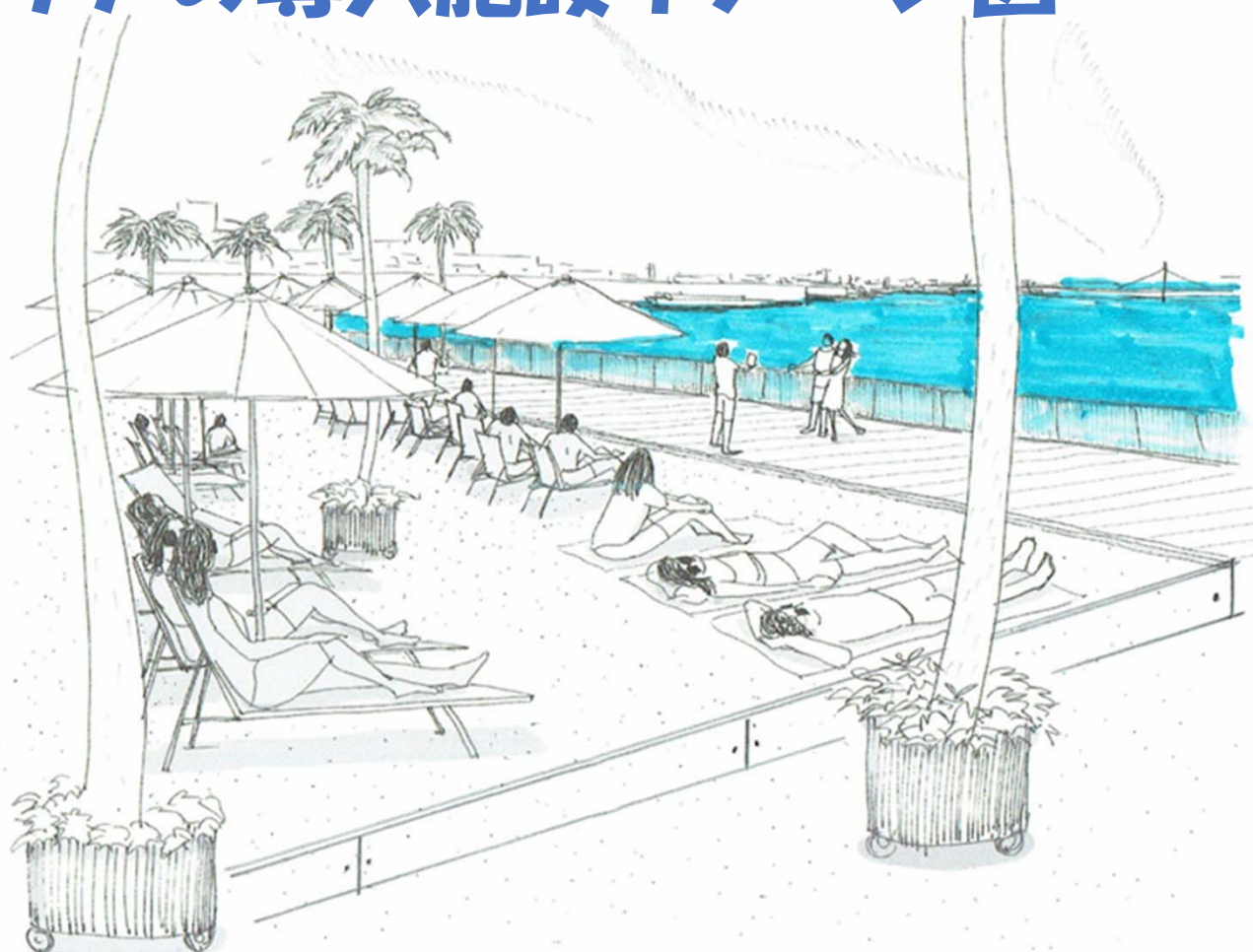
舟運の復活・活用（海と川とのいい出会い）

弁天ふ頭を再興し、中の島から夢洲・淀川に至る舟運航路の拠点とする。

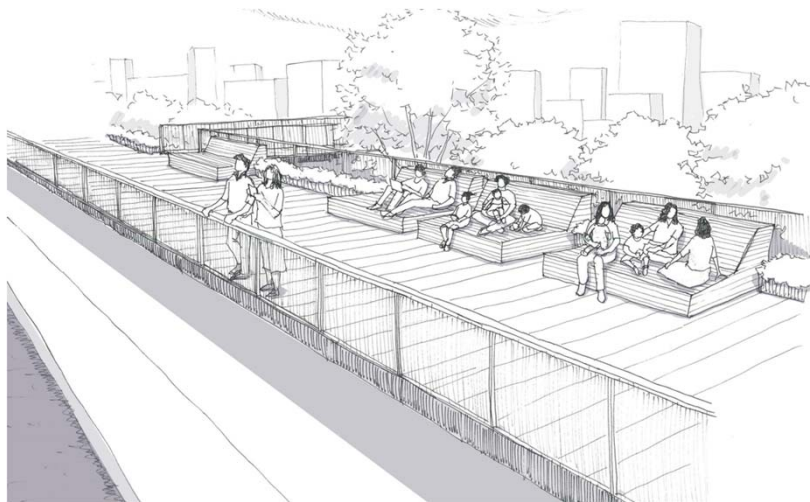


遊ぶ・歩くエリアの導入施設イメージ図

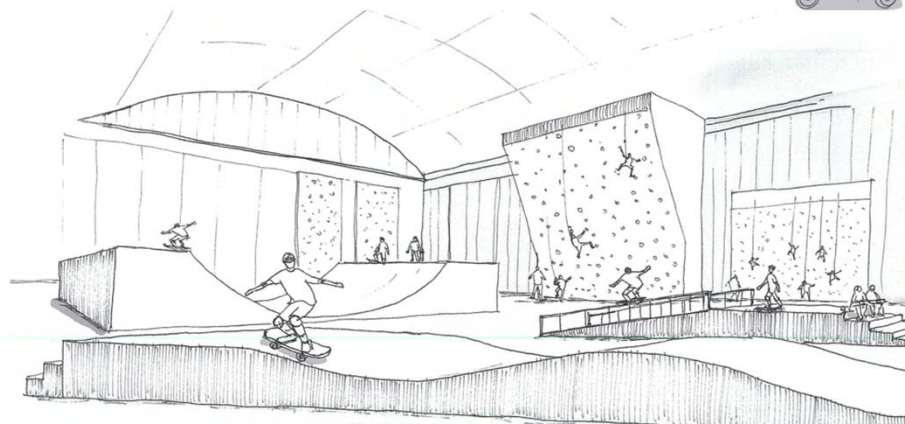
- 砂を入れ、囲いで仕切られた移設可能な砂浜ビーチを再現
- 地域の人たちと、四季折々の花を植えて楽しむプランターを設置



- 組み立てや解体が簡単な可搬式の現代版リヤカー等による、動く施設や店舗を設置

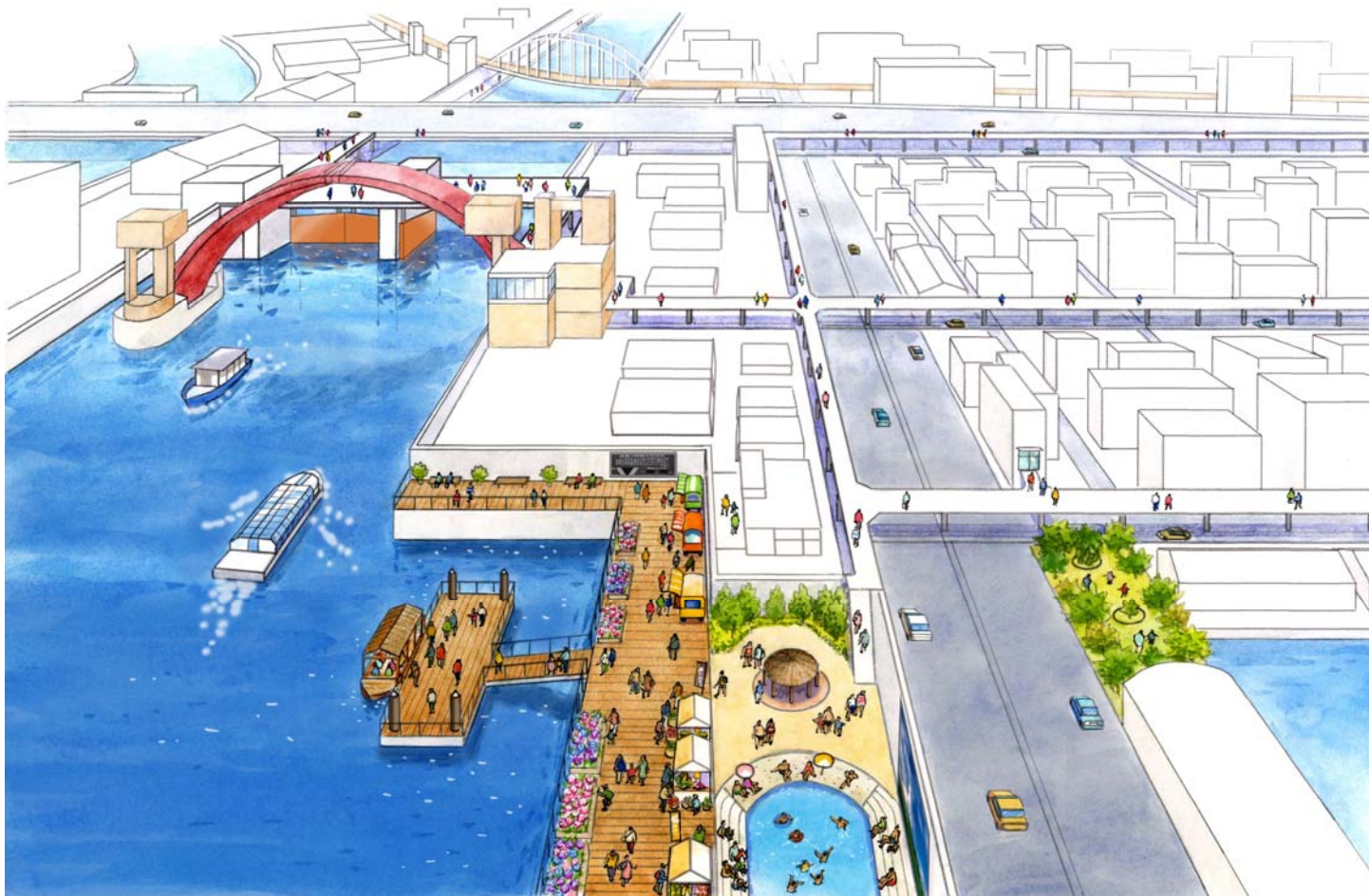


- 弁天ふ頭からの眺望を楽しむ、ベンチ等を設置



- ふ頭倉庫にスケートボード場等を整備

安治川水門周辺の整備イメージ図



〈作品 011〉

海の手門

川村宣元（川村宣元建築設計事務所）

最優秀賞

海の手門

市街地を抜け大阪城へとつながる安治川。

安治川の入口に建つ安治川水門は、水都大阪の海からの玄関であり

「海の手門」というのにふさわしい。

この地の歴史、文化を尊重し、そこから引き出されるデザインコードをもとに

未来につなげる提案をしたいと思います。



はじめに 1: 安治川の流域文化を読み解く

1

流程の短い安治川に果たして流域文化というものがあるかどうかは定かではありませんが、豊織時代から連綿と続く商都の発展におおいに寄与した川には違いありません。

■スケールの発掘

河村瑞賢の河道改修によって安定した水流により、外洋航路の大型船（千石船）は旧安治川橋まで入港できるようになりました。ここで荷を上荷船（30石船）や茶船（10石船）に積み替えて蔵へと運び込みました。運搬と河川に焦点を絞ると旧安治川橋を境に、川幅のスケールと共に川に浮かぶ船のスケールに差異がありました。

安治川水門から下流域は、近代になってから埋め立てで生まれた地であり、川（海）を航行する船も大型になりました。

安治川水門は、言わば、歴史、時間の門、

スケールの門であると言えます。

そこで、この地のスケールの指標を中型船（50m）大型船（100m）の大きさと設定しました。

安治川を航行する過去と現在の船舶の大きさを、その地の固有のスケールとしてデザインのソースとします。



外洋船（千石船）の停泊

■海の手門

大阪のまちを流れる安治川は、大阪の精神的支柱である大阪城につながります。安治川水門を川からまちへ至る入口とすればここは「海の手門」と言うことが出来ます。

■安治川往還

川といういものを見据えたとき、遡る時と、下る時、往還で違った感覚を持つものです。

川は時の流れのように不可逆的で、その不可逆性や往還での違った感覚をデザインで表現出来ないかと考えました。

水門や堤防という構造物で、「往還で異なった印象」を与えるような設えを提案します。



はじめに 2: デザインの方向性 大坂らしい景観を求めて

2

■にぎわいと防災: これからの都市の中の川

水都である大阪はどのまちより川との関わりを持っています。川は長く物流の大動力として大阪のまちを支えましたが、今日、その役割を終え、**憩いのある川**としての側面でまちを支えつつあります。しかしながら、一方で、災害時、物流としての川が見直されています。その意味で、川筋の随所にさらに停泊地が必要とおもわれます。青果市場から安治川水門までの川筋では、兩岸とも堤体と道路間に余地があります。ここを有効に活用することで、にぎわいの創出は可能と思われます。ここに遊覧船で訪れることで、非日常の体験が出来、防災の観点からも特別な場所となります。

■安治川水域: 新しい河川景観

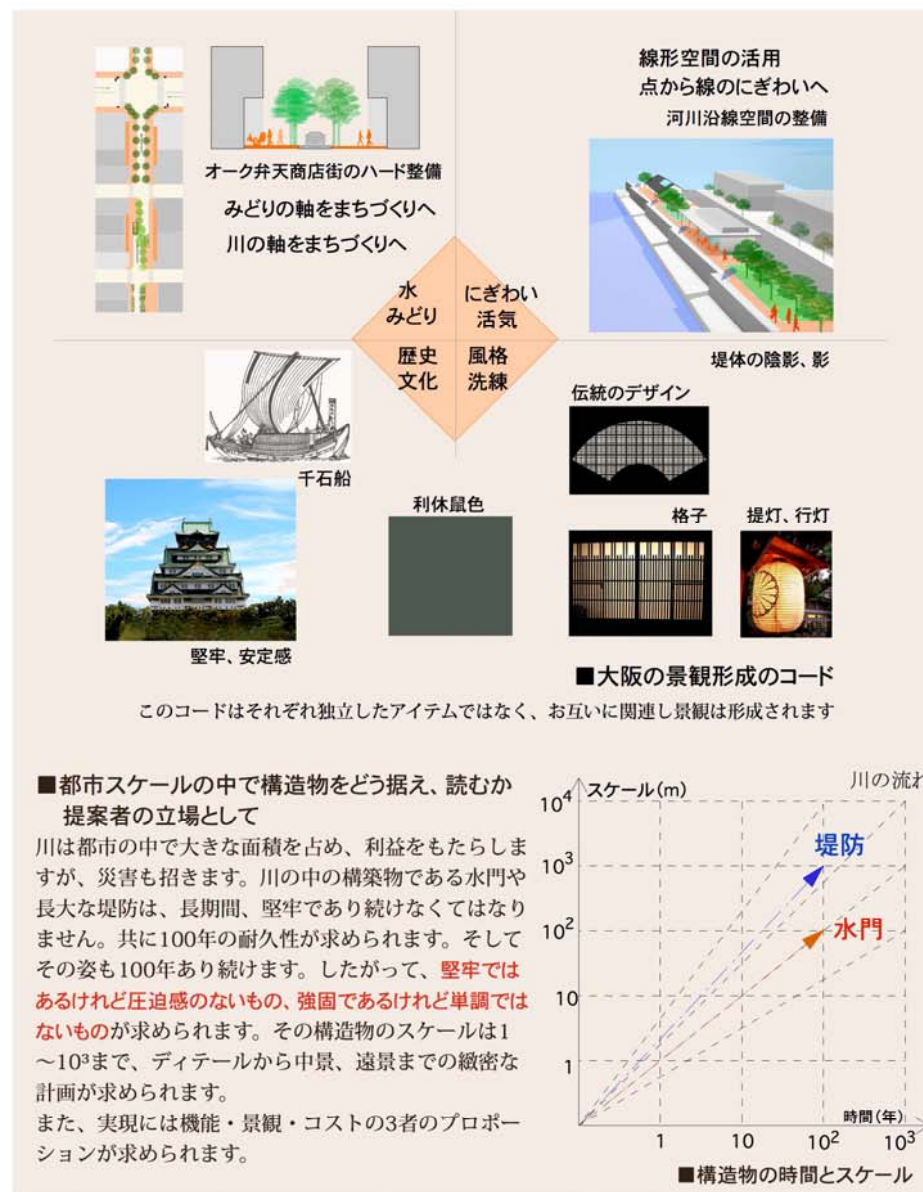
前述で過去と現代から**安治川のスケールを抽出**しました。このスケールを長大な構造物である堤防に落とし込みます。水門から上流はこの川の記憶を呼び起こして発掘した千石船や上荷船のスケールで堤防を分節化します。分節した接合部は重ねあわせます。この重ねは、この川の記憶のヒダのように時にははっきりした影となり、時には微妙な陰影をつくります。川の往還時に単調だった堤防の見え方を変え、**新たな河川景観を創出**します。特に夜間は照明による効果は大きいでしょう。

■歴史や伝統: 大阪を守る水門、管理棟

「海の追手門」と位置付けた水門は、堅牢さや洗練された風格がにじむものをめざします。管理棟にあっても同様で、シンプルであるけど飽きのこないデザインで臨みます。**その土地の歴史や文化を尊重**し、そこから導き出されるデザインをもとに素材、様態、スケールなどを用います。この地に根ざす日本の伝統色「利休鼠」を用いることを特筆したいと思います。

■みどりでつくる商店街

オーク弁天商店街は多くが店じまいしており、人があまり歩いていません。まず、街区毎に「**まちの居場所**」をつくり人々がまちに居ることが肝心であると思いました。後述するハード整備と相まって、まずは「人がいる」ことが大切で、次に、公園のようなみどりが必要であると考えました。環境整備が先か、商店街の体制が先か、ハードが先か、ソフトが先かになりますが、ここでは、環境をつくって、「こういうのはどうですか」という問いかけになります。



安治川水門:「海の手門」コンセプト

安治川の開削は淀川の水をよどみなく海に導き、水害のない大阪のまちの礎をつくったと言えます。その安治川は大阪のまちと毛細血管のように多くの運河で繋がり、「あきないのまち」大阪の物流を支えてきました。かつて、安治川河口は出船千艘入船千艘と言われるほどにぎやかな千石船（北前船や菱垣廻船など）の停泊地であり、大阪の海の玄関でありました。

大阪のまちを城に例えると、安治川水門は川からまちへ至る入口、すなわち、海からの玄関にあたり、「**海の手門**」であると言えます。

大阪城の手門は、洗練され風格があり、かつ、敵を寄せ付けない嚴重な防備構造です。水に対する防備である水門と相通じるものがあると考え、「**洗練、風格、堅牢**」、そして、**歴史を感じる造形**をこの水門で表現したいと考えました。

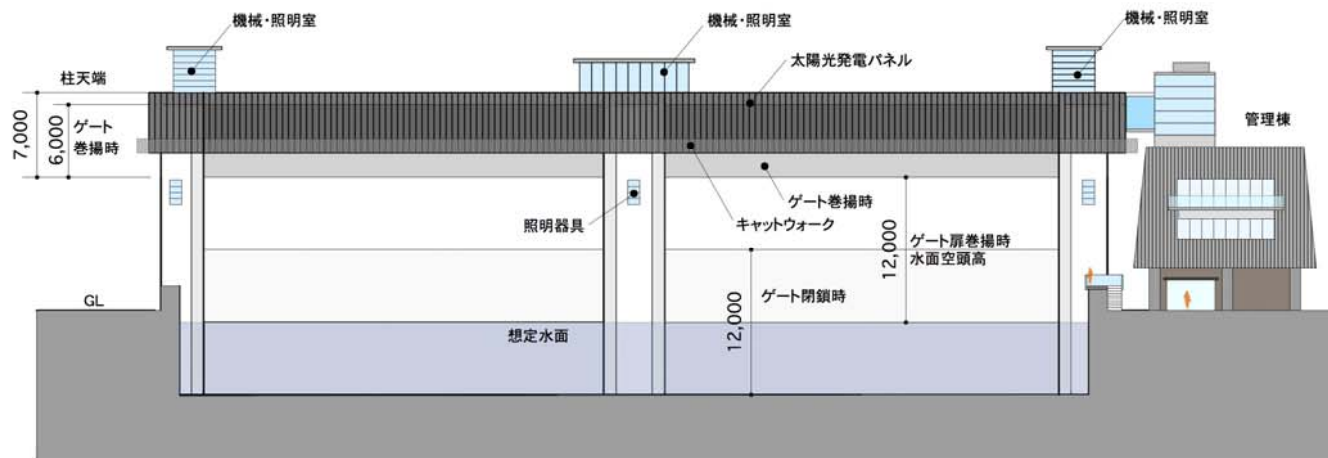
■デザインの特徴

一文字の幕板は大手門の底のような意匠ばかりでなく、太陽光発電パネルであり、夜間照明の電源とします。開門は**二段式ローラーゲート**として、巻き揚げ時に幕板で半分以上遮蔽され、**大きな遮蔽物とならない**様に配慮し、**水門自体の高さを押さえました**。

柱上部の機械室・照明室は巻き揚げの機構の一部を内蔵し、照明室として**かがり火**のような大きな明かりとして周知されるような意図を持ちます。

尚、ゲート閉鎖時の垂直高さは12m、ゲート巻き揚げ時の空頭高は12mと設定しました。

下流側からのファサードは厳しく堅牢、上流側からのファサードは優しく透過性のある表情、それぞれ**違った表情**としました。



■下流側立面 1/600

九条島中心部を開削して
河川を淀みなく海に導いた
安治川



大阪城へのオマージュ



大阪城大手門



大阪城大手門桁形内部

屋根、横長な格子窓、力強い柱は水門に、そして、側面のマッスな塀や桁形の大手門の側壁の建物は、管理棟にデザインソースとして導入しました。



かがり火や格子のイメージ

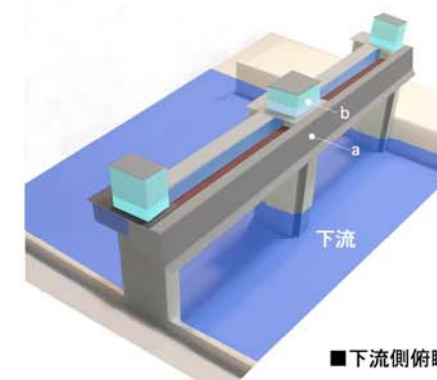
安治川水門:「海の大手門」デザイン

4

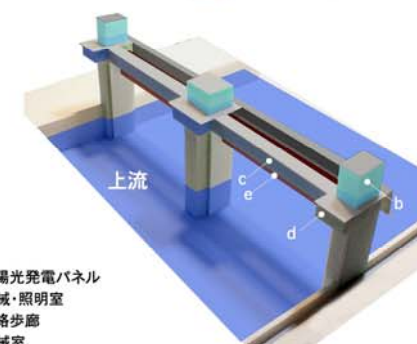
一般的に、水門の形態は頭部の機械室が大きく、不安定に見えます。

本提案では機械室と連絡歩廊を一体とすることで**水平ラインが強調される形態**とし、頭部が大きく見えないような工夫をしました。大きくなりがちな水門の機構は照明室とし、逆に強調されるようにしました。

ゲートを二段式ローラーゲートとすることで高さを抑え、**圧迫感のない構造物**としました。

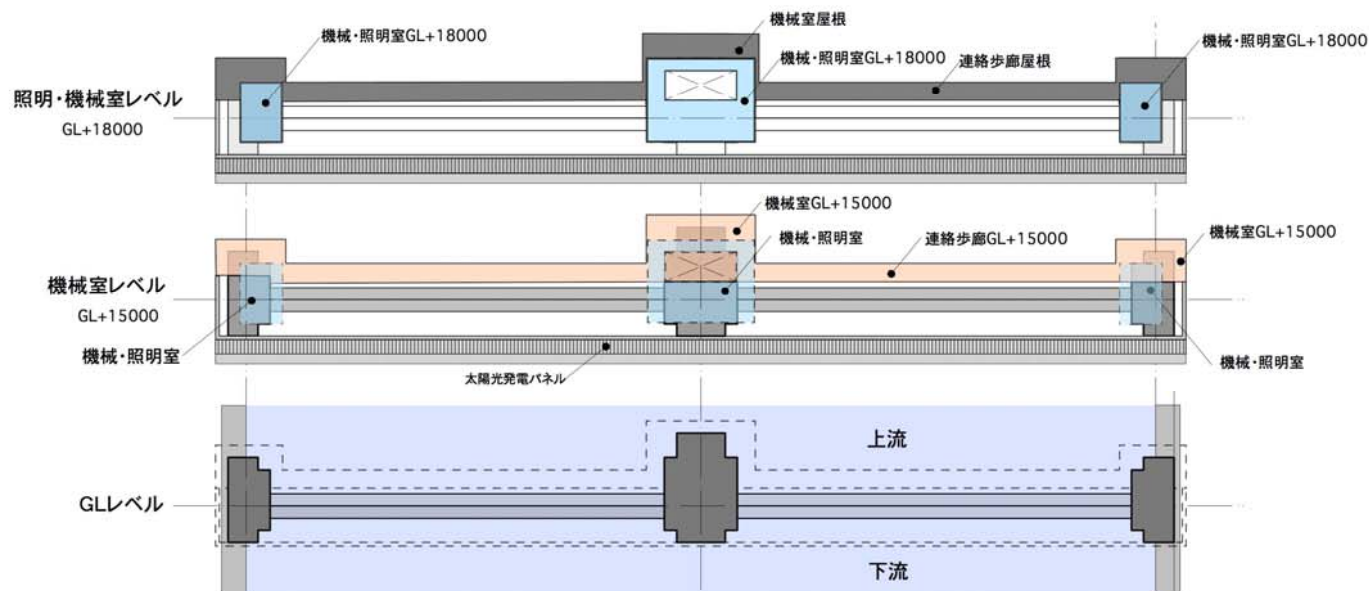


■下流側俯瞰

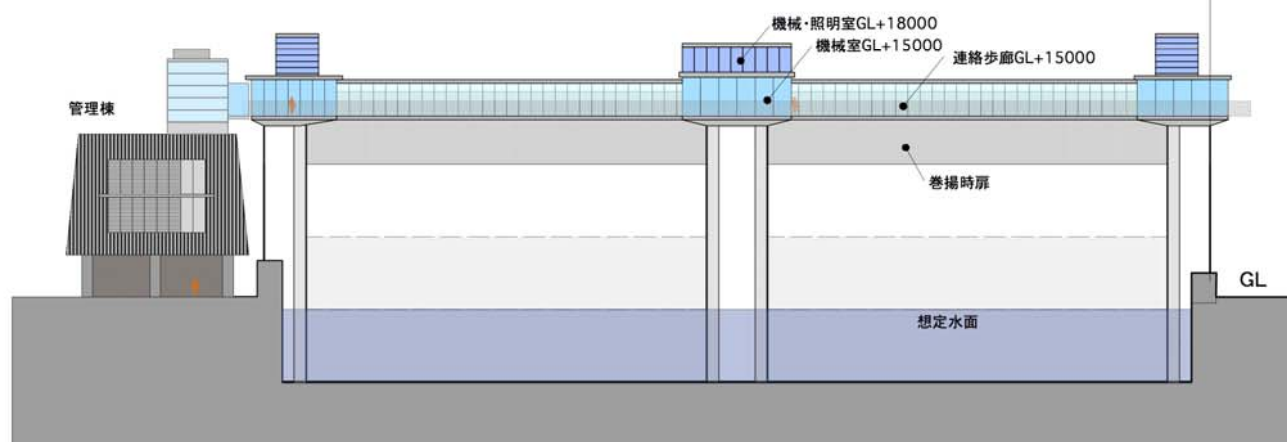


■上流側俯瞰

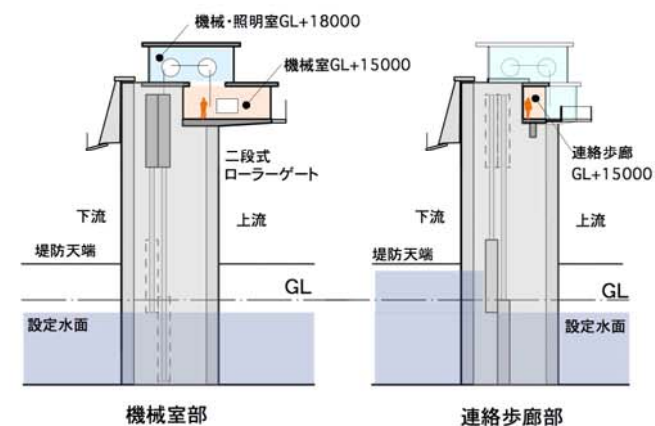
凡例
a:太陽光発電パネル
b:機械・照明室
c:連絡歩廊
d:機械室
e:ゲート(巻揚時)



■各レベル平面図 1/600



■上流側立面 1/600



■断面図 1/600

安治川水門:「海の手門」昼と夜の表情

5

外に対しては堅牢に、内に対しては開かれ、二面性のファサードを持つデザインとしました

下流側

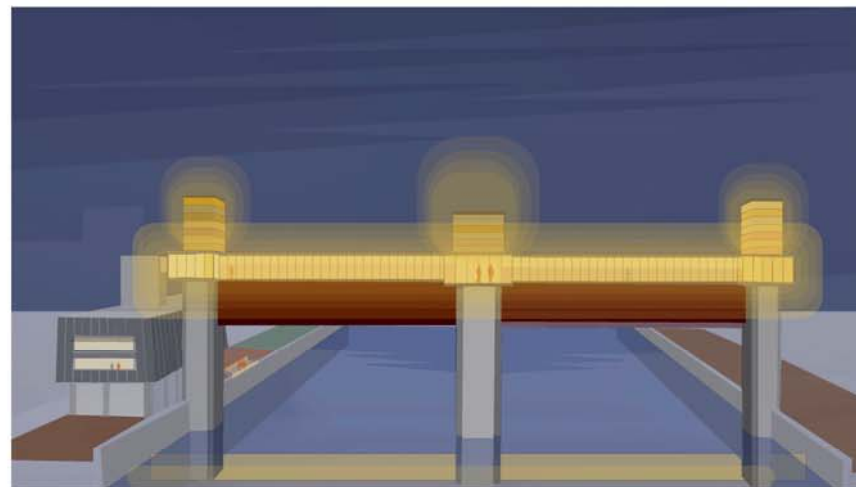
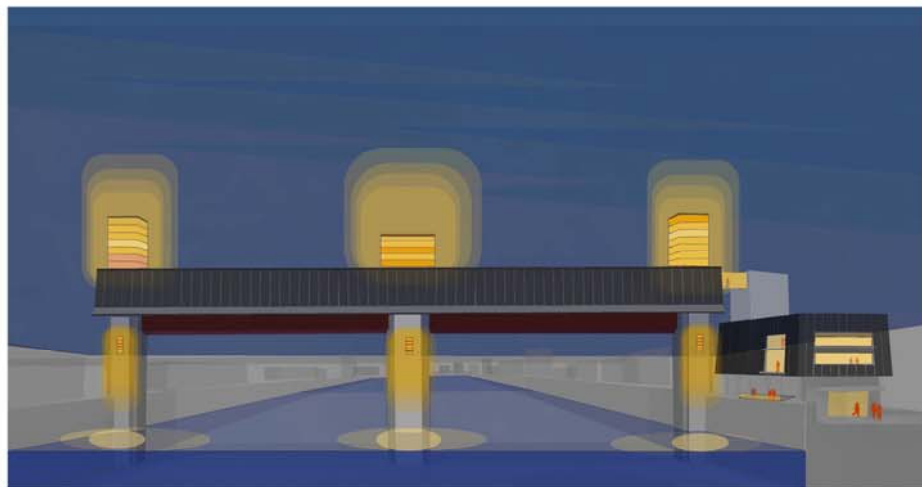


入港時、下流側から見る
堅牢な表情で、大阪のまちを守ります。

上流側



出港時、上流側から見る
二段式ローラーゲートは巻揚時の見付け面積が小さく閉塞感の解消が出来ます。



照明の点灯によって、上流側下流側同時、あるいは個別の点灯でその表情が変わります。
全点灯、照明室の点灯、連絡歩廊の点灯、門灯の点灯等、組み合わせで、様々なシーンで演出が可能となります。

安治川水門 4:管理棟デザイン

6

水門を「**海の大手門**」として大阪の海路からの玄関口と位置づけました。

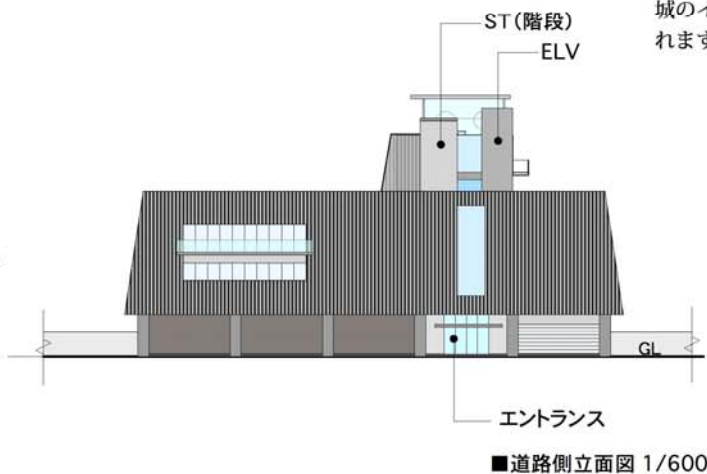
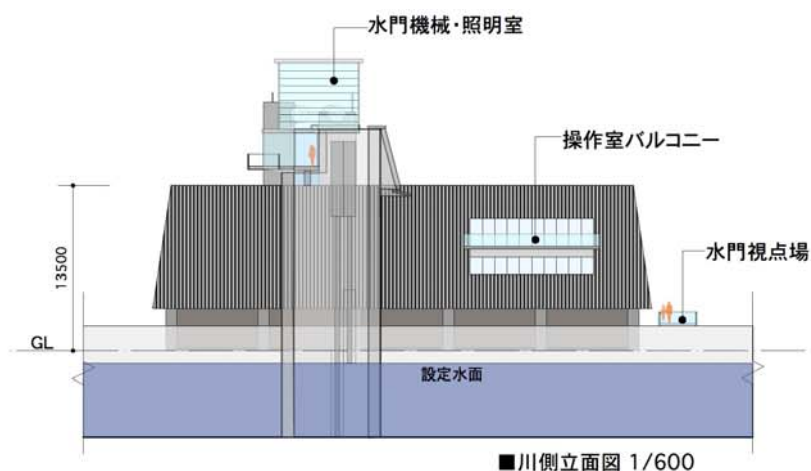
管理棟は門に対峙する城のような**堅牢で強固**なイメージが必要であると考えました。

1階は基壇として石積みのような堅牢さ、上階は城の天守のような**安定感のある台形**をかたちとして選択しました。

どんな災害にも打ち勝つ安心安全のシンボルとしてこの地にあってほしいと思います。



安定感のある台形、堅牢で強固な城のイメージをデザインに取り入れます



■管理棟配置の設定について

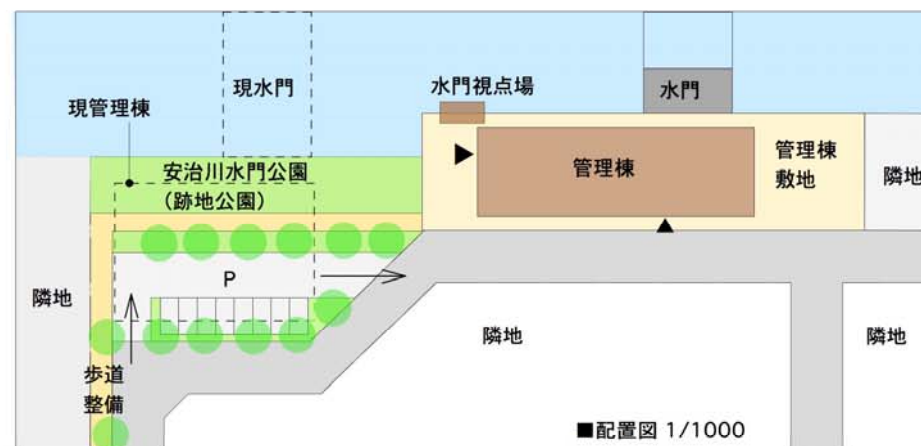
管理棟の最も好ましい配置は、水門の直近に配置することです。

護岸に細長い用地があるので、ここを利用することが最適と考えました。

現水門の管理棟跡地は「**安治川水門公園**」として整備します。地域資源としての水門への来訪者のために駐車場を整備します。

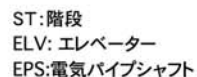
オーク弁天商店街方面からの来訪者のために、動線道路の片面に歩道を整備し利便をはかります。

護岸には水門を間近から見る事が出来る「視点場」を整備します。



•

1階には**展示室**を設け、この水門が地域資源であること、水門の役割を周知させます。



水門

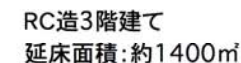
管理棟

HP

③ピット水

①河川水

②地下水



弁天町エリア整備方針 1 エリア全体計画

8

■地域資源

地域資源である安治川水門と弁天埠頭公園、オーク弁天商店街の三者を関連付けて地域の整備計画を提案します。

■公園整備と目的地化

駅から目的地としての安治川水門、弁天埠頭公園に着目し、そのルートを整備します。水門のエリアは現況管理棟跡地を「**水門を見る公園**」として整備、弁天埠頭公園には現アーチ水門をオブジェ化し「**安治川水門記念公園**」として、カフェなどを誘致し魅力ある公園として整備します。

■一方通行、歩道の拡張

延長約360mのオーク弁天商店街は交通量は比較的小さいので、**1車線の一方通行**とし、歩道部を広げ歩行者がゆったりと買い物が出来る街路をつくります。

■みどりの軸

オーク弁天商店街の「オーク」に着目し、木立（こだち）で町に「にぎわい」をつくることを出来ないかと考えました。街区ごとに**樹種のテーマ**を決め、特色をつくり、単調にならない様になります。建物の更新時に樹種にあわせた建物の設えをつくることで、調和ある街区をつくる事が出来ます。もちろん、建物が先で樹種をあわせる場合もあります。街路毎ではなく、いくつかの街路で共通の樹種の場合もあります。いずれにしても商店街の皆様の意見を聞きながら検討すべきです。

■（公共）駐車場の整備

商店街近隣には住宅やマンションが多く、徒歩圏で買い物が可能なため、商店街には専用の駐車場はありません。（公共）駐車場を文教施設跡の再開発施設につくり商店街来場者への利便性をはかります。

■まちづくりプラットフォームの構築

さまざまな活動主体と連携を取り、まちづくりの活動を活発化します。商店街においても街区毎の分科会をつくり、商店街の意志をまとめ積極的にプラットフォームにアクセスし、本整備計画への実現に向け活動します。



■整備概要

商店街を核とした**みどりの軸線**をつくりします。

商店街への導入街区は商店街名称を取って「オーク」を植樹

水門へのオマージュ、門を意識し、木々でゲートをつくります。

順次整備し、次整備は街区の連続性を重視して隣接する街区とします。

建物の更新時に壁面後退し歩道空間を充実させます。

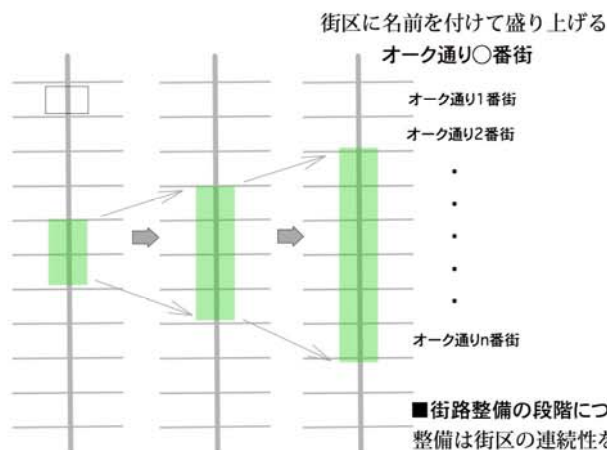
歩道幅は均一にしないで、広い歩道幅、一般的歩道幅としメリハリを

持った歩道空間とします。

歩道と車道は可能な限り段差を小さくする。

水門と弁天埠頭公園を商店街を通り道とした**目的地化**とし、人通りを増やします。

電柱を地下埋設し、すっきりした空間とします。



■街路整備の段階について
整備は街区の連続性を重視して隣接する街区とします。

■商店街への導入部する: 樹種の例



■街区の樹種/ファサードの関係

ハード優先の整備となるので、基本的には街区の建物ファサードデザインは樹種にあわせたファサードとなります。

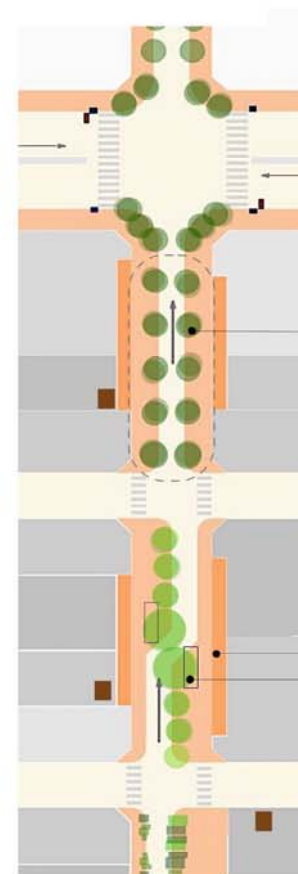
逆パターンとして、街区の建物ファサードデザインに合わせて街路の樹種を決める場合もあります。

■まちづくりプラットフォーム

商店街連合会はまちづくりのキーパーソンを創出し、上部団体の多彩な情報や人材が集積するまちづくりプラットフォームと連携とり、ハード計画の精査や軌道修正を行います。まずは、最小単位の街区で分科会を立ち上げ自らの意見を持つことです。

■まちの居場所

スタートアップはシャッター街になったまちに人を呼び起こすことが必要です。人はまず、地元から集めます。都会になればなるほど、高齢になればなるほど人々は孤独を感じ、まちの居場所を求めます。高齢者対策とにぎわい対策の一石二鳥です。



■商店街街路計画

歩道の拡張、一方通行、みどりの空間、

交差点:円形に植栽された木々
グリーンリングゲート



商店街へ導入街区
：「オーク」で木々のゲート
水門(デート)へのオマージュと通過儀礼



建物の壁面後退：広い歩道を確保
幅広の歩道：搬入車両や
身障者用車両の駐車
メリハリのある歩道幅員：空間の変化

幅広の歩道幅員は5m程度
ベンチやテーブルを出すことも可能

まちの居場所設置場所案

弁天町エリア整備方針 3 弁天埠頭整備計画

10

■目的地化

弁天埠頭公園、緑地はオーク弁天商店街を通り道とした目的地の一つになります。そのためには、行ってみたいと思う目的地にしなければなりません。

■現アーチ水門の保存

日本で唯一の**アーチ型水門**を**顕彰し、実物を保存展示**する公園とします。新安治川水門の完成後、撤去することになる水門ゲートを移設し展示します。単なる移設ではなく、オブジェ化し、アートとして位置づけることで付加価値を高めます。

■公園名の改称

公園名称は公園、緑地あわせて「**安治川水門記念公園**」と改称し旧水門を顕彰します。弁天埠頭緑地のはトイレを整備します。

■Park-PFI

公園には**Park-PFI**を利用し、**カフェを誘致し、通覧船の待合室**を設置し、公園としての価値を高めます。



奇跡のアーチ水門である現安治川水門

■川の駅

常設の川の駅とします。河川の船便、中之島、夢洲の中間点にあたり弁天埠頭エリアの再開発計画が進むにつれ重要性が増す施設といえます。



アーチ型の水門ゲートの設置による、道路を隔てた公園は一体のものとなります。弁天埠頭エリア再開発のシンボルとなります。



夜間景観

夜空に出現する明かりのリングは新水門が完成の後、かつての日本唯一のアーチ式水門の記憶を残すと共に、この地の**新しいランドマーク**となります。アーチ水門の文化財としての価値、地域資源としての価値は認識しなければなりません。設置は支柱や筋違などの設置を検討しますが、圧倒的な存在感は消えるものではありません。

安治川水域 1：護岸デザイン方針

11

安治川の中之島から夢洲の湾口まで流域を3つの地域に分け、**隠れたるスケール**によってデザインの構築します。船舶の大型化に伴い、物流の拠点は港湾施設の整備させた湾頭へ移動しつつあり、「物流としての川から憩いの場である川」へと位置づけが変わりつつあります。

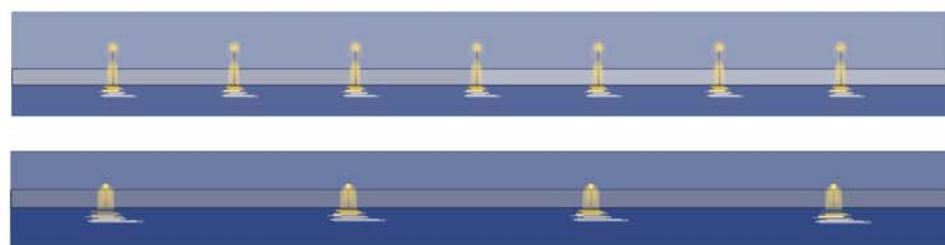
水都大阪の課題は「如何に川を身近に感じさせるか」ということだと考えます。

A地区は大阪の都心であるのでは開発が進みきった感があります。

B地区は物流での役割を終えて、地区の役割として次の段階に移る時期にあります。

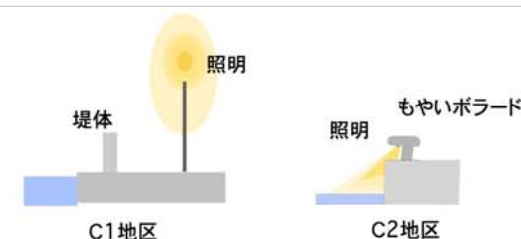
C1地区にあっても、アミューズメント施設等が出来、港湾地区としての役割は減少しつつあります。

A地区には複数の遊覧船の川の駅がありますが、一方、B地区には川の駅がありません。護岸整備を期に、江戸期の蔵屋敷船着場を模した川の駅や、護岸整備による店舗等を考慮して船着場（浮棧橋）を整備し、護岸のにぎわいを創出します。船着場（浮棧橋）の整備は**インフラとしての河川**を見直し、災害時の物流など有効に機能します。



■C地区のスケール

遊覧船船着場 川の駅		船舶を基準にしたスケール	
既存船着場： 川の駅数カ所	A地区		上荷船30石船 15m毎の 護岸自身による スケール
	B地区	旧安治川橋	千石船 30m毎の 護岸自身による スケール
新設 船着場 蔵屋敷的船着場： 川の駅	C1地区	安治川水門	時間の門 歴史の門
	C2地区	USJ 弁天埠頭公園川の駅 新設 蔵屋敷的船着場：川の駅	内航船 護岸50m毎の スケール
天保山川の駅 新設 ダイヤモンドポイント 旧時空間川の駅 万博泊地川の駅	C2地区		外洋船 護岸100m毎の スケール
		入港	
視界に広がるみどりの光景 外洋			



安治川水域 2: にぎわいと護岸デザイン

にぎわいに向けての提案

12

地域の隠れたるスケールで護岸堤体を分割

分割された堤体に角度を付け重ねあわせ、影を付け単調な護岸にリズムを与える
重ね合わせによって方向性が生じ、航行時の方向（上り下り）が護岸を見てわかる
重ね合わせ部の照明の仕方によって夜間に方向によって川の表情が違ってくる

■新しい川辺のにぎわいの創設:適用箇所

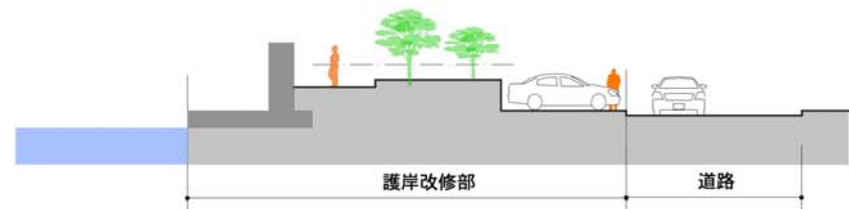
A区域: 河岸に駐車場や余地があるところに適用

B区域: ほぼ全区間でにぎわいに向けての提案が可能

C1区域: 右岸一部でにぎわいに向けての提案が可能

■護岸デザインの特徴

- ・堤体の長さを千石船の長さ（B地区）、上荷船（A地区）（地域の隠れたるスケール）に設定
- ・物理的強度の増加: 堤体を斜めにすることでY方向の要素が生じ耐震性が増す
- ・川面が見える沿道: 一定幅の嵩上げすることで堤防の強度が増す
- ・店舗の明かりが川面に映え、にぎわいを感じさせる
- ・植樹により潤いのある川辺をつくる事が出来る
- ・帆に見立て太陽光発電パネルの設置: 夜間照明の電源の確保
- ・浮き桟橋を設置; 船着場として



堤防越しに川が見えるように嵩上げる



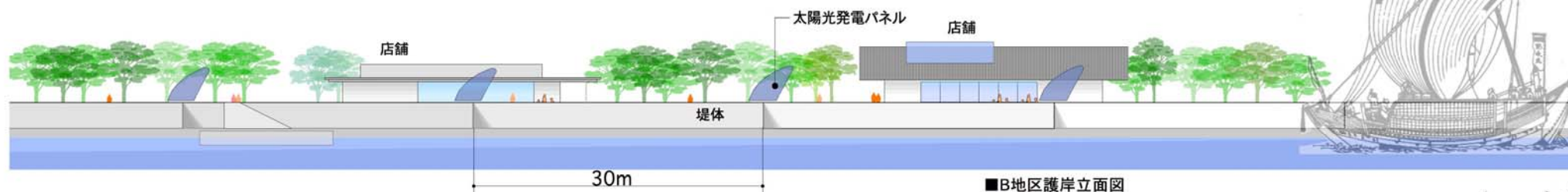
ベイエリアの整備に伴う、遊覧船の運航

川の駅、浮き桟橋の増設

接岸のための階段、スロープ

川の駅: 階段のみ (災害時のインフラとしての河川の整備)

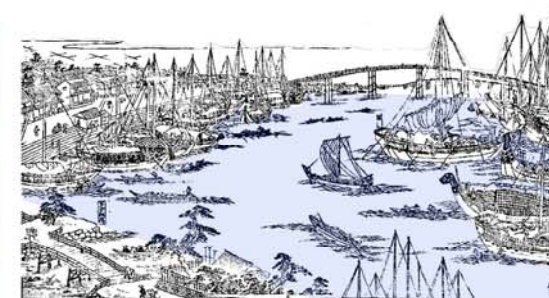
■提案模式断面



■B地区護岸立面図



■B地区配置案模型



入船千艘出船千艘: 画面奥の安治川橋手前に停泊する外洋船、荷を小型船に積み替え上流の蔵まちへ向かう

安治川水域 3: 護岸デザイン B区域

13

一定の寸法で堤体にリズムを与え、上りと下り、夜と昼で景色が変わる護岸



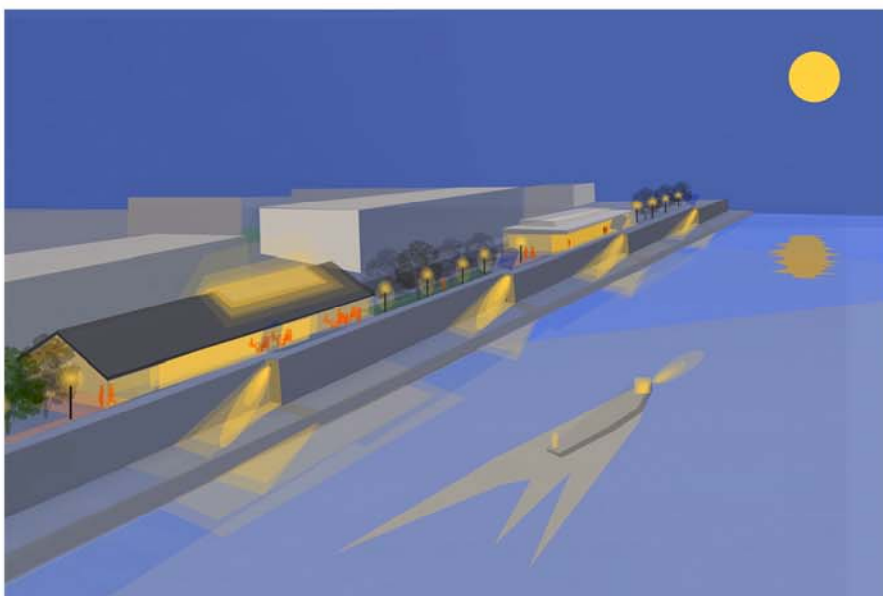
昼の景観

下流から上流を見る:
川の流れにさからうような堤防の重ね、下る時とは違った景色が読み取れます。



昼の景観

上流から下流を見る:
川の流れにさからわない堤防の重ね、堤体の重ね毎に設置する太陽光発電パネルは帆船の帆をイメージしました。



下流から上流を見る:
川に流れを遡る時、あかりは逆光に見えます。



上流から下流を見る:
川に流れに素直な時、あかりは順光に見えます。

〈巻末資料〉 募集要項

（レイアウトを変更しています）



新安治川水門アイデアコンペ（一般の部）

募集要項

【参加登録】2021年7月16日（金）～ **2021年8月31日（火）**

【応募期間】2021年7月16日（金）～ 2021年9月7日（火）

【1次審査通過者発表】

2021年9月下旬

※1次審査通過者には、事務局より応募代表者にメール通知

【2次審査（公開プレゼンテーション）】

2021年10月18日（月） 18:00～20:30

※1次審査通過者を対象に実施

【結果発表】2021年11月中旬予定（公式ウェブサイトにて発表）

【表彰式】開催日未定（結果発表日とは別日に表彰式を企画）

【公式ウェブサイト】<https://www.ajigawasuimon-compe.info/>

主 催：「新安治川水門アイデアコンペ・絵画コンクール」実行委員会
[構成員]

大阪府西大阪治水事務所、大阪府河川室河川整備課、
「私の水辺」推進協議会、公益財団法人 大阪府都市整備推進センター

協 賛：一般財団法人 都市技術センター

後 援：土木学会 建設マネジメント委員会 公共デザインコンペティション研究小委員会

（履歴）

2021年7月14日（水）発行

2021年8月5日（木）改訂（**参加登録期間の延長**）

1. 趣旨

現安治川水門は、西大阪地域の高潮対策の根幹施設として、昭和 45 年に竣工した後、約 50 年もの間、住民の安全・安心を確保してきた重要な土木構造物です。現水門は、アーチ型という日本でも珍しい形式であることもあり、地域のシンボルとして親しまれてきましたが、老朽化により新たな水門を建設する必要が生じています。新安治川水門の建設にあたっては、昨今の社会情勢等を踏まえ、将来予測される気候変動による海面水位の上昇への対応や津波対策機能を付加することが求められています。

また、近年、現安治川水門を取り巻く周辺環境にも大きな変化が見られます。弁天町駅周辺や安治川下流域の開発が進み、今後は弁天埠頭の再開発や中之島～夢洲間の小型客船運行も検討されるなど、地域が賑わい、活性化する機運が高まっています。

これらの背景を踏まえ、新水門については、後世にも継承される優れたデザインを有し、現水門同様、地域の方々の安全・安心のシンボルとなることが期待されていることから、安治川水門の更新を契機として、「新安治川水門と周辺地域および河川軸」のアイデアを募集するアイデアデザインコンペティションを開催いたします。

本コンペティションの開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症予防を鑑み、チーム作りから、チーム内での議論、デザイン案の作成、提案発表まで、すべて 3 密を回避して在宅等で行えるよう、インターネット技術を最大限に活用したリモートコンペティション方式で実施いたします。審査時のプレゼンテーションはオンラインで実施します。

※ 本コンペティションは、新たに建設する安治川水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観などについて、広くアイデアを募集し、新安治川水門の景観設計上のコンセプトおよび配慮すべき事項の参考とすることを目的としたものであり、提案内容の直接的な実現を前提とするものではありません。水門デザインやまちづくりへのヒントとして活用させていただきます。

2. テーマ（対象エリア）

「新安治川水門と周辺地域および河川軸」

大阪のベイエリアは 2025 年日本国際博覧会開催や IR を含む国際観光拠点形成に向け、夢洲地区の整備が計画されているほか、夢洲という新たな目的地による新航路の設定や船便の増強による利便性向上が検討されており、安治川はベイエリアと水都大阪の中心である中之島エリアを結ぶ主要な舟運ルートとして重要度が増しています。

新安治川水門の整備予定位置はベイエリアと中之島エリアを結ぶ舟運ルートの中心に位置しており、周辺部ではさらなる舟運の活性化が予想され、眺望景観および夜間景観の魅力を高める取り組みが求められています。

また、大阪市港区では、「港区エリア別活性化プラン」が策定され、新安治川水門整備予定位置の東部エリアでは、「大阪ベイタワーを中心とした弁天町駅周辺エリアのにぎわいの創出」や「水辺空間の利活用の推進」などが示されています。

このような状況を踏まえ、提案を求める対象エリアは、「新安治川水門と周辺地域および河川軸」とし、概ね次頁の黄色の破線内（①～③）の範囲とします。

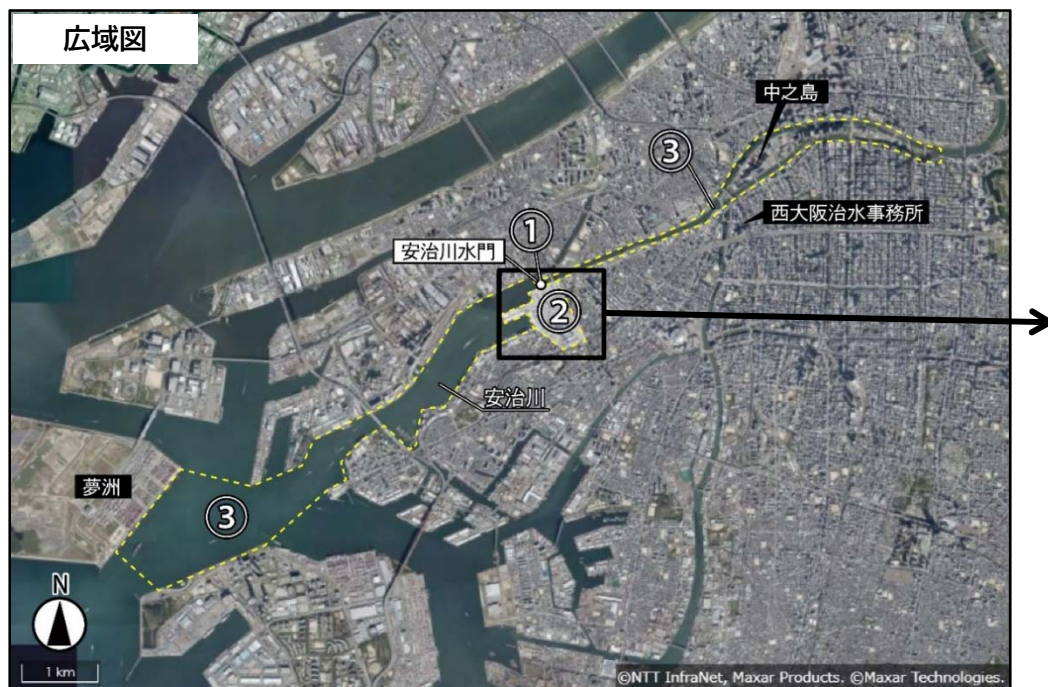
④ 新安治川水門および管理所敷地

⑤ 弁天町周辺エリア（弁天埠頭・オーク弁天商店街等）

⑥ 安治川水域（中之島～夢洲）

【注意事項】

- ・ 「① 新安治川水門および管理所敷地」については、具体的な水門デザインを含め、必ず提案に盛り込んで下さい。
- ・ 「② 弁天町周辺エリア（弁天埠頭・オーク弁天商店街等）」「③ 安治川水域（中之島～夢洲）」のエリアについても必ず提案に含めて下さい。ただし、②と③は、黄色の破線内全ての領域について提案する必要はありません（一部でも可）。
- ・ 「③ 安治川水域（中之島～夢洲）」には、護岸部も含まれます。



新安治川水門アイデアコンペ対象エリア（黄色破線内）

3. 応募資格

個人、グループ、企業など、どなたでも応募できます。国籍、年齢、保有資格などは問いません。

ただし、提出物は、日本語で作成の上、発表者は日本語でプレゼンテーションを実施して下さい。

4. 提案への要求事項

現安治川水門にかかわる地理、歴史、環境、文化、景観、暮らし、営み、地域資源などをよく読み取り、新たに建設する安治川水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観など新安治川水門とその周辺地域をより魅力的にするためのデザイン提案をして下さい。概ね、新安治川水門建設後（令和16年頃）から10～20年程度先の未来をイメージした提案をお願いします。

提案の切り口として以下のような着眼点が考えられますが、必ずしもこれらにこだわる必要はありません。現安治川水門、新安治川水門の形式や構造にとらわれない柔軟な発想で提案して下さい。

【着眼点】

- ・ 現安治川水門の治水上の役割を踏まえた上での新たな水門デザイン。高潮や津波からまちを守るといったハード面だけでなく、ランドマークとしての景観、観光振興を見据えた使い方、仕組み、制度などソフト面の活用等を促す提案。
- ・ 河川軸の魅力の抽出・創出、自然との共生、防災、水辺へのアクセス、住民プライバシーの確保等を促す提案。
- ・ 地域の活性化（個性あふれるまちづくり、地域資源の活用、水辺や河川と海をつなぐ回遊性の創出、人々のアクティビティの変化等）を促す提案。
- ・ 地域らしさの創出（地域のアイデンティティ、歴史、文化、伝統、暮らし、営み等）を促す提案。
- ・ 魅力ある景観の形成（癒しやくつろぎの空間、良好な水辺景観・夜間景観、かわとまちが一体となった都市空間づくり等）を促す提案。

【制約条件】

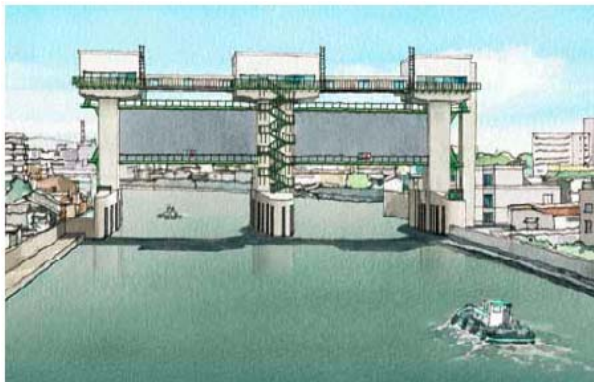
新たに建設する安治川水門の物理的な制約条件として、下記を前提とした提案として下さい。下記条件以外は、自由に設定いただいて結構です。提案内容の技術的担保は必ずしも求めません（参考データ参照）。

- ① 新安治川水門の整備予定位置の変更はできません。
- ② 河川の流水（洪水）、船舶の航行があるため、緊急時（津波や高潮時）以外には、河川の幅や深さを必要以上に狭めない構造として下さい。
（現状の川幅を大きく変化させる提案としないで下さい。通常時に必要とする河川幅や深さは新木津川水門完成イメージ（次頁に掲載）と同程度までとして下さい。）
- ③ 新たに建設する安治川水門の景観設計上のコンセプトおよび配慮すべき事項の参考とすることを目的としたものであり、提案内容の直接的な実現を前提とするものではないことから、水門の形式自体は制限しません。
- ④ ただし、緊急時（津波や高潮時）には水門を閉鎖することを想定したうえで、デザインを提案して下さい（なお、水門は、毎月1回、開閉の試運転を実施します）。
- ⑤ 水門本体だけでなく、管理所もあわせてデザインを提案して下さい。
新安治川水門の管理所整備予定位置は大阪府敷地内としますが、整備場所は指定しません。

※ 関連資料は、本コンペの公式ウェブサイト（<https://www.ajigawasuimon-compe.info/>）の「参考データ」欄をご覧ください。参加登録フォームにご登録いただいた応募代表者には、参考データのダウンロード方法をお知らせします。



新安治川水門の整備予定位置図



上流側より
新木津川水門の構造形式（完成イメージ①）



新木津川水門における水門閉鎖時（緊急時）のイメージ



下流側より
新木津川水門の構造形式（完成イメージ②）

新木津川水門は新安治川水門同様に更新を予定しており、現在検討が進められています。

検討内容の詳細に関しては、公式ウェブサイトに掲載の「参考データ」や、その他各種サイトでご確認下さい。

5. 提出物

提出物は、下記の要領で作成し、公式ウェブサイトより提出して下さい。

提出物は、本コンペ終了後に公式ウェブサイトにて公開いたします。

なお、本コンペは、土木学会継続教育（CPD）プログラムに認定されています。

ファイル形式	説明資料（.ppt、.pptx 形式） 説明を補足する動画データ（.mp4 形式）も提出可。 ※ 動画の提出は任意です。動画の提出がそのまま高評価に繋がるわけではありません。
ファイル名	整理番号（参加登録後に発行される 3 桁の数字）として下さい。
ファイルサイズ	50MB 以下を原則とします。 ※ 動画データ等が 50MB を大幅に超える場合は事務局へ事前にご相談下さい。
ページのサイズ	A4 横
ページ数	10～15 ページ以内（表紙ページは不要）
文字の大きさ	標準的な PC 画面で判読可能なレベル
画像解像度	同上
匿名性	審査は匿名で行いますので、応募作品中に、応募者が特定される情報（氏名、所属、マーク・記号等）は一切含めないようにして下さい。
その他	2 次審査に進んだ場合の新たな資料提出は不要です。1 次審査の際に提出いただいた資料と同じデータを用いてプレゼンテーションしていただきます。

6. スケジュール（予定）

- ・ 募集要項公表 2021 年 7月16日（金）
- ・ 質問受付期間
2021 年 7月16日（金）～ 2021 年 7月 30日（金）16:00 まで
- ・ 質問回答公表 2021 年 8月 6日（金）頃まで（順次回答）
- ・ 参加登録期間
2021 年 7月16日（金）～ **2021 年 8月 31日（火曜）16:00 まで**
- ・ 提案提出期間
2021 年 7月16日（金）～ 2021 年 9月 7日（火）16:00 まで
- ・ 1 次審査通過者発表 2021 年 9月下旬
※1 次審査通過者には、事務局より応募代表者にメール通知
- ・ 2 次審査・公開プレゼンテーション
2021 年 10月 18日（月）18:00～20:30
※1 次審査通過者を対象に実施
- ・ 結果発表 2021 年 11 月中旬予定（公式ウェブサイトにて発表）
- ・ 表彰式 開催日未定（結果発表日とは別日に表彰式を企画）

7. 賞

最優秀賞	賞状および賞金15万円（1作品）
優秀賞	賞状および賞金10万円（1作品）
奨励賞	賞状および賞金 3万円（3作品）
審査員特別賞	賞状（数作品）

8. 審査員

（50音順）

審査員	所属・役職
岩田 教之	公益財団法人 大阪府都市整備推進センター 理事長
久保田 善明	富山大学 学術研究部（都市デザイン学系）教授
澤井 健二	「私の水辺」推進協議会 副会長
山上 路生	京都大学大学院 工学研究科 准教授
重山 陽一郎	高知工科大学システム工学群大学院 工学研究科 教授
杉村 延広	大和大学 理工学部 教授（大阪府立大学 名誉教授）
武田 重昭	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授

9. 質問と回答

公式ウェブサイトにて質問を受け付けます（2021年7月30日（金）16:00まで）。

回答は、2021年8月6日（金）頃までに順次公式ウェブサイトに掲示します。

10. 参加登録

応募される代表者の方は、必ず事前に公式ウェブサイトの参加登録フォームより参加登録をして下さい（2021年8月31日（火）16:00まで）。なお、取得した個人情報は、本コンペに係る目的の範囲以外では一切使用しません。

参加登録フォームにご登録いただいた応募代表者には、整理番号および参考データのダウンロード方法をお知らせします。なお、ダウンロードしたデータを本コンペ以外の目的には使用しないで下さい。

11. 提案資料の提出

参加登録フォームにご登録いただいた応募代表者には、別途提案資料の提出先をお知らせします。その際、Google ドライブを用いるため、Google アカウントを作成いただく必要があります。参加登録フォームにも記載していますのでご確認ください（提出は2021年9月7日（火）16:00まで）。

12. 審査

【1次審査】

- ・ 審査は応募者を匿名に行います。
- ・ 提出された資料にもとづき審査します。
- ・ 審査は、審査委員会を開催（非公表）し、1次審査通過者を決定します。
- ・ 事務局より1次審査通過者には、応募代表者にメールで通知します。
- ・ 1次審査通過者は5～8チーム程度とします（応募総数により変動する可能性があります）。

【審査項目の配点】

① 新安治川水門および管理所敷地	50 点
② 弁天町周辺エリア（弁天埠頭・オーク弁天商店街等）	25 点
③ 安治川水域（中之島～夢洲）	25 点

【2次審査】

- ・ 審査は応募者を匿名に行います。
- ・ プレゼンテーションと質疑応答をオンラインで行い、その内容にもとづき審査します。
- ・ プレゼンテーションは 10 分間（厳守）、質疑応答は 3 分間（厳守）とします。
- ・ プレゼンテーションは、応募作品（提出いただいたものと同じファイル）をオンラインで画面共有して実施いただきます（操作は発表者自身でお願いします）。
- ・ それ以外の資料を用いることはできません。
- ・ ただし、発表時にページ順の入れ替えや拡大縮小、動画の再生タイミングの変更は可とします。BGM・音声は不可とします。

- ・ 複数名で発表しても構いません。質疑応答は、発表資料を画面共有したままでも、画面共有を停止して発表者の顔等を写した状態に戻しても、どちらでも構いません。発表者自身で操作して下さい。
- ・ 審査会前に接続確認および発表資料の動作確認を行います（後日連絡）。
- ・ 発表者の責による発表時のトラブル（操作ミス、埋め込みデータの動作トラブル、接続トラブル、通信障害、ハウリング、周囲の騒音、画面フリーズ等）は、発表者の自己責任とさせていただきます。
- ・ 接続方法（招待 URL 等）については、事前に応募代表者にメールで通知します。
- ・ 審査は、すべてのプレゼンテーションと質疑応答の終了後、審査委員会をオンラインで開催（非公表）し、授賞者を決定します。

【審査項目の配点】

① 新安治川水門および管理所敷地	50 点
② 弁天町周辺エリア（弁天埠頭・オーク弁天商店街等）	25 点
③ 安治川水域（中之島～夢洲）	25 点
④ プレゼンテーションの分かり易さ	20 点

【公開プレゼンテーション】

- ・ プレゼンテーションと質疑応答の様子は、YouTube Live で一般公開（同時中継）する予定です。詳細は公式ウェブサイトにてお知らせします。

公開プレゼンテーション 2021 年 10月18日（月）18:00～20:30

18:00～ 18:10 開会の挨拶

18:10～ 20:10 2次審査

20:10～ 20:20 審査員講評

20:30 閉会

※ 時間等に変更になる可能性があります。予めご了承下さい。

※ 審査員による選考過程の公開はいたしません。

13. 結果発表

1次審査の結果は、事務局より1次審査通過者に、応募代表者にメールで通知します。

2次審査の結果は、審査員の講評とともに、公式ウェブサイトにて発表します。

※ 結果発表日とは別日に表彰式を実施する予定です。

14. 失格事項

応募者が次のいずれかに該当する場合は失格とします。賞を決定した後に、該当が判明した場合も同様に失格とし、表彰を取り消したうえで、賞金の返還を求める場合があります。

- ・ 提出方法、提出先、提出期限が守られていない場合。
- ・ 応募作品中に、応募者が特定できる情報（氏名、所属、マーク・記号等）が含まれていた場合。
- ・ 審査の公平性に影響のある行為（審査員への不正な働きかけ等）が認められた場合。
- ・ 応募代表者およびメンバーが反社会的勢力と関係を有すると認められた場合。

15. 著作権および応募作品の取り扱い

- ・ 応募作品は未発表かつ自作のものに限ります。
- ・ 応募作品に対する著作権(著作権法(昭和 45 年 5 月 6 日 法律第 48 号) 第 21 条 から第 28 条までに規定する権利)は、応募者に帰属するものとしします。ただし、本コンペの主催者および後援者が、応募作品の結果通知や広報、作品集、あるいは関連事業の設計検討に用いる等の目的に使用することについて、応募者は許諾するものとしします。その際、応募作品を部分的に使用、又はレイアウトを変更して使用することがありますので、予めご了承ください。
- ・ 応募作品に表現された具体的デザインは著作権法が定める著作物に該当しますが、デザインの考え方やアイデアそれ自体は一般に著作物には該当しません。したがって、本コンペの主催者が、応募作品の考え方やアイデアを応募者に伝えることなく関連事業の検討や設計の参考としたり用いたりする可能性がありますことを予めご了承ください。
- ・ 表彰された作品が第三者の知的財産権を侵す場合、その他本要項の規定に違反していることが判明した場合は、表彰後であっても、決定を取り消したうえで、賞金の返還を求める場合があります。また、類似内容と認められる場合も同様に取り消す場合があります。なお、第三者の知的財産権を侵したことに伴い発生した紛争、損害等については、全て応募者が責任を負うものとし、主催者、協賛者および後援者は一切の責任を負いません。
- ・ 応募作品については、大阪府や関係市区の広報誌やウェブサイト等に公開される可能性があります。
- ・ 応募者は応募データを提出した時点で本要項に同意したものとみなします。十分なご理解の上で応募して下さい。

16. 土木学会継続教育（CPD）プログラム

本コンペは、土木学会継続教育（CPD）プログラムに認定されています。土木学会の規定に基づき、申請により、以下の CPD 単位が付与されます。

- ・ 応募：「査読のない一般論文」と同等に扱い、1 チームで合計 10.0 ポイント
- ・ 口頭発表：「論文等の口頭発表」と同等に扱い、発表者は $0.4 \times M$ (分) ポイント
- ・ 公開プレゼンテーション聴講※：「講習会」と同等に扱い、2.0 ポイント

※ 公開プレゼンテーションは、YouTube Live にて一般公開(中継)します。中継途中にアンケート(記名式)の URL を表示しますので、中継終了後 3 日以内(2021 年 10 月 21 日(木)まで)に URL にアクセスいただき、アンケートにご回答下さい。回答者に受講証明書をお送りします。

新安治川水門アイデアコンペ（一般の部）
募集要項

■発行：2021（令和3）年7月14日

改訂：2021（令和3）年8月5日

■主催：「新安治川水門アイデアコンペ・絵画コンクール」実行委員会
[構成員]

大阪府西大阪治水事務所、大阪府河川室河川整備課、
「私の水辺」推進協議会、公益財団法人 大阪府都市整備推進センター

■協賛：一般財団法人 都市技術センター

■後援：土木学会 建設マネジメント委員会 公共デザインコンペティション研究小委員会

■事務局：〒550-0006 大阪府大阪市西区江之子島2丁目1-64
大阪府西大阪治水事務所 企画防災グループ内
「新安治川水門アイデアコンペ・絵画コンクール」実行委員会
E-mail：ajigawa.wg.compe2021@gmail.com



本コンペは、土木学会継続教育（CPD）に認定されています。



このロゴマークは、土木学会建設マネジメント委員会が発行する『土木設計競技ガイドライン・同解説+資料編』に本コンペが準拠していることを表しています。

新安治川水門アイデアコンペ（一般の部）
応募作品集

2021/12

発行：「新安治川水門アイデアコンペ・絵画コンクール」実行委員会

